

沼津工業高等専門学校

運営諮問会議報告書

平成27年3月

沼津工業高等専門学校
運営諮問会議

沼津工業高等専門学校

運営諮問会議報告書

(平成26年度)

— 平成25年度年度計画自己点検評価の検証／平成26年度年度計画 —

平成27年3月

沼津工業高等専門学校
運営諮問会議

沼津工業高等専門学校

運営諮問会議報告書

(平成26年度)

— 平成25年度年度計画自己点検評価の検証／平成26年度年度計画 —

平成27年3月

沼津工業高等専門学校
運営諮問会議

目 次

I. はじめに	1
II. 沼津工業高等専門学校運営諮問会議規則	3
III. 沼津工業高等専門学校運営諮問会議委員名簿	7
IV. 概要説明	
1. 沼津工業高等専門学校概要 (Power Point 資料)	11
V. 審議事項	
1. 平成25年度年度計画 自己点検評価	
1) 平成25年度 年度計画 自己点検評価表	45
2) 平成25年度 年度計画 評価シート意見対応表	55
2. 平成26年度年度計画について	
1) 沼津工業高等専門学校 平成26年度 年度計画	67
2) 平成26年度 年度計画意見表	77
VI. 平成26年度 沼津工業高等専門学校 運営諮問会議議事要旨	85
(平成26年7月24日 (木) 本校3F大会議室)	

I. はじめに

独立行政法人国立高等専門学校機構
沼津工業高等専門学校長 柳下福蔵

中学校を卒業した15歳の入学生に、実験実習・演習を重視して低学年から専門教科を楔型に組み込んで技術・知識を体験的に実質化する高専教育は、世界的にも類を見ないユニークな教育システムであり、本校がこれまでに輩出した8000余名の卒業生・専攻科修了生は産業界及び大学・大学院等において高く評価されています。

(独)国立高等専門学校機構は、平成20年12月に公表された中央教育審議会答申「高等専門学校教育の充実について」に基づいて「高専の高度化」を柱とする第二期中期目標・中期計画を策定し平成21年6月に公表しました。第三期の初年度に当る本年度、本校は、産業構造の変化や地域のニーズに対応するための7年一貫の新教育課程に基づいて、本科は平成24年度から専攻科は本年度から具体的な教育改革を進めているところであります。

以前より、(独)大学評価・学位授与機構による機関別認証評価や日本技術者教育認定機構(JABEE)による教育プログラムの審査などの第三者評価を受審し、教育内容・方法や学校運営の改善に努めてまいりましたが、平成21年度からは本校の教育、研究、学生支援及び管理運営等全般にわたるPDCA(計画・実行・検査・改善)サイクルを一層適切に進めるために、大学、産業界及び教育・行政機関等の地域有識者からなる「沼津工業高等専門学校運営諮問会議」を発足し、継続的に本校の中期計画及び年度計画に対して諮問を受ける体制を整えました。過日開催された同会議において、平成25年度自己点検評価の検証及び平成26年度「年度計画」を主題とし、特に、本校の高度化に向けた新教育課程による7年一貫の技術者教育について貴重なご意見が寄せられ、平成26年度「年度計画」に反映させたところであります。

本校は、平成24年度に受審した(独)大学評価・学位授与機構による機関別認証評価において、おしなべて高い評価を受けましたが、特に「評価基準9 教育の質の向上及び改善のためのシステム」に対して「運営諮問会議等の評価結果を、業務改善運営ループに従い総務委員会が、担当部局に改善の指示を行い、外部有識者の意見をも取り入れ社会経済環境の変化に対応して、医療・福祉分野、環境・エネルギー分野、新機能材料分野の学際教育を行う『新教育課程(案)―混合学級と学際教育の導入―』を策定し、教育課程の改訂に結びつけている。」との高い評価を受け、その実質化に向けて本科は平成24年度から専攻科は本年度から7年一貫の新教育課程を粛々と進めているところであります。

本校の教育改革が実現できたのは、運営諮問会議での議論や提言を頂戴しての賜物であり、運営諮問会議委員の皆様には変わらぬご支援・ご鞭撻をお願い申し上げる次第です。

平成21年度から5年間実施した「富士山麓医用機器開発エンジニア養成プログラム(F-met)」事業が文部科学省の事後評価で最高の「S」と評価されたことをお知らせします。

沼津工業高等専門学校
運営諮問会議規則

沼津工業高等専門学校運営諮問会議規則

(設置)

第1条 沼津工業高等専門学校（以下「本校」という。）に本校以外の有識者による沼津工業高等専門学校運営諮問会議（以下「諮問会議」という。）を置く。

(目的)

第2条 諮問会議は、本校の学校運営全般について、指導及び助言を行い、本校の健全な学校運営を支援することを目的とする。

(任務)

第3条 諮問会議は、次の各号に掲げる事項について、校長の諮問に応じて審議し、及び校長に対して助言を行うものとする。

- (1) 本校の中期目標、中期計画及び年度計画に関する重要事項
- (2) 本校の教育及び研究活動に関する重要事項
- (3) その他、本校の運営に関する重要事項

(組織)

第4条 諮問会議の委員は、人格識見が高く、かつ、本校の振興発展に関心と理解のある学外有識者で、次の各号に掲げる者のうちから、校長が委嘱する委員をもって組織する。

- (1) 大学等高等教育機関の関係者
- (2) 産業・経済界の関係者
- (3) 本校が所在する地域の関係者
- (4) 本校の支援団体等の関係者

2 諮問会議は、必要と認めるときは、委員以外の者の出席を求め意見を聴くことができる。

(議長)

第5条 諮問会議に議長を置き、その議長は委員の互選をもって充てる。

- 2 議長は、諮問会議の会務を総括する。
- 3 議長に支障があるときは、あらかじめ議長が指名した委員が職務を代行する。

(任期)

第6条 委員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

- 2 前項の委員に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(事務)

第7条 諮問会議の事務は、総務課において処理する。

(雑則)

第8条 この規則に定めるもののほか、諮問会議の運営に関し必要な事項は、諮問会議が別に定めるものとする。

附 則

1. この規則は、平成21年4月1日から施行する。
2. この規則の施行後、最初に委嘱された委員の任期は、第6条第1項の規定に係わらず平成23年3月31日までとする。

沼津工業高等専門学校
運営諮問会議委員

平成26年度 沼津高専運営諮問会議委員

氏名	現職	規則根拠
とうごう けいいちろう	静岡大学副学長 (評価担当)	規則第4条第1項第1号委員
東郷 敬一郎		
わかはら あきひろ	豊橋技術科学大学 (高専連携アドバイザー)	規則第4条第1項第1号委員
若原 昭浩		
みつはま げんいち	富士通株式会社 沼津工場長	規則第4条第1項第2号委員
三津浜 元一		
まさき としふみ	株式会社 明電舎 沼津事業所長	規則第4条第1項第2号委員
真崎 俊文		
くどう たつろう	沼津市教育委員会 教育長	規則第4条第1項第3号委員
工藤 達朗		
おおかわ あつし	沼津市立門池中学校 校長	規則第4条第1項第3号委員
大川 淳		
すずき かずひろ	沼津工業高等専門学校 教育後援会会長	規則第4条第1項第4号委員
鈴木 一洋		
むらまつ まさとし	沼津工業高等専門学校 同窓会 常任理事	規則第4条第1項第4号委員
村松 正敏		

沼津工業高等専門学校概要

沼津高専の概要



平成26年7月24日(木)

沼津高専の沿革

- ・昭和37年(1962年) 機械工学科2学級、電気工学科1学級が設置
- ・昭和41年(1966年) 工業化学科1学級が設置
- ・昭和51年(1976年) 第4学年への編入学を認めた、情報処理教育センターが設置
- ・昭和61年(1986年) 電子制御工学科1学級が設置
- ・平成元年(1989年) 工業化学科が物質工学科に改組
- ・平成 4年(1992年) 機械工学科(2学級)が機械工学科(1学級)と制御情報工学科(1学級)に改組
- ・平成 8年(1996年) 専攻科(3専攻)が設置
- ・平成11年(1999年) 電気工学科が電気電子工学科に改組
- ・平成16年(2004年) 地域共同テクノセンターが設置
独立行政法人国立高等専門学校機構に帰属
- ・平成17年(2005年) 情報処理教育センターが総合情報センターに
- ・平成19年(2007年) 編入学を第3学年または第4学年編入学に
- ・平成21年(2009年) 東工大、静大と教育研究交流協定締結
- ・平成23年(2011年) 豊橋技科大と教育研究交流協定締結
- ・平成23年(2011年) 沼津市、静岡医療センターと連携
- ・平成24年(2012年) 新カリキュラム(学際教育)スタート
創立50周年記念式典挙
静岡県と連携に関する協定締結
- ・平成26年(2014年) 新専攻科・総合システム工学専攻3コースがスタート

学校概要



所在地 静岡県沼津大岡3600 専攻科 機械・電気システム工学専攻
 創立 昭和37年4月1日 制御・情報システム工学専攻
 学科 機械工学科 応用物質工学専攻
 電気電子工学科 学生総数 1,086名
 電子制御工学科 施設 敷地 89,598㎡
 制御情報工学科 建物 36,017㎡
 物質工学科
 教養科

学校長 柳下 福藏

教員 81名 事務系職員 33名
 博士 56名 技術系職員 13名
 修士 20名
 学士 9名
 短大 1名 【平成26年5月1日現在】

収入・支出決算額(平成25年度)

区分(千円)		
収入	運営費交付金	107,028
	設備交付金	592,563
	自己収入(授業料・入学科等)	307,077
	産学連携等研究収入	24,108
	寄付金収入 その他補助金	13,046 202,086
合計		1,245,908
支出	業務費(教育研究経費・支援経)	308,432
	業務費(一般管理費)	121,403
	施設整備費	592,563
	産学連携等研究経費	21,118
	寄附金事業費 その他補助金	27,423 202,086
合計		1,273,025

認証評価・外部評価 等

平成16年度 日本技術者教育認定機構
(JABEE)認定

「総合システム工学分野」(4・5学年+専攻科)

平成17年度 (独)大学評価・学位授与機構
「機関別認証評価」

外部評価「実技科目
(実験・実習・演習など)」

平成18年度 JABEEの中間審査

専攻科定時審査(7年毎)

外部評価「コミュニケーション
・プレゼンテーション能力育成」
外部評価「工学基礎教育」
運営諮問会議

平成19・20年度
平成21年度

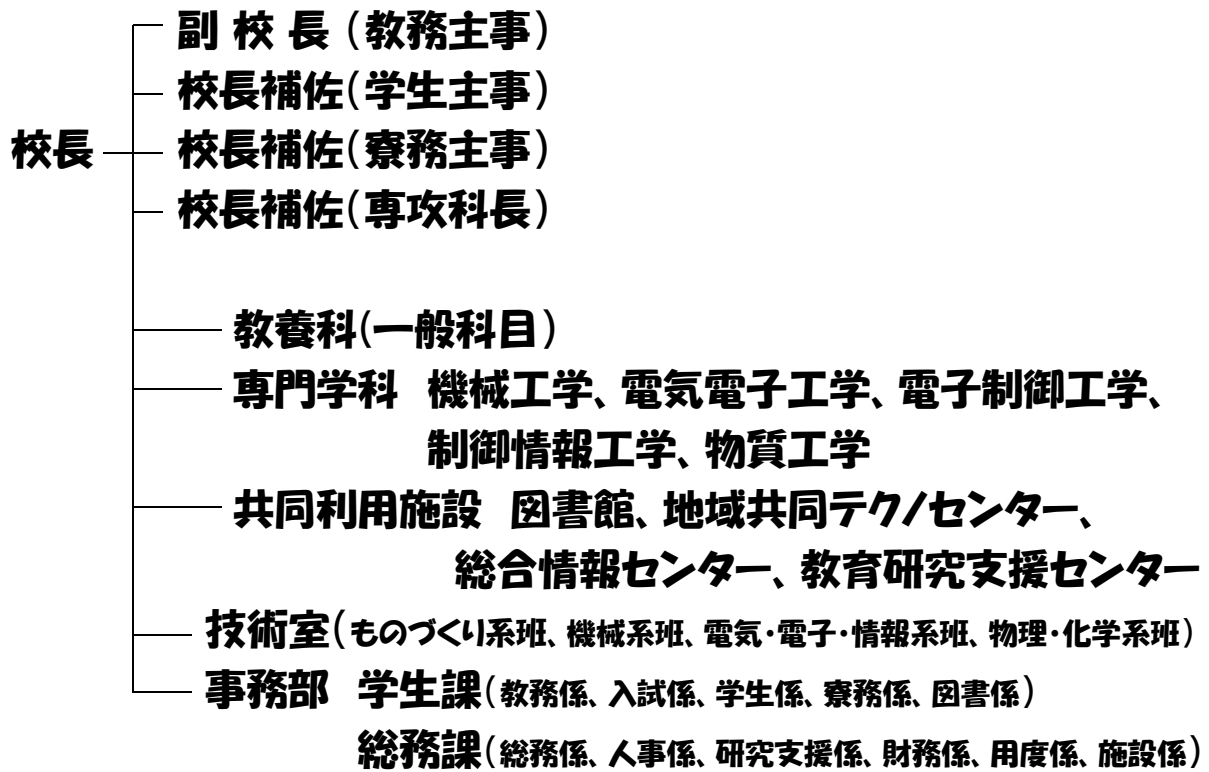
JABEEの継続審査
(平成26年度まで認定)

平成22年度
平成23年度
平成24年度
平成25年度
平成26年度

「機関別認証評価」

運営諮問会議
運営諮問会議
運営諮問会議
運営諮問会議
運営諮問会議

平成25年度からの組織の改変



教育理念

人柄のよい優秀な技術者とな
って世の期待にこたえよ

教 育 方 針

- ・ 低学年全寮制を主軸とするカレッジライフを通じて、全人教育を行う。
- ・ コミュニケーション能力に優れた国際感覚豊かな技術者の養成を行う。
- ・ 実験・実習及び情報技術を重視し、社会の要請に応える実践的技術者の養成を行う。
- ・ 教員の活発な研究活動を背景に、創造的な技術者の養成を行う。

学 習 ・ 教 育 目 標

沼津高専は、学生が以下の能力、態度、姿勢を身につけることを目標とする。

- ・ 技術者の社会的役割と責任を自覚する態度
- ・ 自然科学の成果を社会の要請に応じて応用する能力
- ・ 工学技術の専門的知識を創造的に活用する能力
- ・ 豊かな国際感覚とコミュニケーション能力
- ・ 実践的技術者として計画的に自己研鑽を継続する姿勢

養成すべき人材像

社会から信頼される、指導力
のある実践的技術者

学生受入れ方針（アドミッションポリシー）

- 科学技術に興味を持ち、入学後の学習に対応できる基礎学力を身に付けている人
- 自ら学習し、科学技術の知識を用いて社会に貢献する意思のある人
- 科学技術の社会的役割と技術者の責任について考えることができる人
- 他人の言うことをよく聞き、自分の意見をはっきりと言える人

平成24年度入学生より
沼津高専は新しい教育カリキュラムを導入しました

—混合学級と学際教育の導入—

目的 環境・エネルギー、新機能材料、医療・福祉分野を重視する近年の産業構造の変化に対応できるエンジニアを育成

- 具体策
- ・低学年 ⇒ 従来からの専門導入基礎実験に加えて他分野の基礎実験実習を体験できるよう混合学級編成を導入
 - ・高学年 ⇒ 所属学科の基盤科目と並行して学際分野の科目を受講できるよう教育課程を改定



新教育課程—混合学級と学際教育の導入— の実施状況

1学年 混合学級

工学基礎Ⅰ(座学) 1単位 通年

工学基礎Ⅱ(実験・実習) 2単位 通年

第1期 機械・電気・情報・化学・ものづくり、5分野(10週)

第2期 機械・電気・情報・化学・ものづくり、5分野(10週)

第3期 PBL実験・実習「メカトロ・ダーツ」(10週)

2学年 ミニ研究 1単位(前期に実施)

9月27日(金) 公開発表会を実施

教育課程の学年別構成 (機械工学科の場合)

楔型教育カリキュラムの内訳 (総開講単位数：174単位)

学年	10			20			30 単位		
1年	数 学	物 理	化 学	(他の一般科目)			工学基礎	実習・製図	
2年	数 学	物 理	化 学	(他の一般科目)			ミニ研究	実習・製図	
3年	数 学	(他の一般科目)			学際科目	応物	実習・製図		
4年	(一般科目)	学際科目	応用数学	応物	実験・演習 製図		専門科目		
5年	(一般科目)	学際科目	卒業研究		実験・演習 製図				

卒業認定修得単位数：167単位以上

(一般科目：75単位以上、専門科目：82単位以上)

学際科目：医療・福祉(2単位)、環境・エネルギー(2単位)

新機能材料(2単位)

工学基礎Ⅰ（座学） 1単位 通年

- ・ 全1年生(216名)を3分割し、3箇所の教室で同時に授業を実施(3名の教員が授業担当)
- ・ 授業内容は以下の通り(抜粋)

押川 安全教育(薬品・火気・事故対応・知的財産基礎)

勝山 高専の勉強の仕方・ノートの重要性・報告書の書き方・誤差と有効数字・地球環境(ゴミの分別と排水)

遠山 電流計・電圧計の使い方・電卓の使い方・SI単位とJIS規格

工学基礎Ⅰ（1単位 通年、座学の様子）



工学基礎II(実験・実習) 2単位 通年

- 混合学級5クラスが、5分野(機械系・電気系・情報系・化学系・ものづくり系)の専門基礎実験・実習をローテーションで学習

第1期 5分野を各2週 10週

第2期 5分野を各2週 10週

第3期 PBL実験・実習「メカトロ・ダーツ」10週

- 指導者: 各専門学科の教員2名(計10名)と、各分野に1名の技術職員(計5名)

工学基礎II:第1期(11週)のスケジュール

クラス・実施時期	4月	5月	5・6月	6月	7月	7月
1-1組	機械系分野 正しいネジの使い方	電気系分野 抵抗の測定	情報系分野 計測と誤差	化学系分野 食品成分の検出	ものづくり分野 モーターの分解	
1-2組	電気系分野 抵抗の測定	情報系分野 計測と誤差	化学系分野 食品成分の検出	ものづくり分野 モーターの分解	機械系分野 正しいネジの使い方	まとめ
1-3組	情報系分野 計測と誤差	化学系分野 食品成分の検出	ものづくり分野 モーターの分解	機械系分野 正しいネジの使い方	電気系分野 抵抗の測定	
1-4組	化学系分野 食品成分の検出	ものづくり分野 モーターの分解	機械系分野 正しいネジの使い方	電気系分野 抵抗の測定	情報系分野 計測と誤差	
1-5組	ものづくり分野 モーターの分解	機械系分野 正しいネジの使い方	電気系分野 抵抗の測定	情報系分野 計測と誤差	化学系分野 食品成分の検出	

工学基礎 II : 第2期(10週)のスケジュール

クラス・実施時期	7・8月	9月	10月	10月	11月
1-1組	機械系分野 スターリングエンジン	電気系分野 コヒーラ	情報系分野 プログラミング	化学系分野 化学電池の作成	ものづくり分野 レゴロボット製作
1-2組	電気系分野 コヒーラ	情報系分野 プログラミング	化学系分野 化学電池の作成	ものづくり分野 レゴロボット製作	機械系分野 スターリングエンジン
1-3組	情報系分野 プログラミング	化学系分野 化学電池の作成	ものづくり分野 レゴロボット製作	機械系分野 スターリングエンジン	電気系分野 コヒーラ
1-4組	化学系分野 化学電池の作成	ものづくり分野 レゴロボット製作	機械系分野 スターリングエンジン	電気系分野 コヒーラ	情報系分野 プログラミング
1-5組	ものづくり分野 レゴロボット製作	機械系分野 スターリングエンジン	電気系分野 コヒーラ	情報系分野 プログラミング	化学系分野 化学電池の作成

工学基礎 II (第2期) の実験の様子



化学系分野 化学電池の製作



情報系分野 プログラミング

工学基礎II(第2期)実験の様子



機械系分野
スターリングエンジン



ものづくり系分野
レゴロボット製作

工学基礎II(第2期)実験の様子



電気系分野 コヒーラ実験
各班創造性を生かしたアンテナを製作



電気系分野
コヒーラ実験



LED点灯

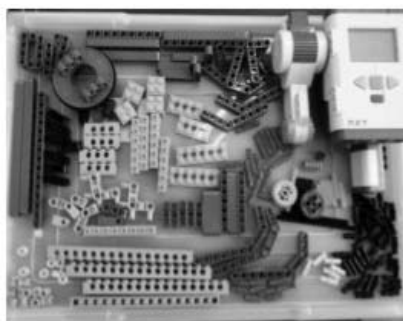
工学基礎 II : 第3期(9週)のPBL実験のスケジュール

クラス・実施時期	11月	12月	12月	12月	1月	1月	1月	1月	2月
1-1組	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7	P8	まとめ
1-2組									
1-3組	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7	P8	
1-4組									
1-5組									

P1: ガイダンス(競技説明)
 P2: 標準機の組み立てとルール説明
 P3: アイデア出しと提案書作成
 P4: 班別作業①
 P5: 班別作業②
 P6: 班別作業③
 P7: 班別作業④
 P8: 競技会

工学基礎 II (第3期) PBL教育の取り組み準備

(第3期)は(第1期)と(第2期)の基礎実験を踏まえて、レゴブロックによるダーツを製作するPBL教育。指導する教員と技術職員は学科と専門性を越えて指導しなければならない。



レゴブロック



ダーツ

工学基礎 II (第3期) PBL教育のための の教職員への講習会の様子

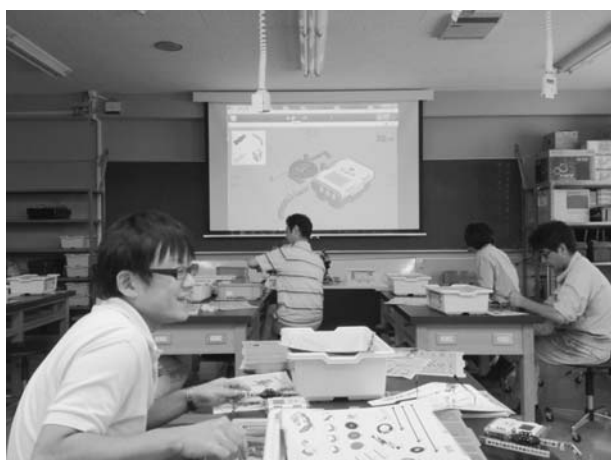


教員に対するレゴと歯車に関する講習



同講習会への技術職員の積極的参加

工学基礎 II (第3期) PBL教育のための 指導教員・技術職員への講習の様子

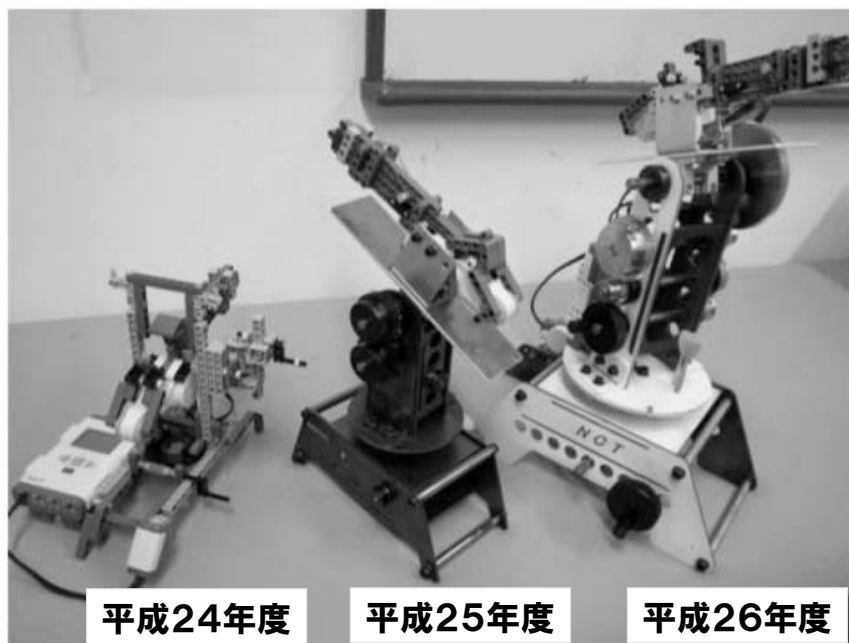


レゴ制御のプログラミング



プログラミングの講義

工学基礎II(第3期)PBL教育の目標とする作品



各年度の目標とするダーツ作品

2学年 ミニ研究(1単位) 前期に実施

【全教員を指導教員とするPBL教育】

学科を越えた学生2~3人でチームを編成し、各チームに課題を与えて、
実施計画→下調べ→研究調査・実験→まとめと成果発表
までの一連の手順を学生自らが企画・実行する。
教員はこれをサポートする。

【ミニ研究の目的】

- ① 学ぶことの楽しさを体験する。
- ② 自律的に学習する姿勢を養う。
- ③ プレゼンテーションまでの一連のプロセスを経験する。
- ④ 活動内容を第三者に伝える。

ミニ研究は教員指導型ではなく、学生自らが調査・研究を行い、ものづくりは自ら考案工夫すること。また、アカデミックな内容に偏らないこと。
成績評価：主査+副査(2名)の3名の教員

ミニ研究テーマ (全72テーマから抜粋)

テーマ名*	指導教員
化学振動で新発見しよう!	D科 江上
ブルーギル釣りを科学する	C科 後藤
流体の特性を学ぶアイデア実験器具の製作	S科 大島
ドキ☆ドキ寮のお風呂大調査!!	C科 藁科
新しい文房具を創作してみよう	C科 押川
超音波で診る	教養科 勝山
・ ・ ・	
ゴミ分別をの方法を工学的に検討する	D科 遠山

*全72テーマ中、教員・学生・保護者を含めた投票によるベストポスター賞該当研究テーマ

ミニ研究の様子



♪和音を出す風鈴

ロボカップジュニアに出場しよう



ミニ研究 発表会の様子 (9/27)



ミニ研究発表会全体の風景



保護者も参観

【平成25年まで】 3専攻（定員20名）

機械・電気システム専攻

制御・情報システム工学専攻

応用物質工学専攻

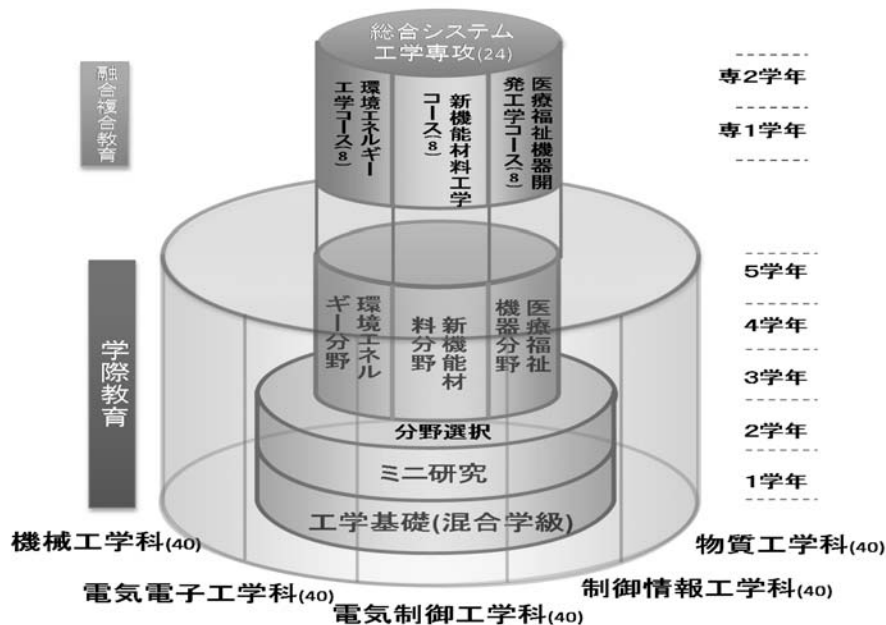


【改編後】 1専攻3コース 平成26年度より
総合システム工学専攻（定員24名）

環境エネルギー工学コース	13名
新機能材料工学コース	11名
医療福祉機器開発工学コース	22名

沼津高専7年一貫教育(本科・学際教育と専攻科の連続性)

沼津高専 学際教育・専攻科コース制概要



学生寮 現員554名(留学生6名を含む)

男子479名、女子75名 【平成26年5月1日現在】



「
翔
峰
寮
」

- 低学年全寮制
- 寮生会による自治運営

学生寮

平成26年4月1日現在
在寮生 554人
男子 479人、女子 75人
(男子寮6棟、女子寮1棟)



談話室風景

寮の食事風景



マテカ (寮生会主催の勉強会)



教育研究支援センター

医用機器開発分野

医用機器開発実験室Ⅰ

自動解析心電図、超音波診断装置
体外循環回路、エリブソメータ(薄膜計)
筋電図・誘発電位検査装置、
平板試料ゼータ電位測定システム

医用機器開発実験室Ⅱ

重心動揺計システム、病室設備機器
モーションキャプチャーシステム
医療機器教材

計測・分析分野

レーザーラマン分光装置、走査型電子
顕微鏡、高性能CNC三次元測定機、
万能投影機

ものづくり教育分野

ものづくり創造工房エリア

レーザー加工機、溶接節義、
手仕上げ加工設備、プレス加工機

鋳鍛造エリア

鋳造設備、鍛造設備

工作機械室

マシニングセンタ、CNC旋盤、
ワイヤ放電加工機、旋盤(11台)、
フライス盤(2台)、平面研削盤、
円筒研削盤、横中ぐり盤、
ボール盤(3台)

医用機器開発分野



筋電図・誘発電位検査装置

神経筋疾患の補助診断法のひとつである「筋電図」と、視覚や聴覚、末梢の知覚神経を刺激し、刺激することで現れる脳波に混じっている波形を調べる「誘発電位」を検査するための装置



対外循環回路(人工心肺装置)

心疾患患者の開胸手術中に心臓と肺の代行を行う体外循環用装置

計測・分析分野



核磁気共鳴装置

9.4テスラの超電導磁石が作る強力な磁場の中に試料を配置し、ラジオ波を照射して分析を行う。液体、固体を問わず有機分子や無機化合物の構造や運動に関する情報を入手することができる装置



ゼータ電位・粒子径・分子量測定装置

溶媒に分散した粒子の粒子径(直径0.3nm-10.0 μ m)、ゼータ電位(直径3.8nm-100 μ mの粒子)、分子量(980Da-20MDa)を測定できる装置

ものづくり教育分野



全学科の学生が
ものづくり実習を体験



安全には特別の配慮



第1演習室

総合情報センター

第2演習室



図書館



学生の福利厚生施設



尚友会館

- 食堂
- 理容室
- 売店

学生支援ゾーン

- 学生課事務室
- 保健室
- カウンセリング室
- 学生生活支援室
- 学生キャリア支援室





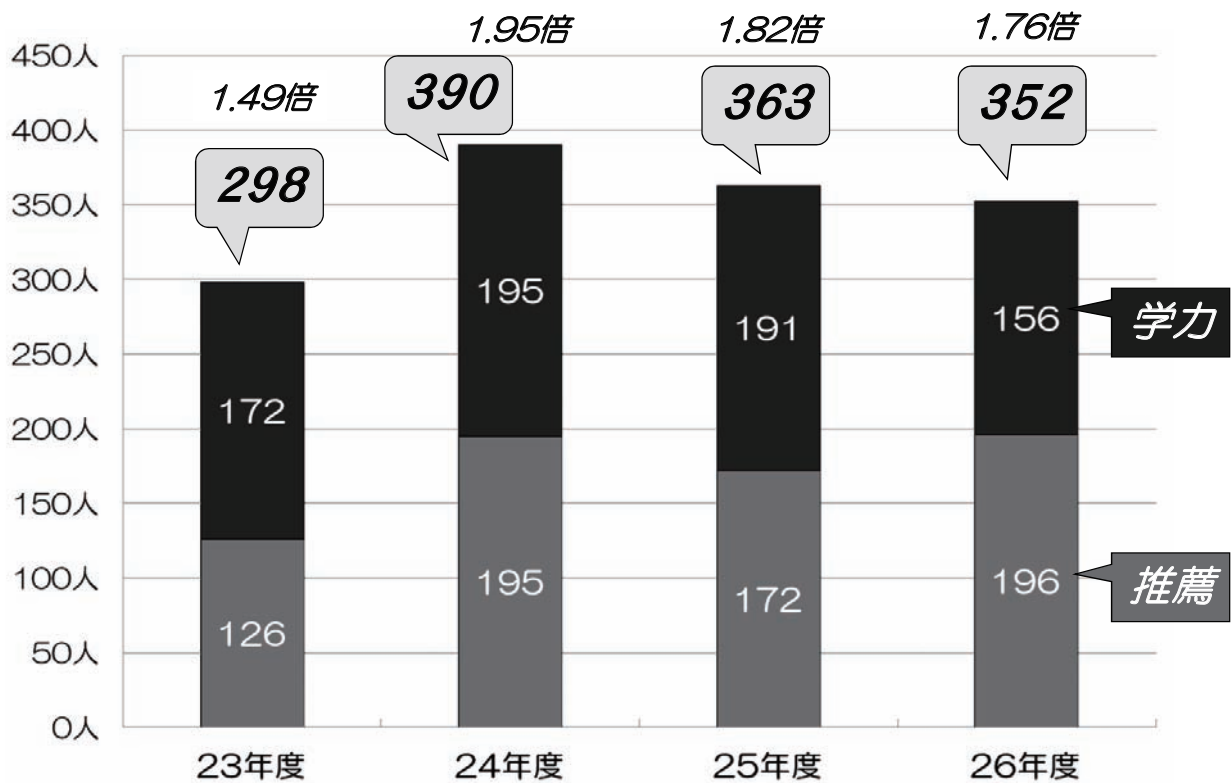
武道場

弓道場

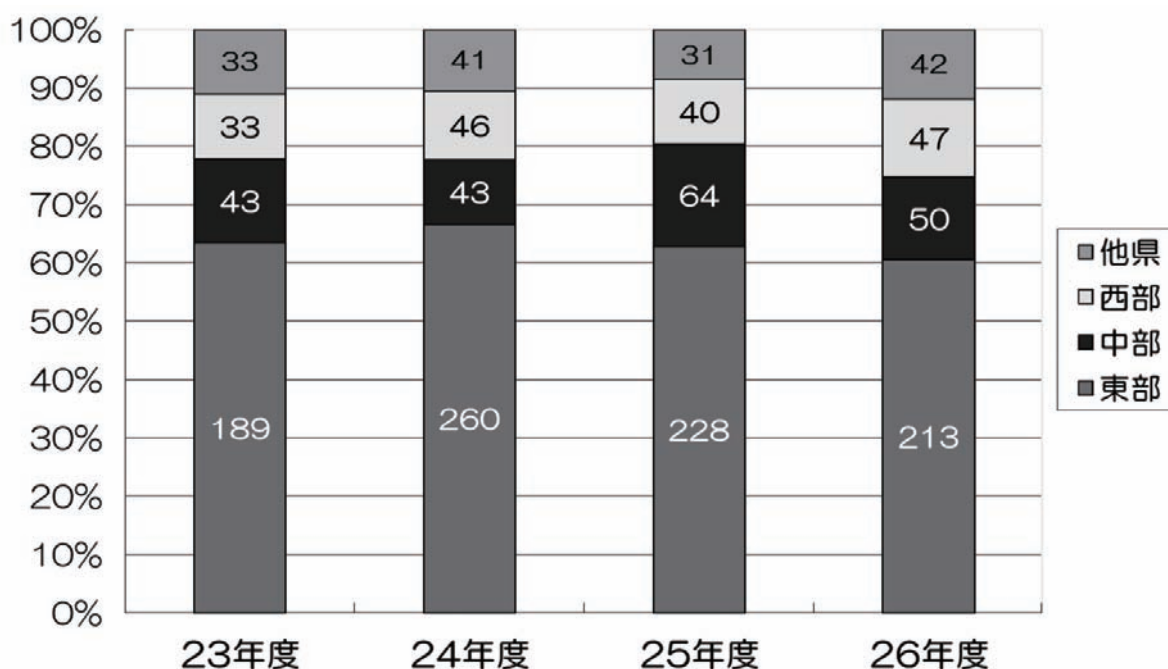


プール

志願者状況 (23~26年度)



志願者地区別割合（23～26年度）



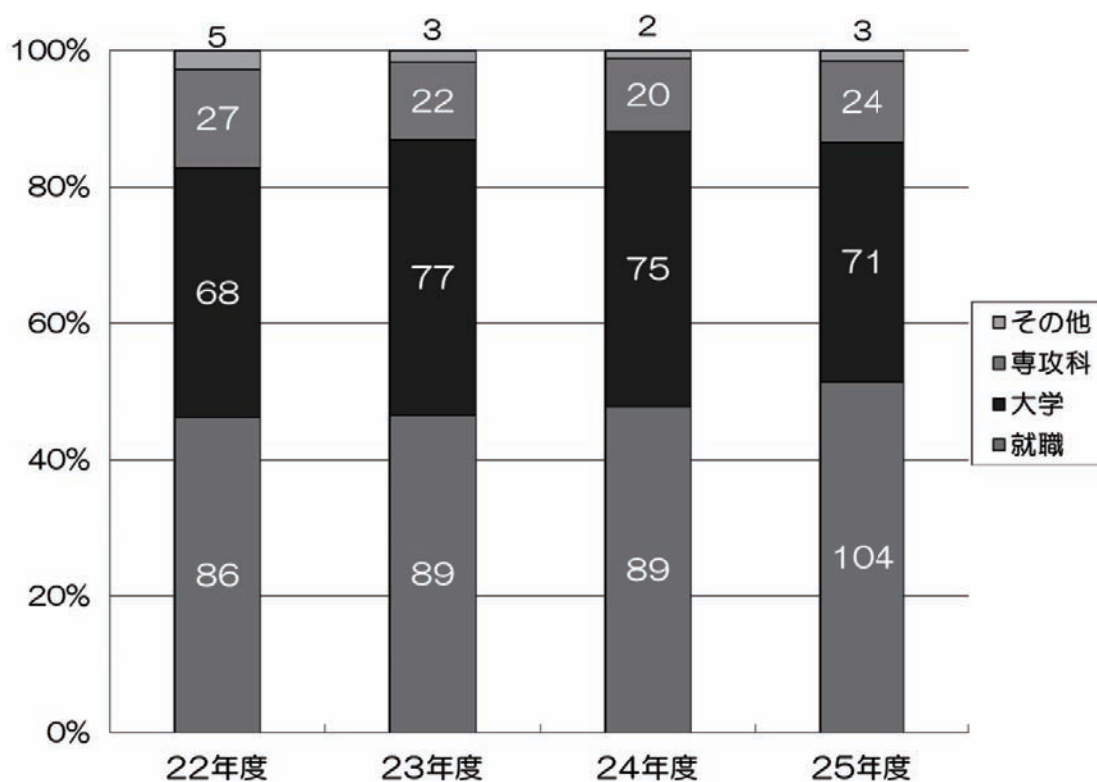
学生数（出身地別 H26.5月現在）

専攻科生を除く

地区別	静岡県			神奈川県	山梨県	その他	外国人留学生	合計
	東部	中部	西部					
学生数	684	151	114	79	3	4	6	1,041
割合%	65.7	14.5	11.0	7.6	0.3	0.4	0.6	100

割合は、概数

卒業生進路（22～25年度）



大学編入学状況（23～25年度）

大学名	H23	H24	H25	H26	大学名	H23	H24	H25	H26
北海道	0	3	1	0	静岡	4	3	3	5
東北	1	2	0	3	名古屋	2	4	2	1
筑波	5	3	5	3	豊橋技術	17	16	18	15
千葉	0	2	7	4	大阪	1	1	5	3
東京	1	0	0	0	広島	2	3	0	1
東京農工	4	5	5	1	九州	0	0	0	1
東京工業	2	3	4	4	首都	0	2	1	0
横浜国立	1	1	2	2	立命館	1	0	1	1
長岡技術	7	5	3	4	その他	20	23	16	23

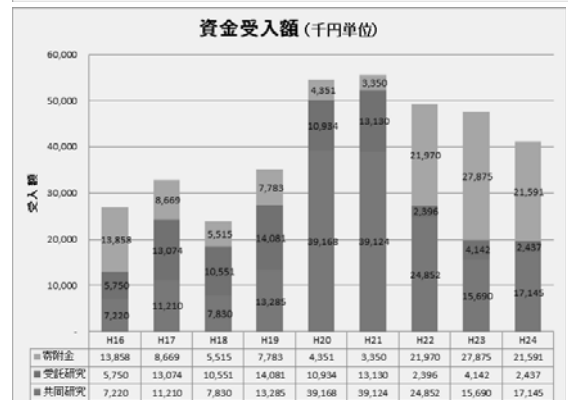
平成24年度専攻科修士大学院入学状況

東京大学大学院	1名
東京工業大学大学院	2名
名古屋大学大学院	1名
豊橋技術科学大学大学院	2名
奈良先端科学技術大学院大学	1名
立命館大学大学院	1名
計8名	

平成25年度専攻科修士大学院入学状況

筑波大学大学院	1名
東京工業大学大学院	3名
東京医科歯科大学大学院	1名
名古屋大学大学院	2名
北陸先端科学技術大学院大学	1名
計8名	

地域共同テクノセンター（平成16年3月竣工）



※事業報告書より産学連携活動以外（預金利息，教育後援会等）を除く数字を計上

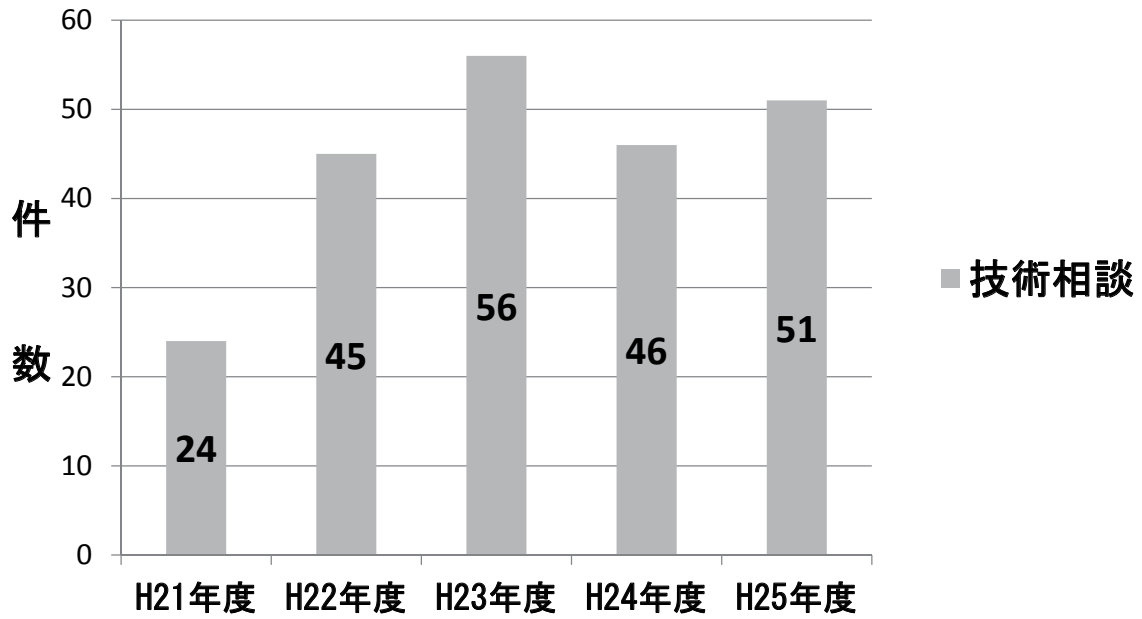
外部資金の獲得状況(平成25年度実績)(総合上位20校/全国51高専中)

総合 順位	高専名	共同研究			受託研究		受託事業等		寄附金		科学研究費補助金代表 者・分担者		その他補助金等			合計金額
		順位	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	順位	件数	金額	金額
1	仙台		14	3,862,508	14	16,133,374	2	1,102,500	531	31,081,134	38	49,163,000	2	49,588,497	150,931,013	
2	長岡		22	7,700,000	5	62,110,000	1	1,957,710	72	24,871,170	17	31,954,000	1	1,500,000	130,092,880	
3	沖縄		17	9,305,000	15	64,903,084	2	12,492,823	269	14,409,118	17	21,057,000	2	4,426,334	126,593,359	
4	高知		16	8,961,100	6	42,048,792	0	0	273	13,464,340	16	58,760,000	1	1,544,250	124,778,482	
5	一関		9	4,185,500	13	40,921,724	1	327,024	878	18,644,728	7	7,165,000	3	52,428,491	123,672,467	
6	鶴岡		24	17,856,300	24	57,080,906	0	0	24	32,054,317	9	13,210,000	1	755,000	120,956,523	
7	福島		17	4,713,590	10	7,736,284	6	7,613,756	23	13,977,087	13	16,640,000	3	55,533,515	106,214,232	
8	富山		45	11,470,000	11	23,898,614	0	0	20	14,858,681	25	37,663,000	1	15,171,354	103,061,649	
9	豊田		18	7,940,000	2	1,502,060	3	6,564,000	13	13,187,250	21	29,407,344	1	44,428,800	103,029,454	
10	東京		8	1,248,249	6	3,848,401	11	745,150	19	17,951,000	19	30,850,000	1	41,183,779	95,826,579	
11	明石		14	3,693,000	4	4,788,500	0	0	11	20,942,158	16	24,390,000	1	37,006,377	90,820,035	
12	沼津	①	31	21,006,000	0	0	0	0	9	13,046,000	11	10,140,000	⑤	3	44,437,927	88,629,927
13	八戸		13	4,800,000	13	14,895,700	7	1,429,173	18	44,416,355	15	19,430,000	2	1,608,000	86,579,228	
14	奈良		16	6,078,600	14	13,555,601	2	649,573	399	26,738,875	30	34,541,000	3	3,124,000	84,687,649	
15	鈴鹿		17	7,522,000	5	4,008,800	5	20,441,600	30	27,806,573	15	20,631,245	1	3,177,160	83,587,378	
16	松江		15	8,012,650	8	12,779,270	6	9,435,273	587	26,759,815	18	21,515,000	2	2,000,000	80,502,008	
17	宇部		14	6,985,100	9	11,069,115	0	0	75	20,273,805	23	41,729,797	0	0	80,057,817	
18	広島商船		9	5,237,757	1	1,781,370	0	0	8	7,956,400	7	7,030,000	2	56,647,912	78,653,439	
19	鹿児島		11	6,650,000	2	3,293,525	795	14,484,730	352	22,441,629	5	5,915,000	1	21,121,580	73,906,464	
20	香川		18	8,084,000	5	5,765,770	0	0	137	24,880,401	22	28,893,000	1	6,000,000	73,623,171	

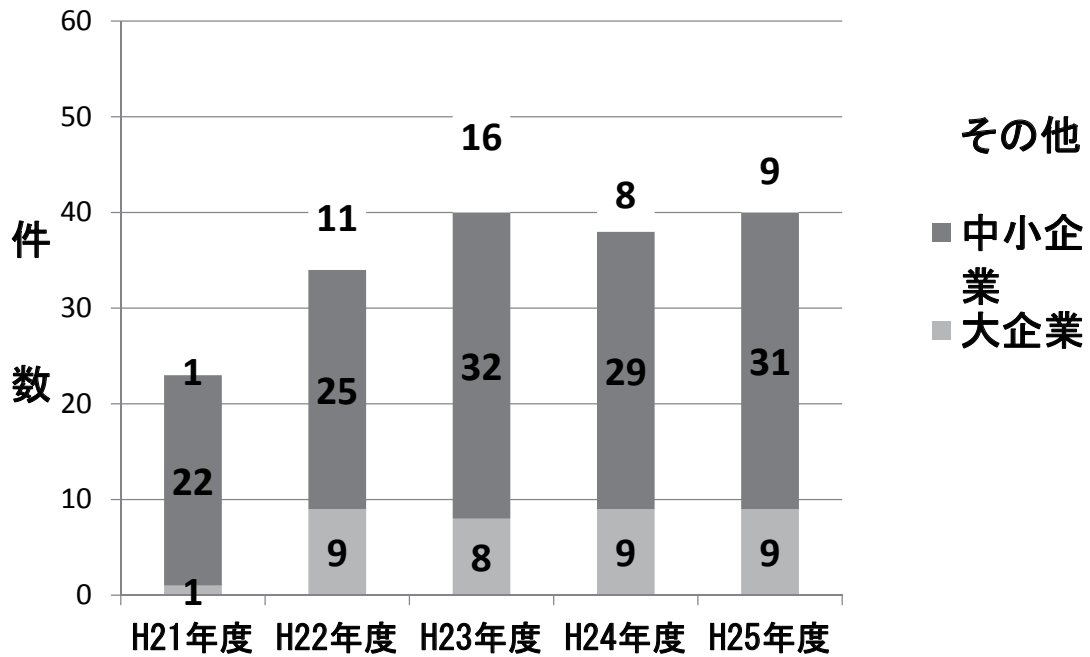
平成25年度 公開講座実施一覧

講座名	受講対象者	受講者数	満足度
材料強度学入門 ～金属疲労の基礎知識と光を利用した力の可視化～	企業技術者	6	83%
社会人のためのエレクトロニクス基礎講座①(ファーストステップコース) ～回路に経験の無い企業エンジニアの方に、基礎的な電子回路のスキルを～	企業技術者	8	100%
社会人のためのエレクトロニクス基礎講座②(ステップアップコース) ～回路に経験の無い企業エンジニアの方に、基礎的な電子回路のスキルを～	企業技術者	8	88%
固体材料分析基礎講座 一沼津高専物質工学科で分析できること一	企業技術者	3	100%
パソコン組み立て教室 一パソコンの仕組みとソフトウェアのインストール一	高校生以上	5	80%
大人のためのロボット教室 一ロボカップジュニアの指導者を目指して一	一般社会人	3	100%
3次元CAD入門	中学生以上	6	100%
波でバラバラにする！？ 初学者のためのフーリエ解析入門	高校生以上	5	80%
易しい絵本から始める英語多読体験講座	中学生以上	12	100%

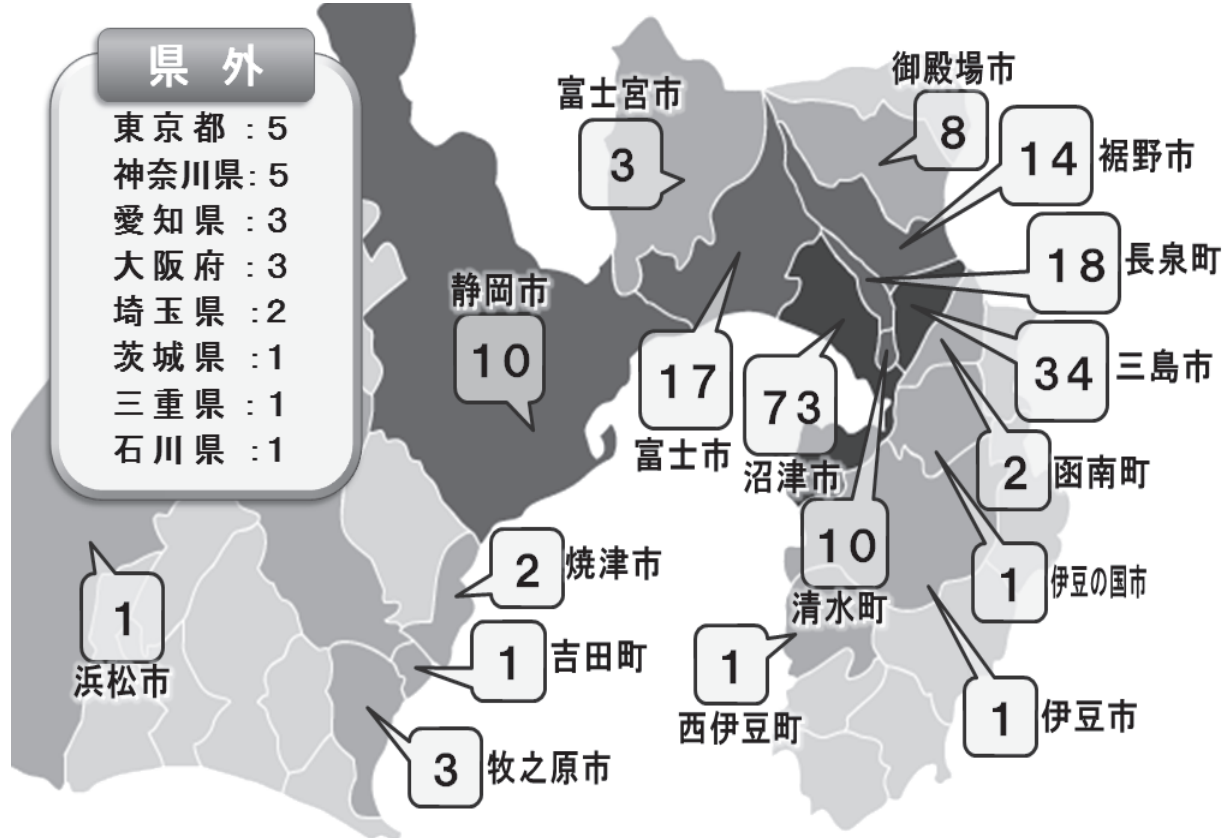
科学技術相談実施件数（総件数）



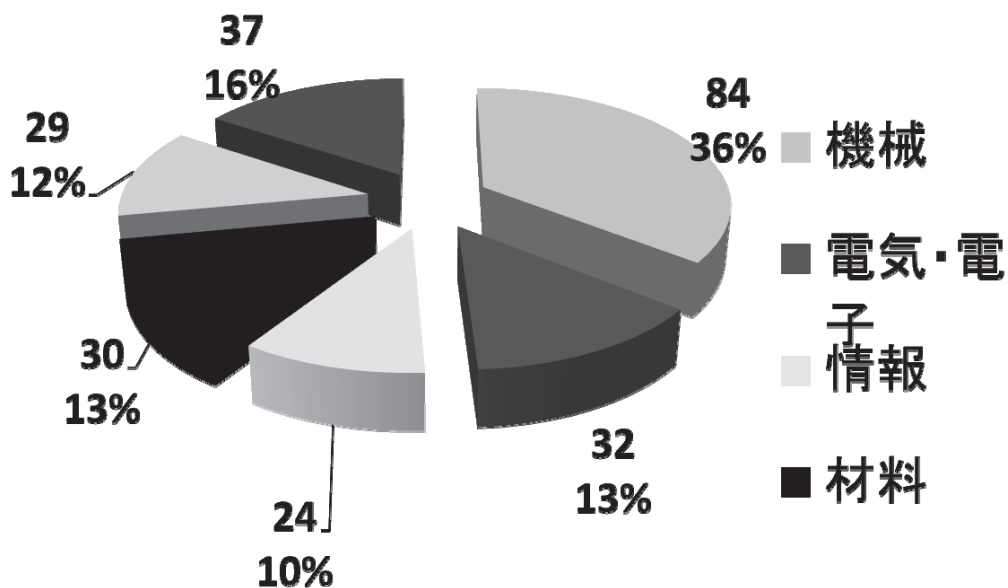
科学技術相談実施件数（企業規模）



科学技術相談実施件数（地域別） ※H21年4月～H26年3月合計



科学技術相談実施件数（分野別比率） ※H21年4月～H26年3月合計



平成25年度出前授業

学科名	授業名	担当教職員	定員 (目安)	授業概要
機械工学科	山の高さはどう測る？ (三角形を使った測定)	永禮 哲生 手塚 重久 小林 隆志	40名	筒と十字の糸、分度器と水準器を使って山の高さを測る原理を勉強します。 (身の周りにある鉄塔、ビル、構えていれば富士山の高さを測ることも挑戦します。) 三角測量の原理を「三角形の相似」を用いて理解します。(対象中学生)
電気電子工学科	身の回りにおける電気機器のしくみ ～スピーカーはなぜ音がする？ 邪魔者のACアダプター～	高野 明夫 西村 賢治	20名 程度	日常よく目にする電気機器、今回はスピーカーとACアダプターです。スピーカーはどのようにして音を出すのか、ACアダプターはなぜ必要なのか内部を覗きながら説明します。
電子制御工学科	ロボットで光るボールを追いかけてみよう	川上 誠	25名	パソコンでプログラムを作成し、ワンチップマイコンを使ったロボットが赤外線を出すボールを追いかけるように制御します。
制御情報工学科	携帯電話で会話ができる仕組み	山崎 悟史	40名	今や多くの人が使用している携帯電話(ケータイ)ですが、どうしてケータイで会話ができるのでしょうか。私達の会話に例えて、携帯電話で会話できる仕組みをわかりやすく説明します。普段、何げなく使っているケータイの裏側をのぞいてみませんか。
物質工学科	いろんな電池をつくってみよう、 みてみよう	押川 達夫 大川 政志 稲津 晃司 他3名	25名 程度	これからの生活で意識しないわけに行かない「エネルギー」。電気エネルギーはこれからのエネルギーとして最も有望です。この電気エネルギーはどのようにして得ることができるのかを、レモン電池から燃料電池までいろいろな電池を見たり、作ったりして学びましょう。燃料電池で使う、新しい水素の作り方も紹介します。
教養科	日常生活の中の数学	鈴木 正樹	40名	数学は社会に出てから何の役に立つのかという声をよく聞きます。実際は様々な所で数学が活躍しているのですが、通常の授業ではそこまで学習する時間がありません。この授業では、学年と授業の進度に応じて日常生活の中で使っている数学の話題を紹介します。
技術室	電気分解を応用した燃料電池入門	石和 嘉衛 鈴木 猛 他2名	25名	次世代のエネルギーとして注目されている燃料電池について学びます。電気分解を応用した実験装置を作成し、電気エネルギーがどのように発生するのか原理について理解してもらいます。

※上記の他、22の出前授業を開講

高専機構の平成26年度 年度計画

産業構造の変化や技術の高度化、少子化の進行、社会・産業・地域ニーズ等を踏まえ、本法人本部がイニシアチフを取って51校の国立高等専門学校配置の在り方の見直しや学科再編、専攻科の充実等を検討する。また、その際、個々の高等専門学校の地域の特性を踏まえ、教育研究の個性化、活性化、高度化がより一層進展するよう配慮する。



沼津高専の平成26年度 年度計画

- 平成24年度からスタートした「新教育課程—混合学級と学際教育—」を学年進行に伴い実行に移し、本年度の3学年から始まる学際科目(環境・エネルギー、新機能材料、医療・福祉分野)を同一時間帯に並列開講する。
 - 専攻科を総合システム工学専攻(環境エネルギー工学コース、新機能材料工学コース、医療福祉機器開発工学コース)に改編して実行に移す。1年生後期の長期学外実習を粛々と実行する。
- F-met は静岡県の資金援助により沼津高専特別課程として実施。

沼津高専の将来構想

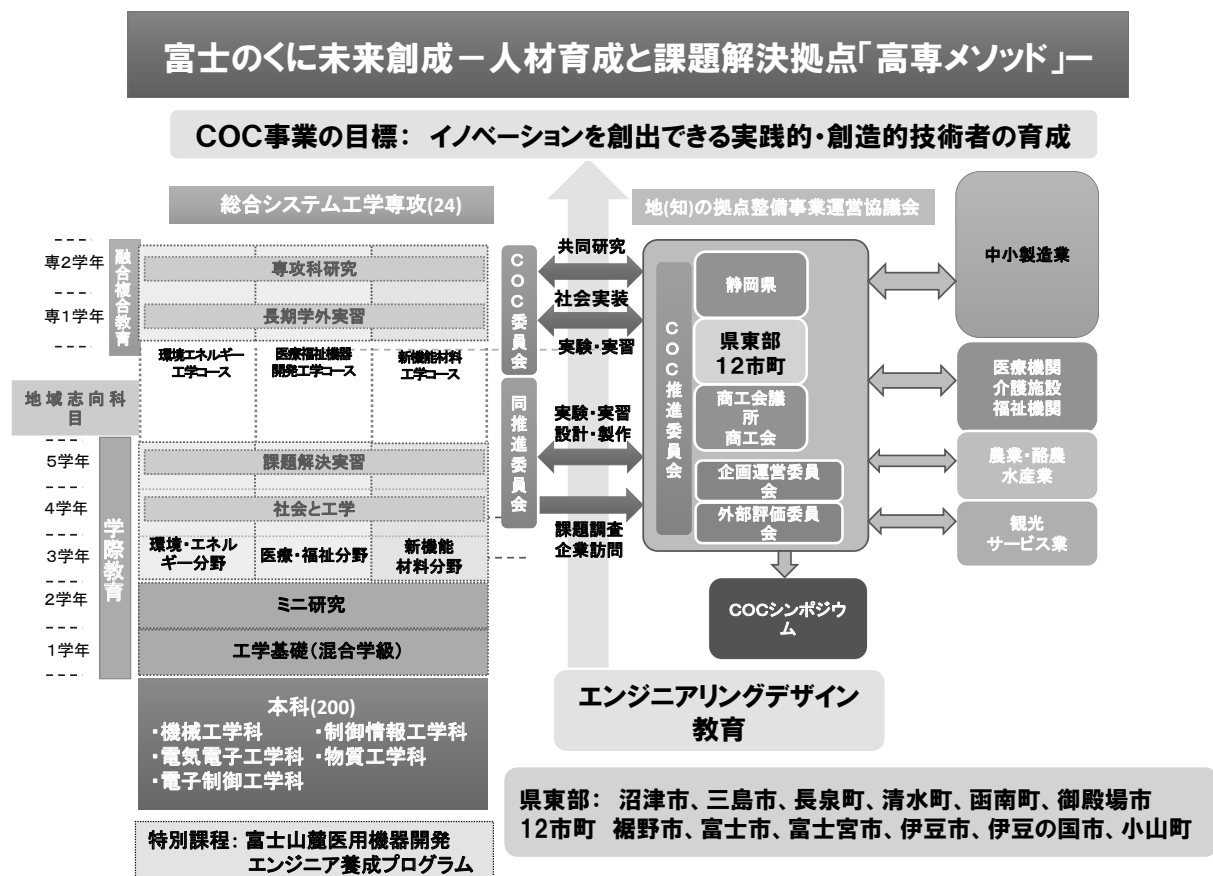
(1) 新教育課程—混合学級と学際教育—の完成

1学年 混合学級、工学基礎教育 2学年 ミニ研究
3, 4, 5学年 医療・福祉分野、環境・エネルギー分野、
新機能材料分野 各6単位の学際教育

(2) 本年度から専攻科を、総合システム工学専攻3コース

(環境エネルギー工学、新機能材料工学、医療福祉機器開発工学)に改編し、本科の学際教育とリンクして、融合・複合新領域に対応できる7年一貫の技術者教育プログラムを完成する。

(3) COC事業、「富士のくに未来創成一人材育成と課題解決拠点「高専メソッド」」の社会志向科目の実行によりエンジニアリングデザイン教育を実質化する。



沼津高専の当面する課題

- **入学志願者数の維持**
 - **工学基礎教育の充実による留年・退学の減少**
教員FD研修会による学生指導力の向上
補習、専攻科生による放課後学習、学生寮のマテカ
 - **学際教育実験棟(文科省概算要求中)の設置に伴う「医療福祉機器開発」のための実験室・研究室・実習エリア」の確保。**
 - **創立50周年記念して設立した国際交流基金の有益な活用。**
-

沼津工業高等専門学校 年度計画
自己点検評価表

沼津工業高等専門学校 平成25年度 自己検評価表

沼津高専第2期中期計画	沼津高専平成25年度年度計画	担当部署	平成25年度年度計画実施状況	自己評価点
1 教育に関する事項	1 教育に関する事項		平成25年度年度計画実施状況	
(1)入学者の確保	(1)入学者の確保	アトミツジョン委員会	<ul style="list-style-type: none"> 本校の運営顧問幸野委員において、沼津市教育委員会教育課及び沼津市立第一中学校校長に、平成25年度の運営顧問委員を委嘱した。 教職員による中学校訪問を積極的に行うとともに、中学校主催の進学説明会等にも進んで参加(15校)した。 校内で6回、校外幸野で2回(浜松、小田原)の進学説明会を開催した。 	A
<p>① 近隣地域の中学校長や中学校PTAなどの組織との関係を緊密にするとともに、マスコミ等への広報活動を積極的に行う。</p> <p>② 中学生が沼津高専の学習内容を体験できるよう、入学説明会・体験入学及びオープンキャンパス等を充実させ、特に女子学生の志願者増に向けて取り組みを推進する。</p>	<p>① 近隣市町村の教育委員等との連携を深め、更なる中学校との連携強化を検討する。本校独自の広報資料を作成し、県内及び近隣県(神奈川、山梨県)の中学校への広報活動を実施し、教職員による中学校訪問も引き続き積極的に行うとともに、中学校主催の進学説明会にも積極的に参加する。</p> <p>② 本校の授業内容の一部が体験できる「中学生のための体験授業」、「ミニ体験授業」、「出前授業」の体験型オープンキャンパスと、「一日体験入学」、進学説明会、「1キャンパスツアー」の両形式オープンキャンパスを実施する。</p> <p>③ 中学生やその保護者を対象とする本校独自の広報資料を作成するとともに高専機構に広報資料を提供する。高専機構作成の広報資料の有効活用を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> アトミツジョン委員会 アトミツジョン委員会 	<ul style="list-style-type: none"> 体験型オープンキャンパスイベントとして10月に「中学生のための体験授業」、11月に「ミニ体験授業」を開催し、多くの参加者があり好評であった。 10月に実施したオープンキャンパス「1日体験入学」の参加者は、過去最高(前年比19%増)の1970名となった。また、同時開催した進学説明会も例年と比較して大幅に増加した。 全て通員となり、本専攻では、入試合格者(NCT Today 2013)に本校女子学生のインフルエンサーを委嘱するなど、女子中学生をターゲットとした広報活動を行い、機構本部作成の「キラキラ高専ガール」とともに、あらゆる機会をとらえて積極的に広報を行った。 	A
<p>③ 中学生やその保護者を対象とする各専攻が共通的に活用できる広報資料を作成し、本校が提供できる資料等があれば、積極的に高専機構に提供する。</p>	<p>③ 中学生やその保護者を対象とする本校独自の広報資料を作成するとともに高専機構に広報資料を提供する。高専機構作成の広報資料の有効活用を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> アトミツジョン委員会 	<ul style="list-style-type: none"> 本校独自の入試合格者(NCT Today INTRODUCTION)(5万8千冊)及び(NCT Today 2013)(1万2千冊)を作成し、静岡県、山梨県及び神奈川県内の各中学校(454校)に送付した。 高専機構に、本校2年次のミニ研究発表会の取寄を依頼し、特色ある教育事例として掲載に協力された。 	A
<p>④ ものづくりに関心と適性を有する者など沼津高専の教育方針にふさわしい人材を的確に選抜できるように入試方法の見直しを行う。</p>	<p>④ 入試成績と入学後の学力との相関関係などについて分析を行うだけでなく、最寄地受験制度などについても引き続き検討する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> アトミツジョン委員会 	<ul style="list-style-type: none"> 入試成績と入学後の学力との相関関係の分析結果は、正の相関傾向があることが認められた。また、平成25年度入学の志願者は、志願者が急増した昨年度(学力水準の維持、志願者確保の観点から、入学者選抜方法変更/志願者数:298人→300人)と比べ277名減少(志願者数:363名)したが、今年度入学の中学校における内申点については、昨年度入学者と比べても若干上昇するともに入学後の成績もやや向上しているという分析結果となり、学力水準は十分に維持できたと考えられているため、平成26年度入学については、現行の選抜方法で変更することとした。 最寄地受験制度については、引き続き東海北陸地区教務主事会議等において検討を進めることとした。 	A
<p>⑤ 入学者の学力水準の維持に努めるとともに、入学者志願者数が、前年度の人数を下回らないよう、努力する。</p>	<p>⑤ 入学者の学力水準を維持・向上を目指すとともに、入学者志願者数の確保(広報活動の充実)、維持に継続して努力する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> アトミツジョン委員会 	<ul style="list-style-type: none"> 平成25年度学力維持から浜松で実施している学外検査場をJR浜松駅隣接の会場に搬入し、受験者からも好評であったことから、平成26年度入学についても引き続き同会場を利用した。 平成25年度の地区別志願者数を分析した結果、県東部地区が減少傾向となっているため、県東部地区の中学校訪問の強化、中学校主催進学説明会への積極的参加に加え、地元元有力選手層への広報活動を強化した。 平成26年度志願者については、全体では前年より11名減(363名→352名)ではあったものの、推薦選抜については前年より24名増加(172名→196名)した。 合格者の内申点については、平成年度とほぼ同等の水準を維持できたと考えている。 	A

沼津工業高等専門学校 平成25年度 年度計画 自己検評価表

<p>⑤ 高専体育大会などの全国的な競技会やロボコンコンテストなどの全国的コンテストに、積極的に参加する。</p> <p>⑥ 高専体育大会などの全国的な競技会やロボコンコンテストなどの全国的コンテストに、積極的に参加する。</p>	<p>・学生委員会 ・教務委員会 ・専攻科 ・総合情報センター長</p>	<p>⑤ 平成25年度においても引き続き、高専体育大会、ロボコンコンテスト、プログラマングコンテスト、英語プレゼンテーションコンテストなどに積極的に参加し、運営に協力する。専攻科では、例年と同様、静岡県東部の近畿大学共同学生研究発表会や技術大との連携教育研究プロジェクト、学生成果報告会、高専コンボシウム等、学芸への所属を要せず参加できる研究発表会での研究発表を積極的に奨励する。情報処理教育の観点からは、例年と同様、プログラマングコンテストに積極的に参加する。また、企画を改進黨し学内ロボコンを実施する。</p>	<p>A</p>
<p>⑥ ポランティア活動などの社会奉仕体験活動や自然体験活動などの様々な体験活動の実績を踏まえ、その実施を推進する。</p>	<p>・学生委員会 ・アトミッシュン委員会 ・業務委員会</p>	<p>⑥ 全学年全クラスで校外の清掃を行う、クリーン活動を実施する。また、学生会を中心に校外でのボランティア活動を行う。さらには、1年生のオリエンテーション研修、3年生のスキー研修を通じて自然体験活動を行う。寮においては、寮生による近隣中学校放課後学習支援および休日学習支援を継続する。</p>	<p>A</p>
<p>⑦ 様々な体験活動の実績を踏まえ、その実施を推進する。</p>	<p>・校長 ・教務主事</p>	<p>⑦ 様々な体験活動の実績を踏まえ、その実施を推進する。</p>	<p>A</p>
<p>⑧ 高専教育大会などの全国的な競技会やロボコンコンテストなどの全国的コンテストに、積極的に参加する。</p>	<p>・校長 ・教務主事</p>	<p>⑧ 高専・両校科大間教員交流制度について、引き続き積極的に参画すべく検討する。</p>	<p>A</p>
<p>⑨ 高専教育大会などの全国的な競技会やロボコンコンテストなどの全国的コンテストに、積極的に参加する。</p>	<p>・校長 ・教務主事</p>	<p>⑨ 高専・両校科大間教員交流制度について、引き続き積極的に参画すべく検討する。</p>	<p>A</p>
<p>⑩ 高専教育大会などの全国的な競技会やロボコンコンテストなどの全国的コンテストに、積極的に参加する。</p>	<p>・校長 ・教務主事</p>	<p>⑩ 高専・両校科大間教員交流制度について、引き続き積極的に参画すべく検討する。</p>	<p>B</p>
<p>⑪ 高専教育大会などの全国的な競技会やロボコンコンテストなどの全国的コンテストに、積極的に参加する。</p>	<p>・校長 ・教務主事</p>	<p>⑪ 高専・両校科大間教員交流制度について、引き続き積極的に参画すべく検討する。</p>	<p>S</p>
<p>⑫ 高専教育大会などの全国的な競技会やロボコンコンテストなどの全国的コンテストに、積極的に参加する。</p>	<p>・校長 ・教務主事</p>	<p>⑫ 高専・両校科大間教員交流制度について、引き続き積極的に参画すべく検討する。</p>	<p>A</p>

沼津工業高等専門学校 平成25年度 年度計画 自己検評価表

<p>② 実践的技術者養成観点から、資格取得を推進するとともに、日本技術者教育認定機構(JABEE)の認定を維持し、これを通じて教育の質の向上を図る。</p>	<p>② 資格取得に関しては、特に英語によるコミュニケーション能力の向上を推進する目的で、TOEIC及び工業英語能力検定の受験を推進する。専攻科を1専攻コースに改編後も日本技術者教育認定機構(JABEE)の認定が維持できるようにすることにも、学際分野(環境エネルギー、新機能材料、医薬福祉)の実験、演習テーマを作成する。</p>	<p>・教務主事 ・専攻科長</p>	<p>A</p> <p>英語によるコミュニケーション能力の向上を目的として、1・2年生学生にTOEIC Bridge IPテスト、3・4年生学生にTOEIC IPテストを受験させた。通常の工業英語能力検定及びTOEICについても、学生に周知し、申込みの取りまとめを行う等、受験を奨励した。専攻科においては、1専攻コースに改編後、日本技術者教育認定機構(JABEE)の認定が維持できるように、授業完了報告書、専攻科研究計画書、専攻科研究報告書を廃止し、シラバスを本科と共通の形式に改訂した。さらに、ポートフォリオを導入し、学生自身が学習・教育目標に沿って達成度評価ができるように改訂した。平成28年度からこの新しい方式を導入する。</p>
<p>③ 毎年度サマースクールや国内留学などの多様な方法で学校の枠を超えた学生の交流活動を推進する。</p>	<p>③ 教育研究交流協定を締結している東京工業大学、静岡大学及び豊橋技術科学大学との具体的な交流の奨励を推進する。来賓において他高専との交換留学生を引き続き実施する。学生会においても他高専との交流活動を積極的に推進する。</p>	<p>・教務主事 ・学生主事 ・業務主事</p>	<p>S</p> <p>・教育研究交流協定を締結している東京工業大学と静岡大学に対し、次年度専攻科1年生に導入する夏季インターンシップ(後期、4か月間)受け入れの可能性を検討頂いた。静岡大学は大学として受け入れの意向を示して頂いた。東工大も可能性を検討頂いた。学生会活動側面では、高専カンファレンスin沼津高専を開催し、他高専生やOBと沼津高専生との交流を図り、情報交換を行った。他、近隣市町村の要請で学生を派遣し、交流活動を積極的にに行った。①沼津市:「高専生しやべり境IN沼津」コーディネートとして学生会を派遣。②星島町:「ながいずみ、まちづくり」グループに学生5名を派遣。③家について:7月に富士高専(射水)の看護学生と本校学生体験入寮を募集し、10月に御膳高専との交換留学生を募集。また同時に一岡高専からの学生を募集し、さらに11月に本校派遣留学生を富士高専(射水)に派遣、同時に佐世保高専から学生を受け入れた。</p>
<p>④ 特色ある教育方法の取り組みを促進するため、学内で行われている新しい試み、効果的な試みを取り上げて、学校全体や公の場所で公開する。また新しい教育方法の試みをいよいよ体制に整備する。</p>	<p>④ 本校教員による授業の工夫実践例を継続的に調査・収集し、本校のポータルサイト上に公開することにより、至教員で情報共有し互いの授業改善に有効活用するとともに、工夫実践例など多角的な評価への取り組みによって教育の質の保証がなされるように、評価結果及び改善の取組について総合データベースで共有する。」に对应すべく、平成23年度に実施した大学評価・学位授与機構による機関別認証評価結果を高専機構の総合データベースに掲載するとともに、本校HPにも掲載し、広く一般に公表する。</p>	<p>・教務主事</p>	<p>A</p> <p>本年も本校教員による授業の工夫実践例を調査・収集し、本校のポータルサイト上に公開した。至教員に教員相互の授業参観を依頼し、報告書(数枚の高専報告)提出を求めた。</p>
<p>⑤ 平成23年度に大学評価・学位授与機構の高等専門学校機関別認証評価を受審する。</p>	<p>⑤ 高専機構の第2期中期計画に示されている「文部科学大臣の認証を受けた者による評価など多角的な評価への取り組みによって教育の質の保証がなされるように、評価結果及び改善の取組について総合データベースで共有する。」に对应すべく、平成23年度に実施した大学評価・学位授与機構による機関別認証評価結果を高専機構の総合データベースに掲載するとともに、本校HPにも掲載し、広く一般に公表する。</p>	<p>・校長 ・教務主事</p>	<p>S</p> <p>⑤ 平成23年度に受審した大学評価・学位授与機構による機関別認証評価結果については、本校公式HPへ記載し、広く一般に公表するとともに、高専機構の総合データベースにも掲載し、周知した。</p>
<p>⑥ インターネットの取組を継続し、産業界等との連携を組織的に推進するとともに、地域産業界との連携によるカリキュラム・教材の開発など共同教育推進の実施体制を整備する。</p>	<p>⑥ 引き続きインターンシップ、及び地域企業との「共同教育」の取り組みを推進する。</p>	<p>・教務主事 ・学生主事</p>	<p>S</p> <p>本科67名、専攻科17名、計84名がインターンシップに参加した。受け入れ企業数は58社であった。このうち、2社は学校から依頼した企業であった。4年生担任、専攻科担当教員を窓口とし、ポータルサイトポータルサイトに就業企業情報に関する情報を元来化した。学生への連絡の簡便と企業への対応に当たった。さらに、インターンシップ開始前の7月末には参加者全員を集めた「説明会」を実施。インターンシップ期間中は、いづれかの教員が企業を訪問し、企業へのお礼と学生への感謝を聞いている。インターンシップ終了後は、学校側に3年生も受けた報告書を実施した。専攻科では専攻科実習(必修2単位)の中で約2週間のインターンシップを実施している。本年度は20名の専攻科1年生が参加し、そのうち2名は富士高専が生産する北アイルランドSERGでの海外インターンシップに参加した。また、専攻科実習とは別に高専機構が主催する「海外インターンシッププログラム」第2次日曜(春季)に2名の専攻科生が選ばれ、マレーシア(東洋エンジニアリング)とインドネシア(株)小松製作所)に派遣された。この「海外インターンシッププログラム」参加学生による海外インターンシップ報告会を5月に実施し、多数の本科学生が聴講した。</p>
<p>⑦ 企業の退職技術者など、知識・技術をもった意欲ある企業人材を教育に活用する体制を構築する。</p>	<p>⑦ 低学年からの一貫したキャリア教育を試行するために「学生キャリア教育」の活用について検討する。</p>	<p>・学生主事</p>	<p>S</p> <p>今年度、学生キャリア支援課を中心に新たなキャリア教育支援プログラムを構築し、「Futureしすおか」、「就職祭」、「模擬面接」等で企業人材を教育に活用する体制を整えた。</p>
<p>⑧ 近隣の理工系大学等との教育・研究に関する連携協定の締結を行う等、有意味な連携を推進する。</p>	<p>⑧ 教育研究交流協定を締結した東京工業大学及び静岡大学をはじめ、豊橋技術科学大学等との連携を生かした具体的な取組を継続して実践し、推進する。</p>	<p>・校長 ・教務主事</p>	<p>A</p> <p>静岡大学との教育研究交流協定を生かし、大学設置の分析結果の利用申請を行った。東京工業大学との連携協定により、専攻科生がインターンシップを行った。また、東工科大学、豊橋技術科学大学および長岡技術科学大学に、次年度改編を予定している専攻科の専攻科インターンシップについて、学生の受け入れを依頼した。専攻科においては、本年度も豊橋技術科学大学の「高専連携教育研究プロジェクト」に本校から4件応募し、そのうち2件が採択(うち2件が0円)されている。また、8月に豊橋技術科学大学にて開催された「高専連携教育研究プロジェクト」学生部会報告会に専攻科1年生1名が参加し、昨年度の豊橋技術科学大学との共同研究の研究成果を報告した。</p>
<p>⑨ 高専IT教育コンソーシアムのメディア教材の活用を図るとともに、学内のeラーニングコンテンツの充実を図る。</p>	<p>⑨ 高専IT教育コンソーシアムのメディア教材の活用も視野に入れ、学内eラーニングで利用可能なコンテンツの収集を継続し、充実を図る。</p>	<p>・教務主事 (e-LearningWG)</p>	<p>A</p> <p>本校では、eラーニングのプラットフォームとして、moodleを積極的に活用した。moodleのコース内に、昨年度に引き続き、専攻科自治会による学習支援に関するコースを本科学生を対象に作成した。専攻科生による勉強会並びに継続的な学習支援活動に関するアンケートを行うことにより、昨年以上に参加率が上昇する等、eラーニングを利用した取組の充実が図られた。</p>

沼津工業高等専門学校 平成25年度 年度計画 自己検評価表

<p>② 本校の所有する知的資源を活用して、産業界や地方公共団体との共同研究、委託研究への取り組みを推進する。本校教員の研究、シーズ集を指し、それを積極的に発信することにより、共同研究件数の増加を目指す。</p>	<p>寄付研究部門「水素利活用技術研究部門」を期限である9月まで設置し、その成果の公開に努める。また、県・市町村や商工会議所のイベントにも積極的に参加し、交流を図り、本校教員の研究活動や設備等を積極的に紹介し、技術相談を行う。これらの活動を通して、共同研究、委託研究の受入につなげるとともに、テクノセンターニューズを発行し、教員の研究シーズ集の内容更新を行い、積極的に情報を発信する。教員の活動実績等を記載する「教員個人別集」に、共同研究、委託研究、技術相談対応等の実績記入欄を追加するとともに、共同研究の事前試行の経費を校長リーダーシップ経費で予算化する。</p>	<p>寄付研究部門「水素利活用技術研究部門」の期間が終了し、研究成果報告書を作成すると同時に、全国電子テクノフォーラムにて講演やパネル展示等、その成果の公表に努める。併せて、共同研究、委託研究の促進に向け、各種イベントに積極的に参加し、研究活動の紹介や技術相談を行う。今年度もテクノセンターニューズを発行し、研究シーズ集についても更新して実施するとともに、積極的な情報発信に努める。各教員の教育・研究活動状況を把握するため年に1度教員に対し作成依頼している「教員個人別集」に、共同研究、委託研究、技術相談対応等の実績記入欄を追加した。共同研究の事前試行や技術相談の事前協議等に関する経費、各種イベントへの出席経費を校長リーダーシップ経費で予算化し、共同研究、委託研究の促進を制度面から後押しする体制を整備した。</p>	<p>A</p>
<p>③ 新TLO準備会、大学ネットワーク静岡TLO分科会に積極的に参加すると同時に、本校にて得られた研究成果の知的資産化のために新TLO準備会等の体制整備に継続的に協力する。</p>	<p>③ 本校が維持する知的財産について、静岡TTOに情報を提供し、知的財産の資産化に努める。また、Web上で知財情報を公開すると同時に、シーズ集に掲載するなど、知的財産の資産化に向けた取り組みについて検討を行う。</p>	<p>静岡TTO等に申請し、知財の情報交換を行っている。また三島にて開催された産学官マツシヨ2013in三島に本校教員が参加し、シーズの発表を行った。また学内で知的財産に関する知識を得るため、機関から知財CDを借りて講習会を開催した。なお本校所有の知財の公開を検討したが、一般に公開できる知財が1件のみであるため、Webへの掲載やシーズ集への掲載は行っていない。</p>	<p>A</p>
<p>3 社会との連携や国際交流に関する事項</p> <p>① 地域共同テクノセンターの施設や設備の充実を計画的に推進する。地域共同テクノセンターは、平成21年度から5年間実施する「富士山麓医用機器開発エンジニア養成プログラム」事業を主として、地域産学連携の推進を図る。また、静岡県東部テクノフォーラムin沼津高専、や「富士山麓医用機器開発エンジニア養成プログラム」事業の運営を支援することにより、静岡県東部地区における産学連携の中心となる機能の強化を図る。</p> <p>② 教員の研究分野や共同研究、委託研究の成果などの情報を印刷物、ホームページなど多様な媒体を用いて企業や地域社会に分かりやすく伝えられるよう、現行の広報体制を充実する。</p> <p>③ 小・中学校に対する理科教育支援の機会を増大するとともに、地域の小・中学校との連携を強化する。</p> <p>④ 満足度調査において公開講座の参加者の7割以上から評価されるように、地域の生涯学習機関として公開講座の充実を図る。</p> <p>⑤ 本校の卒業生の動向を把握するとともに、卒業生のネットワーク作りとその活用を図る。</p>	<p>3 社会との連携や国際交流に関する事項</p> <p>① 静岡県の東部地域再生計画に基づき、引き続き「富士山麓医用機器開発エンジニア養成プログラム」(以下、F-net)と称す。)事業を推進し、医用機器開発技術者の養成を行うことにより地域産学連携を推進する。また、静岡県東部地区における産学連携の推進のため、専攻科に科目等修得生として社会人を受け入れ、継続的な人材育成を行うために、特別奨励金の受給生として、第6期生14名が受給する事が決まった。平成26年度は、第5期生のF-netや補正予算で購入した医療関連の設備は、教育研究支援センターやテクノセンターへの適切な配分配に努める。</p> <p>② 例年発行するテクノセンターニューズを継続発行し、また本校教員の研究、技術、シーズ集の内容更新を行い、県内のイベントにおいて積極的に発信する。また、県内外のイベントに参加すると共に、引き続き「静岡県東部テクノフォーラムin沼津高専」や「富士山麓医用機器開発エンジニア養成プログラム」の産学官連携行事を主催すると同時に積極的に参加して共同研究等の成果を発信する。</p> <p>③ 近隣市町の教育委員会に働きかけ、中学校教員の情報交換の機会をもち、中学校理科教員の支援などについて具体的な方法を検討する。中学生を対象とした体験授業を継続して実施する。</p> <p>④ 社会人対象の公開講座を専門学科と教養科の全ての学科から1講座以上実施し、技術者育成や内容の取組みを行う。更に講座座を専門学科で行うに努める。またアンケート等により、学生や内々の検討を行う。また、現在F-netで行っている地域技術者の雇用・福祉機器開発のための人材育成事業の継続について検討を行う。</p> <p>⑤ OB人材の活用を図るため同窓会との連携を深めるとともに、OB人材の活用策を検討する。</p>	<p>静岡県東部地域再生計画に基づき「富士山麓医用機器開発エンジニア養成プログラム」(F-net)を5年度に亘り実施し、本年度、最終年度を迎える。併せて修得生が主催するF-net(プララ)を支援し、医療機器開発を補助することで、地域産学連携に貢献した。地域産学連携を推進した。また、静岡県東部地区における産学連携の推進のために、特別奨励金の受給生として、第6期生14名が受給する事が決まった。平成26年度は、第5期生のF-netや補正予算で購入した医療関連の設備は、教育研究支援センターやテクノセンターへの適切な配分配に努めた。</p> <p>テクノセンターニューズを継続発行すると同時に、教員の研究、技術、シーズ集の内容更新を行い、県内のイベントにおいて積極的に発信する。また、研究シーズの公開に努める。また、本校主催の「第8回静岡県東部テクノフォーラムin沼津高専」を行うと共に「富士山麓医用機器開発エンジニア養成プログラム」の産学官連携行事に積極的に参加する。また、技術シーズの公開に努める。</p> <p>日本化学会の支援をいただき、近隣中学校と連携し、「中学生のための化学実験講座」を3回にわたって開催した。昨年度に引き続き10月に「中学生のための体験授業」(15講座)を開催し、193名の中学生の参加があり好評であった。</p> <p>昨年同様「社会人(中学生以上を含む)対象の公開講座を開催し、9講座全てを終了し、今年度は教養科を含む全ての学科に2講座に増やした。テーマ数を増やすことができた。公開講座の満足度は90%である。しかし講座座の確保については、教員の負担の増加を察知してお願していることもあり、アンケート結果も十分に反映できなかった。F-netで行っている地域技術者の雇用・福祉機器開発のための人材育成事業の継続については、特別奨励金として開催し、自立化することとなった。</p> <p>キャリア教育に對するOB人材の協力依頼を継続して実施するとともに、昨年設立した60周年記念国際交流基金を長期に亘り維持する方策について同窓会と協議した。</p>	<p>A</p>
<p>⑥ 安全面への十分な配慮を払いつつ、学生や教員の海外交流を促進する。高専機構が推進する学生や教員の海外交流事業、インターンシップ、JICA(国際協力事業団)を通じた海外への技術協力について前向きに取り組む。</p>	<p>⑥ 1 高専機構等が推進する国際交流事業等に積極的に参加する。本校独自の取り組みとして、学生の語学研修や専文化体験講座を推進する観点から、アメリカン・センターの研修を実施する。</p> <p>⑥ 2 機構主催の「海外インターンシッププログラム」等の国際交流プログラムに学生を積極的に応募させる。</p>	<p>本校では、学生や教員の海外交流を促進するため、以下のような取組を行った。</p> <p>① JEEF (ISD Bologna 2013) (米国電気電子工学学会) 団体構成員に加入する国際会議：1件 ② キングモントワーク大学(イタリア) 本専科2年生：1名 ③ 高専生のための英語キャンプ(全国版) (熊本高専主催：シンガポール) 本専科5年生：1名 ④ 夏季国際インターンシップ(富士山麓) 専攻科1年生：2名 ⑤ グローバルインターンシップ(短テック) 専攻科2年生：1名 ⑥ シニアレベル・国際研修・専文化体験(本専科) 本専科1～5年生：21名 ⑦ 海外インターンシッププログラム(専専) (機構本部主催：フィリピン、マレーシア) 専攻科1年生：2名 ⑧ 創立50周年を記念して、学内に国際交流基金を創設し、教育後援会からの助成(学生国際留学等支援)だけでなく、今年度からインターンシップや語学研修などを目的とした海外派遣学生に対してでも取組を創設し、助成(上限8万円)を行っている。(助成件数：29件、助成金額：140万円) ⑨ 教員海外派遣実績 ⑩ キングモントワーク大学(イタリア) 本専科2名 ⑪ シニアレベル・国際研修・専文化体験(本専科) 本専科2名 ⑫ シニアレベル・国際研修・専文化体験(本専科) 本専科2名 ⑬ シニアレベル・国際研修・専文化体験(本専科) 本専科2名</p>	<p>S</p>
<p>⑦ 留学生の受入れ拡大に向けて留学生向けの施設の充実を努める。</p>	<p>⑦ 国際交流室を中心とした留学生の受入体制の強化(日本語の特別補講の実施、チューターへの配慮、留学生指導教員の配置など)を図るとともに、高専機構が主催する第3学年編入学試験(外国人学生対象)に参加し、私費留学生を受け入れる。</p>	<p>⑦ 留学生及び上級生を対象とした高専通信(70名程度)の新設について、予算要求を行った。本年度に向けて学内の外国人留学生規則を改正し、強情に即した整備(専攻科外国人留学生に関する規定)の通知、留学生指導教員及び留学生相談員に関する規定の整備(専攻科)を行なった。</p> <p>今年度から国際交流室を格上げ(3名-6名)するとともに、それぞれの業務を整理(情報共有)することにより、留学生の受入支援体制等の強化を図った。</p> <p>創立50周年を記念して、学内に国際交流基金を創設し、経済的に困窮する留学生に対する学費補助など必要に応じて助成を行えるよう取組を創設した。</p> <p>高専機構が主催する第3学年編入学試験(外国人学生対象)に参加した。</p>	<p>S</p>

沼津工業高等専門学校 平成25年度 年度計画 自己検評価表

<p>⑧ 在籍する留学生に列し、我が国の歴史・文化・社会に特化した研修旅行などを企画・立案・実施する。また、東海地区高専留学生交流会の運営に積極的に参画する。</p>	<p>・学生主事 ・国際交流室長</p>	<p>⑧ 日本の大連市の重工業をテーマとし、研究テーマとして、名古屋方面への留学生研修旅行を行った。(引継研修員2名、参加留学生10名) ・東海地区高専留学生交流会(スキャン研修)に参加した。(引継研修員5名、参加留学生10名)</p>	<p>A</p>
<p>4 管理運営に関する事項 ① 限られた予算の中で、戦略的かつ計画的な資源配分を行う。</p>	<p>・事務部長 ・会計担当補佐</p>	<p>① 校車リダーシップ研修の配分にあたっては、校車ヒアリングを行うことにより研究費等の効果的・重点的配分を実施するとともに、学内設備整備マスタープラン、修繕による設備の計画的導入更新をおこなった。また本年度から新たに設けた学内教育研究設備維持運営費による大型設備の組織的な保守体制を整えた。</p>	<p>A</p>
<p>② 本校の管理運営全体に關し、外部有識者の意見を取り入れるために、運営諮問委員会を設置する。その他、機構の実施する研修会等に積極的に参加する。</p>	<p>・校長 ・総務担当補佐</p>	<p>② 専年7月に開催されている「運営諮問会議」において、各専年からの意見、提言等を踏まえ年度計画に反映しているところがあるが、同会議における意見交換だけでなく、自己採点評価時の意見聴取の場を設けており、PDCAを円滑かつ有効に回すようなシステム構築を図った。また、委員からの提案を採り入れ、今年度から新たに運営諮問会議の前に学内投票を行い、委員における口頭説明だけでなく、実際の学内投票の投票も踏まえた意見聴取の場を設けることにより、更に有益な案とすべく取り組んだ。</p>	<p>A</p>
<p>③ 機構の実施する専務の効率化・合理化を図るため、共通システムの効率的な運用方法について検討を行うとともに、専務マニュアルの充実を図る。</p>	<p>・事務部長</p>	<p>③ 昨年に引き続きメールによる緊急連絡網を5月に実施した。10月には安全衛生セミナーにおいて「医療法人財団静岡市立病院衛生保健課長 白濱眞氏」を招いて全教職員を対象とした「災害医療について」について学び、災害時における有効な対応の仕方について意識を新たにする機会とした。また、高専機構本部で作成したコンプライアンスマニュアル-教職員の行動指針-に關してのアンケート調査を実施し、教職員のコンプライアンスに關する意識の高揚を図った。さらには学生向けの防犯3冊子「大連への帰え、運送時の対応-1の」のちをを守るために-1-を作成し全学生に配布し、学生の防災意識の向上を図った。</p>	<p>A</p>
<p>④ 専務職員や技術職員の能力の向上のため、機構、国立大学法人、社団法人国立大学協会などが主催する研修会、発委委等に参加させる。</p>	<p>・事務部長 ・技術室長 ・人事係長</p>	<p>④ 昨年度に引き続き、専務職員及び技術職員の能力向上を図るため、機構、国立大学法人、社団法人国立大学協会などが主催する研修会、発委委等に参加させる。東海、北陸地区人権技術職員研修会及び西日本地域国立高等専門学校技術職員特別研修会に参加することも、技術職員の能力向上および地域貢献のため、自分の専門と異なる分野の研修会にも積極的に参加させる。また、昨年度同様中学生のための体験授業や科学実験講座の支援をするだけでなく、引き続き、技術職員が中心となる出前授業は年度当初に実施報告書を提出する。</p>	<p>A</p>
<p>⑤ 専務職員及び技術職員については、国立大学との間や高等専門学校間などの積極的な人事交流を図る。</p>	<p>・事務部長 ・技術室長 ・人事係長</p>	<p>⑤ 昨年度に引き続き、専務職員及び技術職員については、国立大学法人や高等専門学校間などの積極的な人事交流を図る。技術職員についてはこれまでに、向保、技術職員会等での積極的な検討する。技術職員については、国立大学や高等専門学校などを利用して積極的な人事交流を図る。企業研修として昨年度同様3週間程度を計画しており、他専専との人事(業務)交流は1週間程度の人事交流を検討する。</p>	<p>A</p>
<p>⑥ 本校が管理する計算機システムの運用管理の効率化を図る。</p>	<p>・総合情報センター長 ・専務主事 ・専攻科長</p>	<p>⑥ 平成25年度は、新規に導入されたLANシステムが安定的に運用できるように管理担当者のスキルを上げる。</p>	<p>A</p>
<p>⑦ その他 ・本校の創立50周年記念事業を平成24年度に実施する。 ・静岡県東部地区の高専・大学が産業界・行政と連携して地域の産業振興に貢献する事業を展開するために、法人格を有する「静岡県東部地域産業官運振興会(仮称)」の設立に向けて中核的役割を担う。</p>	<p>・校長 ・総務委員会</p>	<p>⑦ 職場の労働環境の整備に力を入れ、教職員の勤務時間の把握や過重労働の根絶等、働きやすい職場環境を構築する。また、その一環として各専委員会(整理統合)等を図る。</p>	<p>A</p>
<p>5 その他</p>	<p>・校長</p>	<p>⑧ 静岡県東部地域イノベーションセンターの運営方針に關する情報が十分に伝わっていないため足踏み状態。</p>	<p>B</p>

沼津工業高等専門学校 平成25年度 年度計画 自己検評価表

<p>II 業務運営の効率化に関する目標を達成するために取るべき措置 ・ 中期目標の期間中、毎事業年度につき一般管理職(人件費相当額を除く。)については3%、その他は1%の業務の効率化を図る。 ・ 契約に当たっては、原則として一般競争入札等によるものとし、競争性、透明性を確保する。 ・ 東海北陸地区高専間相互会計監査を引き続き実施する。</p>	<p>II 業務運営の効率化に関する目標を達成するために取るべき措置 ① 一般管理職(人件費相当額を除く。)については3%、その他は1%の業務の効率化を図る。 ② 契約に当たっては、原則として一般競争入札等によるものとし、競争性、透明性を確保する。 ③ 引き続き、高専機構で実施する高専相互会計監査を受審する。</p>	<p>・ 事務部長 ・ 会計担当補佐</p>	<p>A</p>
<p>III 予算(人件費の見積もりを含む。)、収支計画及び資金計画 外部資金(共同研究、受託研究、奨学寄附金、科学研究費等)の獲得に積極的に取り組み、自己収入の増加を図る。</p>	<p>III 予算(人件費の見積もりを含む。)、収支計画及び資金計画 引き続き、外部資金(共同研究、受託研究、奨学寄附金、科学研究費等)の獲得に積極的に取り組み、自己収入の増加を図る。</p>	<p>・ 地域共同センター長</p>	<p>A</p>
<p>IV 短期借入金金の限度額 (該当無し)</p>	<p>IV 短期借入金金の限度額 (該当無し)</p>		
<p>V 重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画 (該当無し)</p>	<p>V 重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画 香貫舎跡地について、機構本部と協議し、利活用の方策を検討していく。</p>		<p>A</p>
<p>VI 剰余金の使途 (該当無し)</p>	<p>VI 剰余金の使途 (該当無し)</p>		
<p>VII その他主要務省令で定める業務運営に関する事項 1 施設・設備に関する計画 教育研究の推進や学生の福利厚生等の改善に必要な施設・設備に関する設備計画を策定し、計画的に実行する。また、ESGO事業の導入の可能性について検討する。</p>	<p>VII その他主要務省令で定める業務運営に関する事項 1 施設・設備に関する計画 平成24年度補正予算により、第2機械実習工場の改修を図る。 学際教育実験棟(新設)の改修要求を進める。</p>	<p>・ 事務部長 ・ 会計担当補佐</p>	<p>A</p>
<p>(1)方針 教職員ともに積極的に人事交流を進め多様な人材の育成を図るとともに、各種研修に積極的に参加し、資質の向上を図る。</p>	<p>(1)方針 教職員の人事交流を進め多様な人材の育成を図るとともに、各種研修に積極的に参加し、資質の向上を図る。教員の技術科学大学及び高専間交流並びに事務職員の異内機関との交流を引き続き推進するとともに、他県の機関との交流を検討する。</p>	<p>・ 校長 ・ 事務部長 ・ 人事部長</p>	<p>A</p>
<p>(2)人員に関する計画 常勤職員について、その職務能力を向上させるとともに、アウトソーシング等により、事務の合理化を進める。</p>	<p>(2)人員に関する事項 学際教育導入、専攻科の改編予定に伴い、教職員の人員配置について、高専機構の任期制教職員を含めて検討を行う。常勤職員について、引き続き、業務改善目標等評価基準を活用し、その職務能力を向上させるとともに、アウトソーシング等も含めた事務の合理化を進め、再雇用制度を活用した有効な人員配置計画を検討する。</p>	<p>・ 校長 ・ 事務部長 ・ 人事係長</p>	<p>A</p>
<p>3 積立金の使途 (該当無し) (該当無し)</p>	<p>3 積立金の使途 (該当無し) (該当無し)</p>		

<自己評価点 SABC/4段階評価)について>

S ... 当初の年度計画以上の取り組みを履行した。

B ... 年度計画達成には至らなかったが、具体的な取り組みを行った。

A ... 年度計画どおり履行した。

C ... 全く実行していない。

平成 25 年度 年度計画
評価シート

沼津工業高等専門学校 運営諮問会議委員
平成25年度 年度計画 自己点検評価 評価シート意見対応表

1. 教育に関する事項	学校側の対応等について (校長、副校長、3校長補佐及び該当の各委員会委員長等の意見)
<p>(1) 入学者の確保について</p> <p>(柳澤委員) ・広報誌、学校訪問、50周年式典等通じ広報活動は積極的に行われており、受験生や保護者の関心を集め志願倍率は維持できている。 <u>・女子学生の確保は一高専の努力だけでできるものではないが、数値目標を定めて取り組むことが望ましい。</u></p> <p>(若原委員) ・50周年記念事業を、高専の情報発信の機会として捉えた広報、中学への広報、女子学生増に向けた活動など、精力的に活動を行っている。短期的に結果の出るものではないため、長期視点で、入学者の追跡調査と併せて進めていることは、大変評価できる活動と思います。</p> <p>(三津濱委員) 確実に志望者を獲得している(H23年度 1.49倍⇒H24年度 1.95倍、H25年度 1.8倍)ことを評価。 1) 近隣地域プロモーション: 中学校訪問、1日体験入学等のオープンキャンパス 2) 女性へのアプローチ: <u>広報誌「キラキラ高専ガール」高専生をもっと多く社会へ出す(一学年の数を増やす)取り組みを検討願います。</u></p> <p>(丸田委員) ・創立50周年記念式典に合わせて広報活動を展開したり、推薦選抜の志願者を地区別に分析し、減少地区への対策を実施した等、入学者の確保と志願者の質の維持に向けた取り組みに努力が伺える。 <u>・入学者の確保については、特に、少子化に加えて「理科離れ」、職業選択・進路決定の先送りする風潮、普通高校志向など厳しい現実がある。このような中だからこそ、高専のメリット、特長、教育内容、寮制度、在校生及び卒業生の活躍を中学生とその保護者、そして中学校、関連者に理解、浸透させる活動を期待する。</u></p> <p>(工藤委員) ・入学者の確保については、様々な工夫がされており、実績もあるので評価「S」で良いと思う。</p> <p>(名倉委員) ・色々な努力の結果が受験生の獲得に繋がっていると思います。 <u>・安定した受験生を確保を目指して、他高専、他大学に無い風土を作り上げて欲しい。</u></p> <p>(西岡委員) <u>・広報活動に力を入れて頂いていると思います。これからも多くの人に沼津高専の特色と素晴らしさを知って頂ける様、努力して欲しいと思います。</u></p>	<p><担当部署> ○アドミッション委員会(校長、副校長) ・入試広報全般について(副校長) 15歳人口の減少、理科への関心の薄れなどが進む中で、志願者の増加に繋げていくのはなかなか難しい状況ですが、安定した志願者の確保や本校に適性のある入学者の確保に向けた様々な広報活動を引き続き実施していく方針です。(副校長)</p> <p>・女子入学者の確保について(副校長) 本校の入学者に占める女子学生の割合は、平成21年度:15%、平成22年度:12%、平成23年度:16%、平成24年度:18%、平成25年度:16%と若干ですが微増傾向にあります。 国立高専全体の女子学生の割合は約17%ですので、これを上回る18%が当面の数値目標と考えています。 また、高専機構と各高専においては、科学技術分野への女性の参画を積極的に推進しており、女子学生の確保にも高専機構全体として取り組むこととしているため、「キラキラ高専ガール」の活用の他、本校独自の中学生向け学校案内リーフレットにおいても、女子中学生を強く意識した紙面づくりとしました。広報誌からも女子学生にとって魅力ある進学先であることをアピールしました。</p> <p>・高校や私立大学での広報活動も参考に、沼津高専の魅力発信方法を研究、改善してまいります。(副校長)</p> <p>・現在進められている沼津高専の教育改革「混合学級と学際科目の導入」「専攻科の改編」を成功させることが他高専、大学にはない、沼津高専の新たな魅力創造につながるものと考えております。(副校長)</p>

(2)教育課程の編成等について

(柳澤委員)

- ・学際教育、混合学級、ミニ研究等、ねらいとした教育課程が着実に実行に移されている。
- ・専攻科改編(コース制)計画の了承が得られ、25年度の詰めと26年度からの実施が期待される。
- ・学生の全国や地域での活躍・活動ニュースを随時 Web トップページで紹介したほうがいい。(もし NEW TOPICS になじまないならば、新たなコーナーを設けるのもよい)

(若原委員)

全体的に、計画を前倒しの方向で進められているので良いと思います。

但し、④の計画では、「4、5年生の学業成績に基づく教員側からの到達度評価を継続して実施し」となっていますが、実施状況では記述がありません。実施されているとは思いますが、その概要を説明頂戴します。

その他、気づいた点:

②の自己評価が記載されていません。

④の実施状況で、「数学と物理の達成度試験に参加する」は、「……に参加した」とすべきでは?

(三津濱委員)

学校教育は、技術だけでなく多様性を学ぶ場であり学科の壁を払った「混合学級」を評価。また、ソフトウェアは実体験が重要であり、ロボコン、プログラミングコンテスト、ハッキング技術全国大会は有効。

英語教育で TOEIC は一つの評価手段であり、実際に英語を使う場/使おうとする意識を育ててほしい。

「ゴミフェスタ」の参加等、地域活動への参加は社会人としての作法を学ぶ場でもある。

(丸田委員)

・教育の質の改善を目的として、「学際教育」のミニ研究発表や新教育課程を適用した授業にアンケートを実施し、問題点の洗い出しと次年度以降への反映を進めている点は、意欲的取り組みとして評価できる。

・英語力の把握・向上の取り組みでは、実施状況によると全体の平均点の向上が図られたようであるが、各人別(学年や専攻等)の到達目標は示されているのか。また、各人のレベルをどのようにフィードバックし、学習意欲向上に結び付けているか。

(工藤委員)

・学科の壁を取り払った「混合学級」の考え方は、大変重要であると思う。人間力及び総合的技術者育成には必要であり、更に進展させていただきたいと思います。

(名倉委員)

・高専を離れた時に必要な知識はOBを通して、各企業の考え方を吸収、反映させて欲しい。

・学校での学生の知識吸収には、学生の興味をどんな風に引き付けていくかが重要だと思います。

(西岡委員)

・学校関係者の皆様の日々の努力により、いち早く学際教育を取り入れたり、時代のニーズに対応した改革を進めて頂き感謝しております。これからも、現在に満足する事なく、躍進していき頂きたいと思います。

<各担当部署>

- 教務委員会(教務主事) ○学生委員会(学生主事)
- 専攻科長(校長補佐) ○学際教育担当(押川)

・ご指摘の件、ホームページ上に何らかの方法で掲載する方向で検討致します。(副校長)

・ご指摘の「4、5年生の学業成績に基づく教員側からの到達度評価」は実施致しました。教務担当教員が担当がクラス学生に計算させた結果をとりまとめ、担任に返し、学生指導用の資料として提供致しました。(副校長)

②の自己評価が空欄のものをお送りしてしまいました。申し訳ありません。ここはS評価とさせていただいております。(評価担当)

④機構が行った数学と物理の到達度試験に参加しました。(副校長)

・ネイティブスピーカーの英語による専門に関する授業の実施、多数の会社での海外インターンシップ実施、本校独自または他高専が行う語学研修会など、様々な英語教育の場を提供し、英語の必要性、有用性を体験的に学ぶよう支援しております。(副校長)

・ご指摘の点、個人別の英語力達成度目標は設定されておませんでした。就職試験や編入学試験の際に、TOEIC スコアの呈示が求められる傾向にあることから、まずは、4年生の後期から個人別の達成度目標を掲げさせる指導を検討致します。(副校長)

・「混合学級」とした昨年度の1年生の平均点数は微増でした。各クラスとも「元気」がある印象でした。退学者数は3名と昨年度と変わりませんでした。留年者数は2名に半減しました。今後とも、注意深く観察すると同時に、混合学級の良さを引き出す工夫を行います。(副校長)

・昨年度は、全学年で実施したキャリア教育の中でOBの強力なご支援を頂きました。企業で求められるスキルや考え方をOBから教えて頂きました。(副校長)

<p>(3)優れた教員の確保について (柳澤委員) ・計画通りに教員の確保や育成の取り組みが行われている。 ・機構本部への表彰対象者の推薦が叶わず残念であったが、引き続きの努力をお願いしたい。</p> <p>(若原委員) ・単に、優れた教員を採用するのではなく、現職の教員の能力を向上させる取り組みは、評価が高い。今後も、この方向を継続してください。 その他、気づいた点： <u>④の計画に記載の、「女子寮巡回日(曜日)を設定し実施する」についての、実施内容の記述がありません。</u></p> <p>(三津濱委員) 知識を得るための教育についてよく配慮されている。 <u>社会への適合として、企業人の活用など言及してほしい</u></p> <p>(西岡委員) ・とても努力されていると思います。これからも、学生達のために、人生の先輩としても尊敬でき、信頼できる教員の確保に努めて頂きたいと思います。</p>	<p><担当部署> ○校長、副校長、各校長補佐</p> <p>・H24年度新規採用女性教員がいないため改めて要望をさくことは実施しませんでした。ただ変更の希望があれば対応します。(寮務主事)</p> <p>・4回行われた教員FDのうち、1回は企業OB(本校OBでもある)を講師に招き、企業が求めている人材像、キャリア教育の在り方についてご講演頂き、教員の意識改革につなげました。(副校長)</p>
<p>(4)教育の質の向上及び改善のためのシステムについて (柳澤委員) ・様々な観点から、教育の質向上・改善に係わる取り組みが着実に行われている。 ・地域企業やOBとの連携により、高専らしいキャリア教育の取り組みが展開されている。 ・<u>④に関し、授業工夫実践例をWeb上で公開する計画であったが、公開されているか。(探し方が悪いのか見つけられなかった。それとも学内限定公開?)</u></p> <p>(若原委員) ・OBによるキャリア教育支援の取り組みは、大変有効なものだと思います。学生の追跡調査を通して、その成果を明らかにするとともに、<u>全国高専へ広めていくことを機構を通じて主張してはいかがでしょうか?</u></p> <p>その他、気づいた点： <u>⑧に記載の、東海地区5高専・・・の部分は、東海地区⑤高専と豊橋技術科学大学の連携協定に基づく活動として実施したものです。参加者の利便性を考えて、第2回教員研究集会開催日に併せて実施しました。</u></p> <p>(三津濱委員) <u>インターンシップは社会学習として有効、参加学生 106名は評価。地域企業との「共同教育」はどんどん企画を、協力します。</u></p> <p>(丸田委員) ・<u>インターンシップは、貴校にとっても企業にとっても有益である。是非、継続するとともにインターンシップを経験する学生の増加を図り、今まで以上の取り組みとなることを期待する。</u> ・<u>キャリア支援室の設置はよいこと。低学年から自己を捕らえ、将来の進路について自ら考えさせる機会を多く与えて欲しい。</u></p> <p>(西岡委員) ・努力の成果が出ていると思います。これからも学生達のためになる取組を進めていって頂きたいと思います。</p>	<p><担当部署> ○校長、副校長、各校長補佐</p> <p>・学内限定のポータルサイトで公開致しました。学外に向けた発信について、教務委員会へ諮ります。(副校長)</p> <p>・H24年度で「企業技術者等活用プログラム」が終了したため、H25年度から新たなキャリア教育支援プログラムを構築し、自立化を図っています。予算が無くなったので従前のようにOBを活用できませんが、可能な限りOBの支援も仰いで行きます。(学生主事)</p> <p>⑧の記述を、ご指摘のとおり連携協定に基づくものである旨、追記いたしました。(評価担当)</p> <p>・有難いご提言に深謝申し上げます。地域企業でのインターンシップ、積極的に企画させていただきます。(副校長)</p> <p>・有難いご提言に深謝申し上げます。インターンシップの新たな取り組みとして、専攻科1年生の後期に4か月の長期インターンシップを計画しております。ご支援の程、お願い申し上げます。(副校長)</p>

<p>(5) 学生支援・生活支援等について (柳澤委員) ・50周年記念事業の一環として国際交流基金が創設され、今後の成果が期待される。</p> <p>(若原委員) ・全体的に順調に計画が進んでいると思います。 その他: ②の中で、寮のAC設置完了の下りは、実施計画と関係ないように思われます。</p> <p>(三津濱委員) 心のケア(学外カウンセラー)は評価。</p> <p>(丸田委員) ・着々と環境整備、設備の導入・更新に努められています <u>が、学生からの意見や要望はどのような形で吸い上げていますか。</u></p> <p>・学生支援活動は、多岐に亘る事業を展開され評価できる。マンモス校にはない高専の強みを生かして、教職員が1人の学生に向き合う貴校の学生生活支援は恵まれた教育環境です。特に、貴校の伝統ある寮生活は、<u>価値ある生活支援であり、今度とも継続し、学生の自立心向上に努めて欲しい。</u></p> <p>(工藤委員) ・メンタルヘルス関係は充実していると思います。特に「Q-U」を2回実施していることは素晴らしいと思います。</p> <p>(名倉委員) ・国際交流基金の使用結果については、同窓会への報告をお願いします。</p> <p>・女子学生が増加しています。<u>施設、食事当について配慮を必要を感じます。</u></p> <p>(西岡委員) ・学生達のためによく配慮して頂いていると思います。難しい年代の子供を預けさせて頂くので、保護者も学生も安心して学生生活を送れるよう、より一層、改善して頂けると有り難いと思います。</p>	<p><担当部署> ○学生委員会(学生主事) ○寮務委員会(寮務主事) ○図書委員会(図書館長)</p> <p>・寮のAC設置完了の記述は、機構本部及び本校の中期計画に左右されるものであることから、具体的な年度計画としては明示しておりませんが、中期計画の中に、「寄宿舎改修などの計画的に整備する」とあり、これに対応した実績として記述させていただきました。(評価担当)</p> <p>・女子学生の更衣スペースの設置については、女子学生へのアンケート結果に基づいています。(学生主事)</p> <p>・今後とも低学年全寮制を維持していきたいと思いません。(寮務主事)</p> <p>同窓会理事会等の機会を利用して報告させていただくことといたします。(事務部長)</p>
<p>(6) 教育環境の整備・活用について (柳澤委員) ・教育環境の整備は、計画的に行われていると判断できる。</p> <p>・省エネルギー計画について、具体的な数値目標を掲げて取り組んでいくことが望ましい。</p> <p>(若原委員) ・計画に記載の「<u>施設の課題を盛り込んだ利活用整備計画案を策定し、実施していく</u>」について、<u>実施状況の記載がありません。</u>全体的には、計画を立てて推進されていると読み取れるので、問題はありません。</p> <p>(丸田委員) ・「<u>施設の老朽度</u>」とあるが、<u>どの程度なのか。</u></p> <p>・<u>省エネ・CO2削減などのエコ対策事業には、年度毎の具体的な数値目標を立案し、それに対する達成をトレースしているのか。</u>取り組んだ内容だけの記載では、<u>どの程度効果があったのか分からないため評価しづらい。</u></p> <p>(西岡委員) ・学生達のために、よく考慮して頂いていると思います。これからは学生達が安心して楽しく生活できるよう配慮して頂けたらと思います。</p>	<p><担当部署> ○施設整備計画委員会(校長) ○安全衛生委員会(副校長) ○事務部(事務部長)</p> <p>・機構本部への予算要求する関係もあり、具体的な数値目標は掲げにくい状況です。(事務部長)</p> <p>・平成24年度は施設の利用整備計画を策定する前段階として施設の点検評価を実施しました。(事務部長)</p> <p>・経年20年以上の建物面積は30,459㎡(全体面積の80%)、30年以上は26,095㎡(68%)である。</p> <p>・高専機構全体の取り組みとして、「平成16年を基準とし8%削減する」との目標を掲げて行っているため本校としても、その目標に向けて取り組みを進めています。 (事務部長)</p>

2. 研究に関する事項	学校側の対応等について
<p>(柳澤委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域産業界や企業と連携した研究を推進し、成果があがっている。 ・<u>科学研究費等の獲得活動のみならず、成果の出ている獲得実績についても数値をあげて記述することが望ましい。</u> (後掲のⅢ. 予算の欄に記載されてはいるものの) ・<u>Web 上でのデータによると、学科における女性研究者(教員)が少ないと思われるので、採用の努力をお願いしたい。</u> <p>(若原委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外部資金の獲得額がトップクラスとのことですので、この方向で取り組みを継続していただきたい。 ・新しい共同研究テーマを探査するためには、ニーズ調査が重要で<u>す。シーズ発信と合わせて地元の産業界と連携したニーズ調査を行って教員に提供する活動について、検討下さい。</u> <p>(三津濱委員)</p> <p>地元企業と連携した研究活動は評価。 <u>教授陣の研究活動と、高専教育とのシナジーについて言及してほしい。実際には、専科までいかないと繋がらないかとも思うが、卒業後の連携も含め考えを聞きたい。</u></p>	<p><担当部署> ○地域連携・研究支援委員会(テクノセンター長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・科研費の獲得実績は今後自己点検評価表に記載します。なお、H24は13件14,300千円でした(継続課題含む本校教員が研究代表者分)。 ・寄附金、寄附研究部門、共同研究など公開可能なテーマと、科研費のテーマ名および担当教員はホームページに一覧掲載しています。しかし、各テーマの金額は企業名等が推定できることなどから、掲載は見送っています。ただ、項目毎での総計等の公開についてテクノセンターWeb サイト内に実績グラフを掲載していますが、リンク等の公開方法を検討したいと考えます。 ・教員公募の際には「本校は男女共同参画を推進しており、女性の積極的な応募を期待します。業績及び人物の評価において、同等と認められる場合は女性を採用します。」を必ず記載し、女性教員採用に努めています。しかし、応募自体が少ないのが現状で、引き続き、今後の課題であると考えます。これまではシーズの公開に力を入れており、多くの共同研究等に結びつけることができました。しかし、ご指摘通り、今後は地域企業のニーズを集め、どのような研究分野あるいは内容が地域で必要とされているかを調査し、教員に提示することは有用であると考えます。まずは、地元企業の方が高専に集まる「テクノフォーラム in 沼津高専」においてアンケートを取る事を検討致します。 ・研究活動における学生教育とのシナジー効果として、研究活動を通じた最新技術の教授と共同研究への多くの本科・専攻科学生の参加があげられます。しかしこれらはインターンシップなどとは異なりシステム化されておらず、またアウトプットも明確ではなく、掲載しておりません。今後とも共同研究への学生の積極な参加を呼びかけ、年度計画への記載を検討したいと考えます。 ・卒業後の共同研究等の学生教育を含めた地域企業との連携は重要であり、本校としても地域でのプレゼンスを上げるためにも、実現したい事項ではあります。これまで、一部の学生が共同研究先に就職した例はありますが、殆どの学生が進学あるいは大手企業等に就職するため、地元に残ることは少ない状況です。このため、共同研究は後輩が引き継いでおり、卒業後の連携は共同研究のみで、学生教育は無いのが現状です。ただ卒業生から共同研究テーマ(技術相談)を受ける事例がありますので、地元企業との交流を通して、連携についての形や連携への対策方法(例えば地元企業に就職している学生の一覧作成と交流会の開催等)を検討して行きたいと考えます。(地域共同テクノセンター長)

3. 社会との連携や国際交流に関する事項	学校側の対応等について
<p>(柳澤委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「富士山麓医用機器開発エンジニア養成プログラム」は、人材育成と地域産業の育成に大いに貢献している。 ・産学連携、地域連携ともに活発に行われている。 ・卒業生ネットワークの活動やホームカミングデーの初実施など、同窓会との連携強化が図られている。 ・学生の国際交流の実績が着実にあがってきている。国際交流基金の設置により、今後さらなる成果を期待したい。 <p>(若原委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種連携事業が実施され、学生などへの配慮もされており、評価は高いと思います。 <p>(三津濱委員)</p> <p>地域貢献と海外交流は評価。</p> <p>(丸田委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・創立50周年記念式典に当たり、当年度は例年に比べ同窓会や地域、関係者と交流する機会が多く、卒業生をはじめとして意見や提言が寄せられたのではないかと。そうした意見・要望を是非次年度の計画に生かして頂きたい。 ・国際化に対応した観点から、海外派遣研修、留学生の受入、国際交流事業への参画機会の拡大等、様々な取り組みの継続や拡張が必要。(現状のブラッシュアップ) ・なお、今後の研究活動や企業の海外展開が加速している昨今では英語の実力が求められており、TOEICのスコア改善を目指した取り組みを継続して欲しい。 <p>(名倉委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公開講座を各市の商工会等の協力を得て、もっとPRすると中小企業の現役従業員の参加が増加し、地元への貢献が顕在化すると思います。 ・今後「沼津高専エンジニア‘Sネット’」の活用を増加させて欲しい。 ・留学生の受入を増加させ、国際交流を更に活発化させて欲しい。特に東南アジア、海外に出て行くだけが国際感覚を養う事ではなく、人脈作りが必要である。 	<p><担当部署></p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域連携・研究支援委員会(テクノセンター長) ○各校長補佐 <p>・創立 50 周年を機に国際交流基金が設立された。この基金で様々な海外研修、留学、海外インターンシップへの参加者を経済面で支援してまいります。加えて、校内でもネイティブスピーカーによる、専門に関する集中講義を校長リーダーシップ経費で開講するなど、海外での勉学を支援してまいります。(副校長)</p> <p>・公開講座の応募数拡大のため、ホームページへの掲載はもとより、沼津や三島を始め近隣の商工会議所、共同研究先などにダイレクトメールにて案内してまいります。さらなるPRのため、今後はダイレクトメールのみならず、直接訪問して案内するなど更なる積極的なPR活動を検討したいと考えています。(地域共同テクノセンター長)</p> <p>沼津高専同窓会「沼津高専エンジニア’ Sネット」との連携は本校でも期待しており、今後は具体的な事例の実施につなげたいと考えています。(副校長)</p> <p>・留学生の受入数については機構本部が差配してまいります。(学生主事)</p>

4. 管理運営に関する事項	学校側の対応等について
<p>(柳澤委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校長のリーダーシップのもとに、適切なマネージメントが行われている。 ・男女共同参画の推進やハラスメント防止の観点からの取り組みの充実が期待される。 <p>(若原委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・④計画に記載の「技術職員」の高専技術職員研修会には、<u>当然参加されていると思いますが、実施状況で記述が見られませんので、エビデンスとして記述された方が良いと思います。</u> ・⑦会議等の効率的な運営に関しては、<u>会議時間の厳守が一人歩きして議論が不足しては本末転倒なので、将来的に議論を尽くすところは時間をかけて拙速な議論にならない配慮をお願いします。</u> <p>(三津濱委員)</p> <p>教育者と組織/ファシリティーの管理業務の両立は難しい。<u>他事業体との交流は評価できるが、目的は何か。適正な管理業務のあり方についての言及がほしい。</u></p> <p>(名倉委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害について、更に地域との繋がりを作ることが大事だと思います。 ・学校としてのBCPの検討をしておく必要があると思います。 	<p><担当部署> ○校長、事務部長、技術室長</p> <p>ご指摘のとおり技術職員は、毎年開催される高専技術職員研修会に出席しており、実施状況の中にそれに関する記述が欠落しておりましたので記述したいと思います。また、昨年は、技術職員の企業研修も実施しており、これについても記述いたします。(事務部長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他機関との人事交流制度の目的については、その事業運営・業務のやり方等を学び、そこでの経験を通して、<u>本人の仕事の幅や考え方等において多様性・柔軟性等を涵養し自己成長を図るとともにその経験を本校の業務にフィードバックするのが目的です。特に本校では経験する機会が少ないが、経験値としては必要とされるものを他機関に出したことによって経験をするという意味は大きい(特に契約、施設等)</u>(事務部長) ・本校体育館を災害避難所とする近隣地域5自治会が主催した「避難所運営マニュアル」作成会議の討議に参加し、体育館等の見学会を実施する等、<u>地域との連携を図っている。</u>(事務部長)
<p>5. 総合所感</p> <p>(本校の教育研究・運営体制等全般に関して、どのような事でも構いませんので、ご自由にご記入ください)</p>	<p>学校側の対応等について</p>
<p>(柳澤委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体として、校長の強力なリーダーシップのもとに、教育・研究・地域貢献活動がバランスよく遂行されているものと評価できる。 ・ホームページに関し、<u>日常的なニュース・トピックスに関し、行事等の情報提供、学生・教職員の活動紹介など、少し分類して提供するほうが閲覧者にとって見やすいのではないか。</u> ・教育に関し、<u>入学者の開拓確保、在学者の教育プログラムの充実についてはしっかりと中期計画や年度計画にうたわれ着実な取り組みが行われているが、出口(就職や進学)については必ずしも明確な方針や計画がみられない。卒業・修了後の就職や進学の在りようをどのように考えて教育するのか、どのような卒業・修了認定方針を示すことが望まれる。(アドミッションポリシー、カリキュラムポリシーに対応するディプロマポリシーの確立が必要ではないか)</u> ・「運営諮問会議」の委員を3年間務めさせていただき、各委員の多様な意見に対する学校側の一体感ある真摯な対応に沼津高専の底力を実感いたしました。 	<p><担当部署> ○校長、副校長、校長補佐、各委員会委員長</p> <p>・本校は設置目的を「幅広い場で活躍する実践的・創造的な技術者の養成」においております。この観点から、教育課程表をはじめ、様々な教育が行われております。その集大成が卒業生・修了生の進路であると考えております。つまり、<u>出口を見据えた教育を行っているものと考えております。</u>(副校長)</p>

(若原委員)

・校長先生のリーダーシップの下、メリハリのある計画を立てて、実施されているように思います。

・技術者の教育機関として、実践力を向上させる専攻科生による本科生支援、重複科目の合同開講科目の設定、地域社会との連携による富士山麓医用機器開発エンジニア養成プログラムなど、学生の自力をつけるプログラムが多数設定されており、この方向で技術者養成を進めていただきたい。

・教員自身が、グローバル対応力、企業での開発経験などが少ないと、上記の教育を活かし切れない点についても、社会で活躍してこられたOBを招いて、実践力や経験の伝承の場を設けており、意欲と興味のある学生にとっては、非常によい環境を提供されています。

・ただし、過度なプログラムは、メンタル面に弱さを抱えている学生には重荷になるので、教員などがアドバイスして学生が参加するプログラムの取捨選択を行う体制があればさらに良いシステムとなると思います。

・逆に、メンタル的に弱い学生が、メンタル面を強化する取り組みなどが用意できると、技術教育の沼津高専モデルとして確固たるものになっていくと思います。

(三津濱委員)

高専には、①優秀なエンジニアの社会への提供、②地域研究機関としての社会貢献、の二面がある。

① 優秀なエンジニアの社会への提供

質についての活動は素晴らしいが、量への取り組みを検討いただきたい。高専機構のあり方にもかかわると思うが、企業として重要なエンジニアのお供給源だが、総人口が少なすぎる

② 地域研究機関としての社会貢献

大学のミッションと被る部分だがどう位置づけるのか。静岡県東部は理系大学に乏しく、沼津高専は重要だが、大学と違い卒業生が即、高専の研究陣に加わるのは少ないのではないか。企業間連携を含めた人材交流の枠組みが必要では、と考える。

また、教授として研究と教育の両立をどう見るか。生徒からは、教授の研究者としての姿を見ることはよい経験であるが、隔離した研究部門の併設等も、視野に入れてはと考える。

(丸田委員)

・近年、企業ニーズ対応するための学科再編や、人材育成や協力体制を強化するため市や高専、技術科学大学との協定締結、共同研究や受託研究等で外部資金獲得に努められ全国トップクラスの資金を受け入れるなど、新しいこと、各方面への働きかけに積極的に取り組まれ、大きな成果を挙げられている。

・「幅広い場で活躍する多様な技術者の養成」をめざし、企業のニーズにあった高度な技術者を育て、同時に海外で活躍できる人材を育てて欲しい。また、自発的学習能力を身につけ、継続的に自己啓発できる技術者の要請に努めて欲しい。

・企業に入って活躍できる能力の一つにコミュニケーション力がある。コミュニケーション力は、社会に出て大変重要な要素と言うこともできる。

社会奉仕活動、自然体験活動などのボランティア活動は得るものが大きいと思いますし、この活動を通してコミュニ

・ご指摘頂いたキャリア教育、ピアサポートのいずれもが学生の選択による授業や取組です。メンタル面で弱い学生に負荷をかけないように注意を払っております。一方で重要なお指摘がメンタル面で弱い学生のメンタル強化の課題と考えております。特に、本校の学生のメンタル面での弱さは、就職試験を行った企業から多くの指摘を頂いております。難しい問題ですが、避けて通れない重要な課題と考えており、具体策を立て早期に実施してまいります。(副校長)

・①のご指摘は、私たちも同感です。逆に、企業の皆様から政府へ働きかけて頂きたいと存じます。(副校長)

・沼津高専で行われている企業との共同研究の多くが地域中小企業との共同研究です。この研究には、専攻科生、本科5年生が参画し、優れた研究成果を上げてくれています。実用化され、製品化される研究成果も多数出ております。これらの取り組みは、沼津高専における教育を日々新たなものとしてくれています。(副校長)

・本校で取り組んでおります教育改革「混合学級と学際教育」の導入は、次世代が求める技術を創造できる技術者養成を目指した変革です。ご期待下さい。加えて、創立50周年を記念し設立された「国際交流基金」は、在学中に一度は海外で学ぶ機会を持って欲しいとの校長の強いリーダーシップから生まれたものです。この基金を生かす教育を企画してまいります。(副校長)

・コミュニケーション力の養成について、本校は550名を超える学生寮での教育と生活、寮生会活動、学生会活動、クラブ、学級と様々な仲間との交流、研鑽の場を設

ケーション力を高めて欲しいと思います。
近年、活動的な新入社員がいる一方で、受身の者も多く見受けられます。これらの違いは、学生時代までの環境に大きく左右されているようです。学生時代に、様々な活動を経験させてください。
コミュニケーション力向上のための取り組みを期待したい。

(工藤委員)

・全体的に自己評価点を良くした方が自然である。大変頑張っていると思います。

(名倉委員)

・評価Aが多く、課題が見えにくい気がします。
地域、地元の中小企業への人材供給も大事な事(少子化、人口の減少、製造業の空洞化)と捕らえて欲しい。

(西岡委員)

・私には、専門的な事や難しい事は分かりませんが、今まで役員としていろいろな場面で、校長先生をはじめとする諸先生方や関係者の皆様の学校や学生達に対する取組や姿勢というものを拝見して参りました。その度に、皆様の真摯な姿勢にいつも頭が下がる思いです。感謝しても感謝しきれない思いで一杯です。日々、学生や学校のために最善を尽くされているお姿を見て子供達は生活し、成長していると思います。本科で5年間、専攻科まで入れると7年間という長い歳月をかけて培った先生方や学校関係者の皆様との絆や信頼関係は他の学校とは比べものにならないくらい深いものだと思います。過日、学生主事からお話がありました高専祭の売り上げの一部を東北の義援金にという学生達の優しい気持ちや、連休でアルバイトをして有志のみんなで働いたお金を義援金に・・・という事。学生主事自らも参加されると伺い、生徒も先生も本当に素晴らしいと感動しました。校長先生をはじめとする諸先生方、学校関係者の皆様におかれましては、大変お忙しいと存じておりますが、これからも子供達のために、お力添えを頂ければ幸いです。これからもよろしくお願いたします。

以 上

けており、高校にも大学にも勝るとも劣らぬコミュニケーション力の養成の機会を提供しているものと考えておりますが、これに満足することなく、人を思いやることのできる技術者養成を目指します。(副校長)

・多くの課題をご指摘頂いたと考えております。国際化への対応、コミュニケーション力の養成、メンタル面での弱さ対策、企業OB・OGの活用等。

平成26年度入社卒業予定者では、中小企業への内々定が増加しました。地域企業への人材供給にも配慮してまいります。(副校長)

沼津工業高等専門学校
平成 26 年度 年度計画

沼津工業高等専門学校 平成26年度 年度計画

(前文)

独立行政法人国立高等専門学校機構（以下「機構」という。）の中期目標・中期計画を踏まえ策定した沼津工業高等専門学校（以下「本校」という。）の計画（第3期中期計画）に基づき、平成26年度の業務運営に関する計画を次のとおり定める。

I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するために取るべき措置

【1. 教育に関する事項】

(1) 入学者の確保

① 適切な入試実施への取組計画

昨年度と同様、本校及び浜松の2会場で入試を実施

校長が、地区の各校長会の校長を訪問し、情報交換を行う。また、教職員による中学校訪問を引き続き行うとともに、中学校主催の進学説明会にも積極的に参加する。本校独自の広報資料を作成し、県内及び近隣県（神奈川・山梨県）の中学校へ配布するとともに、ホームページでの情報発信等の広報活動を引き続き積極的に行う。

昨年度に引き続き、本校の授業内容の一部が体験できる「中学生のための体験授業」、「ミニ体験授業」、「出前授業」の体験型オープンキャンパスと、「一日体験入学」、「進学説明会」、「キャンパスツアー」の見学型オープンキャンパスを実施する。

女子学生の志願者確保の観点から、女子中学生を意識した入試広報パンフレットを作成するとともに、高専機構作成の女子中学生向けパンフレットの有効活用を行う。また、公式ホームページ内の受験生向けページを更新し、より中学生に分かりやすい構成とするとともに、女子中学生向け情報を充実させる。

② 志願者の質の維持及び志願者確保のための取組計画、入試広報の実施計画

- ・入学生の学業成績の検証により、現在の選抜基準で志願者の質の維持が確認できているので、本年度も現行の選抜基準を継続する。
- ・入試広報の実施計画は昨年までと同様、以下の企画を実施する。

教員による中学校訪問、校長による各地区の中学校校長会会長を訪問、本校独自の広報資料2種類を作成・配布、中学生のための体験授業、ミニ体験授業、出前授業、一日体験入学、進学説明会、中学校主催の進学説明会、キャンパスツアー

中学生やその保護者を対象とする本校独自の広報資料を作成するとともに高専機構に広報資料を提供する。高専機構作成の広報資料の有効活用を行う。

入試成績と入学後の学力との相関関係等について分析を行う。得られた結果に基づき、アドミッション委員会において現行の入試制度や選抜基準等が妥当であるかについて検証を行い、必要があれば入試制度の見直しを行う。

③ 女子学生志願者の確保への取組計画

ホームページを更新して女子中学生向けの情報を充実する

入学生の学力水準の維持、向上を目指すとともに、入学志願者数の確保（広報活動の充実）・維持に継続して努力する。また、女子寮の居室確保のため新寮の設置要求を高専機構に対し引き続き行うなど、女子学生の受入体制の強化に努力する。

(2) 教育課程の再編

① 中長期(5～10年程度)の高専の将来構想、教育課程の改善の検討及び必要な措置

- ・平成24年度新入生から適用を開始した新教育課程、すなわち現行の専門5学科を維持して、1学年のみ混合学級、2学年ミニ研究、3・4・5学年に環境・エネルギー、医療・福祉、新機能材料の学際3

分野のいずれかを選択する学際教育を粛々と進めることにより産業構造の変化に対応できる教育を進める。

- ・学際教育の教育効果を挙げるための施設として学際教育実験棟を概算要求する。

② 英語力向上に関する取組計画

- ・1、2 学年で TOEIC Bridge テスト、3、4 学年 TOEIC IP テストを全学生に受験させることを継続する。その結果を活用し、技術者として必要とされるコミュニケーション能力を伸長させる方策を検討する。

高専機構が開催した教員研修（英語による専門授業）に参加した教員を講師とした教員の英語力強化研修会を開催する。

③ 学習到達度試験の活用状況

- ・「数学」、「物理」の学習到達度試験の結果を分析して、該当科目の修得状況を把握し、教養科と専門学科が連携して数学、物理の学力を伸ばすための教育改善に役立てる。

学生による適切な授業評価・学習到達度評価を実施し、その結果を教育方法の改善に活用する。

平成 25 年度に導入した GPA 自動計算システムと学生授業アンケートを活用し、継続的に平成 24 年度導入の新教育制度（1 年生工学基礎、2 年生ミニ研究）の評価と改善を行う。

3 年生と 5 年生による学習到達度自己評価と 4、5 年生の学業成績に基づく教員側からの到達度評価を継続して実施し、平成 24 年度から移行した新教育課程による教育課程改善の効果の検証に役立てるためのデータを蓄積する。

3 年の全国高専学習到達度試験「数学」、「物理」に継続して参加し、その結果を活用して、該当科目の修得状況を把握し、教養科と専門学科とで連携して数学、物理の力を伸ばすための教育改善に役立てる。4 年生で工学系数学統一試験を全学生に受験させることを継続する。

④ 専攻科の充実を図る計画

- ・本科の学際 3 分野の教育を深化するように改編し、本年度から発足した総合システム工学専攻（環境エネルギー工学コース、新機能材料工学コース、医療福祉機器開発工学コース）、定員 24 名の教育を粛々と進めて実質化する。
- ・概算要求している学祭教育実験棟を専攻科の教育にも有効活用する。

⑤ 社会奉仕体験活動や自然体験活動等の参加・取組計画

- ・学生会を中心に校外でのボランティア活動を行う。
- ・1 年生のオリエンテーション研究、3 年生のスキー研究を通じて自然体験活動を行う。
1～4 年生全クラスで校内外の清掃を行う、クリーン活動を実施する。また、学生会を中心に校外でのボランティア活動を行う。さらには、1 年生のオリエンテーション研修、3 年生のスキー研修を通じて自然体験活動を行う。

寮においては、寮生による近隣中学校放課後学習支援および休日学習支援を継続する。

(3) 優れた教員の確保

- ① 近隣大学等が実施する FD セミナー、地元教育委員会等が実施する高等学校の教員を対象とする研修、企業や技術士会等を利用した教員を対象とする能力向上に資する研修への参加・実施計画
- ・連携協定を締結している東京工業大学、静岡大学、豊橋技術科学大学、日本大学国際関係学部が実施する FD セミナー、主に高等学校教員を対象として「生活指導沼津地区研究協議会（生地研）」が主催する生活指導研修会及び東海北陸地区高専学生指導力向上研修会に説教的に教員を派遣する。

② 優れた教員の確保や教員のキャリアパス形成のための取組計画

- ・教員の採用は公募制を原則とし、採用の際に高専・両技科大間交流制度を体験することを奨励する。
- ・国内他機関・大学への内地研究員、海外機関・大学への在外研究員として教員を計画的に派遣する。

- ・昨年度と同様、本校外の勤務経験や1年以上の長期にわたる海外での研究や経済協力に従事した経験を、採用・昇任にあたって重視し、教授・准教授については、これらの経験を持つ者が、全体として60%を下回らないようにする。

③ 女性教員採用・登用についての具体的な取組計画（施設整備を含む）

- ・教員採用の際、同レベルの応募者の場合には女性教員の採用を優先する。
- ・女子教員との面接等により希望を入手して働きやすい環境の整備に努める。
- ・引き続き、女性教員への面談等を実施し、女性教員の働きやすい職場環境に配慮しつつ、現場教員の要望を反映できるような体制整備を図る。窓口となる女性教員を中心として機構が主催する男女共同参画事業に積極的に参加するように努める。学寮巡回業務を希望する曜日を女性教員に聞き取り、それに沿った割振りを継続する。

④ 教員FDの取組計画

- ・従前通り、年4回（5月、8月、10月、12月）の教員FD研修会を計画的に開催する。
- ・教員相互の授業参観を引き続き実施するとともに教員FD研修会との結合も検討し、授業参観の改善を図る。また、機構が開催する「教員研修（クラス運営・生活指導研修会）」や一般科目研修等に積極的に参加者を派遣する。
- ・生活指導に関し主に高等学校教員を対象とした「生徒指導沼駿地区研究協議会（生地研）」に教員を派遣する。また、東海北陸地区高専学生指導力向上研修会に積極的に参加・協力する。

⑤ 他機関との教員交流

- ・高専・両技科大間交流制度を積極的に活用すると同時に、近隣企業へ教員の研修派遣についても検討する。

(4) 教育の質の向上・改善

① モデルコアカリキュラム(試案)への取組計画

- ・モデルコアカリキュラムの充足を確認したうえで、学生にはポートフォリオの活用を徹底し、教員はシラバスに提示した教育目標の達成度を評価するルーブリックを試行する。

② ICT活用教材や教育方法の開発、利活用

- ・eラーニングのプラットフォームとしている moodle を活用した ICT 活用教材や教育方法の開発、利活用を継続して実施する。
- ・moodle 内に学習支援に関するコースを掲載し、専攻科生による勉強部屋や学習支援活動に関する取組を紹介するなど、学習支援の取り組みを広く周知する場としても活用する。
情報処理演習室の教育用計算機システムにおいて、ソフトウェア環境を最新の状態に保ち、質の高い計算機環境を提供する。
「平成 27 年 3 月の教育用計算機システムのリプレイス」に向け、他高専／大学で採用されている技術の調査を行うとともに、学科のニーズに応えられるようなシステムにすべく検討し、最善のシステム導入に努める。

③ エンジニアリングデザイン教育に関する取組計画

- ・卒業研究、専攻科研究において一部の研究室で実施されているエンジニアリングデザイン教育を、全学科の全学生に適用できる教育体制を構築する。

④ 自己点検評価への取組計画

- ・平成 20 年度から継続的に実施している、年度計画に対する自己点検評価結果を基に外部有識者を構成委員とする運営諮問会議による外部評価を受け、指摘を受けた事項を学内の PDCA サイクルに載せて改善に努める体制を継続する。

⑤ JABEE 認定、機関別認証評価への取組計画

- ・平成 27 年度に JABEE の継続審査を控えており、グローバル化を見据えた「チームワーク力の向上」と「デザイン教育の充実」を中心に教育改善を進めて継続認定に備える。
- ・平成 23 年度に受審した機関別認証評価で「優れた点」と評価された事項について継続して維持する。

⑥ インターンシップの実施計画

- ・本科 4・5 年生のインターンシップはこれまでと同様に継続し、本年度から新たに始まる専攻科 1 年生の長期学外実習（10 月、11 月、12 月、1 月の 4 ヶ月間）には地域の優良企業を中心に学生を派遣して共同教育を実践する。

⑦ 企業人材を活用した教育の取組計画

- ・従前と同様、専門学科の選択科目を中心に企業人材に非常勤講師として教育に参加いただく。
- ・昨年と同様、外部機関と連携して「Future すずおか」や「就職祭」を開催して、企業人材に産業界の現状について情報提供していただく機会を提供する。
- ・1, 2 年生対象キャリア教育として地元企業から講師を派遣して頂く「Future すずおか」や、地元企業等を招いて行う「就職祭」等を通して、地域企業との「共同教育」を推進する。

⑧ 共同教育の実施計画

- ・企業との共同研究に卒業研究・専攻科研究の学生が参加する形態の共同教育は元より、本年度から始まる専攻科 1 年生の長期学外実習（4 ヶ月間）が共同教育実質化の機会となるように学生受入企業等に働きかける。
- ・本科 4・5 年生のインターンシップはこれまでと同様に継続することとし、本年度から始まる専攻科 1 年生の長期学外実習（10 月、11 月、12 月、1 月の 4 ヶ月）は地域の優良企業を中心に学生を派遣して共同教育の推進に向けた実施体制の整備を進める。

⑨ ICT 活用教育に必要な校内情報基盤の整備計画

- ・情報処理演習室における教育用計算機システムのソフトウェア環境を最新の状態に保ち、質の高い計算機環境を維持する。
- ・平成 27 年 3 月の教育用計算機システムのりプレイスに向けて最善のシステム導入に向けて準備を進める。

(5) 学生支援・生活支援

① メンタルヘルスについての取組計画

- ・学生生活支援室及びカウンセリング室主催の講演会等を学生対象に開催する。
- ・教員を対象としたメンタルヘルス講習を教員 FD 研修会において開催する。
- ・学生主事主催で課外教育特別講演会や、クラブ活動及び全教員対象の救急救命講習会を実施する。さらには、低学年クラスに対し Q-U テストを実施する。寮においては、寮生リーダー研修において引き続き救命救急講習を行っていく。

② 就学支援・生活支援の取組計画

- ・各種奨学金に関する情報を集約した学内限定ホームページを更新する。
- ・学生主事が主催して、課外教育特別講演会やクラブ活動全学生対象の救急救命講習会を実施する。
- ・各種奨学金に関する情報を集約した学内限定ホームページの情報の更新を行う。50 周年記念事業の一環として創設された国際交流基金の運用を継続する。

③ キャリア形成支援についての取組計画(女子学生に対する取組を含む)

- ・「学生キャリア支援室」を中心に低学年からの一貫したキャリア教育を実施。

- ・昨年度と同様、静岡新聞社企画運営・本校主催の学内合同企業説明会「就職祭」を実施する。
- ・各学科の就職指導担当教員・インターンシップ担当教員を中心に、企業情報・就職情報の提供を充実する。

④ 高い就職率を確保するための取組計画

- ・上記のキャリア教育、「Future しずおか」、「就職祭」を充実すると同時に、きめ細かな就職指導を徹底する。

⑤ 寄宿舍等の学生支援施設の整備計画

- ・留学生・専攻科生用寄宿舍の増築を引続き申請する。

(6) 教育環境の整備・活用

① 施設マネジメントの取組状況

- ・本科の学際教育3分野及び専攻科の学際3コースの教育を充実して行うための施設として学祭教育実験棟の概算要求を昨年度に継続して行う。
- ・補正予算により導入された大型設備の有効活用方法を具体化し、実践する。

② 施設整備計画(耐震化、老朽化対策、キャンパスマスタープラン・バリアフリー計画の見直し等)

- ・平成24年度に実施した施設の点検、評価を踏まえてマスタープランを再構築し、施設の整備を推進・実現できるように年次計画を策定する。

③ 環境配慮への取組計画

- ・校舎等の省エネやCO2削減など、エコ対策事業について、本校の「エネルギーの使用状況及び省エネルギーの方策」に基づき実施していく。
- ・機構本部の計画に基づき、PCB廃棄物等に対し、落ちの無いよう処理・廃棄を進めていく。

【2. 研究や社会連携に関する事項】

① 外部資金獲得への取組計画

- ・地域企業との共同研究、外部機関からの受託研究及び寄付金の受け入れを従前と同様、積極的に進めるとともに、科学研究補助金の採択件数を増加するための説明会等を企画して実行する。

② 産学連携についての取組計画

- ・地域企業からの技術相談に全学体制で対応する。
- ・本校教員の研究・技術シーズ集の改訂版を発行する。
- ・静岡県東部地域の産学官金を対象にした「静岡県東部テクノフォーラム in 沼津高専」を主催し、技術相談、共同研究に繋げる。
- ・「富士山麓アカデミック&サイエンスフェア」及び県・市町村や商工会議所のイベントに積極的に参加して交流を図り、本校教員の研究活動や設備等を紹介して技術相談に繋げる。
- ・例年発行するテクノセンターニュースを継続発行し、また本校教員の研究・技術シーズ集の内容更新を行い、研究シーズを積極的に発信する。さらに、県内外のイベントに参加すると共に、引き続き「静岡県東部テクノフォーラム in 沼津高専」や「富士山麓アカデミック&サイエンスフェア」など、地域の産学官連携行事を主催すると同時に積極的に参加して共同研究等の成果を発信する。

③ 知財管理についての取組計画

- ・発明委員会が本校教職員からの発明届を規定に則って処理した後、研究支援係が高専機構知財本部の方針に基づいて知財化及びその管理を行う。
- ・本校が保有している知的財産について、静岡TT0等に情報を提供して資産化に努める。

- ④ 地域技術者育成への貢献（社会人の学び直し等）
 - ・静岡県の認定講習の認可を受けた「富士山麓医用機器開発エンジニア養成プログラム(F-met)」を沼津高専特別課程として実施し、14名の社会人受講生を医用機器開発中核人材に育成することにより静岡県が進めているファルマバレープロジェクトに人材育成面から協力する。
 - ・社会人対象の公開講座を専門5学科及び教養科が各1講座以上を開催して社会人の学び直しに協力する。
- ⑤ 小中学校と連携した理科教育支援への取組計画
 - ・中学校の理科教育支援と志願者確保の両面から、中学生を対象とした「ミニ体験授業」を昨年と同様に開催する。
 - ・「ミニ体験授業」を一日体験入学及び高専祭と同時開催して。昨年と同様、小中学生の理科教育を支援する。
- ⑥ 地域共同テクノセンター等の活用計画
 - ・テクノセンターニュース及び本校教員の研究・技術シーズ集を継続して発行して情報を発信する。
 - ・産学連携運営委員会が共同研究・受託研究等の受入審査を行うとともに、地域共同テクノセンターの有効利用に向けて検討を継続して行う。

【3. 国際交流等に関する事項】

- ① 国際交流協定の締結
 - ・海外の大学等との交流協定の締結に向けて検討を進める。
- ② 学生の海外派遣計画
 - ・高専機構が募集する海外インターンシップに学生の積極的な応募を勧める。
 - ・タイのキングモンクット工科大学からの短期留学生を受入れると同時に本校学生の同大学への短期留学の実現に向けて検討を進める。
- ③ 留学生の受入体制の強化計画（留学生用の居室整備またはこれに類するものを含む）
 - ・留学生及び専攻科生専用の寄宿舍（70名程度）の増築を引続き要求する。
- ④ 外国人留学生に対する研修の実施計画
 - ・本校に在籍する留学生の研修旅行を例年通り実施する。
 - ・東海地区5高専による留学生交流会（スキー研修）の世話校として交流会を企画・運営する。

【4. 管理運営に関する事項】

- ① 危機管理への対応
 - ・昨年度策定した本校の危機管理マニュアルの確認を促すために、緊急連絡網の模擬試験を定期的に試行する。
- ② 校内の監査体制、監事監査・内部監査及び高専相互会計内部監査の指摘・改善等への対応
 - ・構内の監査体制を強化し、監事監査・内部監査及び高専相互会計内部監査から指摘・改善等の指示を受けた事項については情報を共有して速やかに改善策を策定後、実施する。
- ③ 公的研究費のガイドラインに対する取組措置状況について
 - ・平成23年度に策定した「公的研究費等に関する不正使用の再発防止策」の徹底に向けて、校内監

査及び研修会を実施する。

- ④ 教職員の服務監査・健康管理・コンプライアンス意識の向上に関する取組計画
 - ・職場の労働環境の整備を重視して、出退勤システム活用した教職員の勤務時間の管理を実施して教職員の過重労働の軽減に努める。
 - ・昨年度、調査結果に基づいて業務の一部をスクラップしたが、検討を継続して、業務のスクラップを可能な限り進める。
 - ・高専機構が作成したコンプライアンスマニュアルの内容を全教職員に定期的に確認する。
- ⑤ 職員に対する研修の実施・参加計画（国、地方自治体、国立大学、企業等が実施する研修等の活用を含む。）
 - ・職員の能力向上を図るため、文部科学省、国立高専機構、国立大学法人、社団法人国立大学協会などが主催する研修会等に参加させる。
 - ・技術職員については企業等が実施する研修会に参加させて技術力の向上を図る。
- ⑥ 人事交流計画
 - ・事務職員及び技術職員については、国立大学法人や高等専門学校間などの人事交流を積極的に推進する。
- ⑦ 資産の有効活用方策、IT 資産の管理
 - ・香貫宿舎敷地について、処分に向けて機構本部等関係機関との協議が整い次第、売却する予定である。
 - ・業務運営のために必要な情報セキュリティ対策を推進するために高専機構が実施する研修会に教職員を派遣する。

【5. 業務運営の効率化に関する事項】

- ① 一般管理費の縮減取組計画
 - ・管理職の出張旅費の見直し等、業務に支障のない範囲で経費節減に努める。
- ② 随意契約の見直し状況
 - ・契約に当たっては、原則として一般競争入札等によるものとし、競争性、透明性を担保する。

【6. その他】

- ・2名の任期制教員の支援により、本科の学祭3分野（環境・エネルギー、医療・福祉、新機能材料）の教育課程及び専攻科3コース（環境エネルギー工学、新機能材料工学、医療福祉機器開発工学）の教育課程が適切に運営できるように配慮する。
- ・昨年度の補正予算で購入した大型設備の教育研究への有効活用に努める。

平成 26 年度 年度計画意見表

平成26年度 年度計画意見表

○入学者の確保

【東郷委員】

● 入学者の確保は、高専として優先課題だと思います。昨年同様、色々な取組みを計画されています。特に新たな取り組みとして、公式ホームページを受験生(中学生)にわかりやすい構成にすること、女子中学生向けの情報を提供することが計画されており、期待されます。また、女子学生の受け入れを意識した計画があげられていますが、これまでの状況はいかがでしょう？入試成績と入学後の学力との相関関係等については、入試制度を改革していく上で極めて重要であると思います。どのような状況でしょうか？

【若原委員】

● 女子学生志願者像に向けた取り組みでは、女子学生のキャリアパスを示すことも重要である。主な就職先などの女性技術者の支援状況などをアンケート調査を行うなど、出口情報も盛り込んだ広報戦略が必要では？
● 当面は、現状の受験倍率維持を目標とされる方向が良いが、少子化が確実に進行するので、第4期中期計画に向けたプロジェクトチームを立ち上げるなどの策は検討不要か？

【三津濱委員】

● 本校及び浜松の2会場で入試を実施：応募者数と試験運用から県の東西2会場が現実的とは思いますが、応募の障壁になっていないか評価が必要ではないか
● 体験型・見学型オープンキャンパス：素晴らしい活動。一点、中学卒業段階で親元を離れた寮生活は敷居が高い。これに対する訴求(寮の生活環境、費用面の考慮)についての取り組みを知りたい

【真崎委員】

● 継続して様々な工夫、努力されており高く評価できる。安倍政権の女性支援策の呼応し、企業でも女性管理職・女性技術職の登用・採用に数値目標を掲げる大手企業が増えている。こうした動きをPRIに活用し、より女子学生確保に力を入れてほしい。

【大川委員】

● 中学生向け資料は、分かりやすくいいねいでありとてもよくできていると思います。それ以上に、ホームページの情報量がすごく、疑問の生じようが無いぐらい素晴らしいです。紙資料の表紙に「いますぐホームページにアクセス」と記載されていますが、これをもっと強調して良いのではないかと感じました。
● 高専の学校改革のスピードが速く、学校や保護者は以前のイメージのままついていけない人が多いかと思えます。教員も受験生を担当するのは3年に1回程度ですし、若い教員が急増している現在、まだ3年生を担当していない彼らは、1・2年生に対して自分が受験生や高校生だった頃の高専のイメージで生徒に説明しているかもしれません。ここ数年の新しい取組をA4判のちらしにして中学校教員全員に配布することも効果的かもしれません。
● 中学生向けの資料は工夫され、分かりやすいものになっていると思います。特に、女子学生によるコーナーが1ページ設けてある点は非常に良いと思います。在校生の内何人程度が女子学生で、どのように増加しているのかが分かると、女子中学生にとってより身近な存在になると思います。寮の紹介にも「明峰寮(女子寮)」とありますが、セキュリティが非常にしっかりしていることを書くこと保護者の安心感も増すと思います。
● 中学生向け資料に、ホームページにある「沼津高専学生受入方針(アドミッションポリシー)」が載っていると、中学生が選択肢に入れる判断をしやすくなったと感じました。
一. 科学技術に興味を持ち、入学後の学習に対応できる基礎学力を身につけている人
一. 自ら学習し、科学技術の知識を用いて社会に貢献する意思のある人
一. 科学技術の社会的役割と技術者の責任について考えることができる人
一. 他人の言うことをよく聞き、自分の意見をはっきりといえる人
● 多くの中学校では、3年生の1学期に高校の先生を招いて校内高校説明会を行い、やっとな高校の特色について知り、夏休みの体験入学に参加するのが一般的です。高専のように5年制や入寮等、高校に比べて特色が大きい学校の場合、もっと早く知っていれば目標とする生徒が増える気がします。その点から、中学2年生に知ってもらうことが重要ではないかと思えます。

【村松委員】

● 校長、自ら中学校長会長への訪問や教員による中学訪問に加え、出前授業、体験入学など、キメ細かな地道な活動を継続して来ている事は高く評価できると思えます。今後とも是非継続をお願いします。

【鈴木委員】

● 高専を卒業すると、どんな将来が展望できるのか」という点について、より明確に周知できれば、多くの中学生にとって高専が選択肢の一つになるのではないかと思います。体験入学や進学説明会のほか、ホームページや広報資料等の中でも、進路についてより手厚く(例えば地域、全国、世界で活躍する卒業生の体験談をさらに多く掲載する等)、より明確で具体的な方策を検討していただけたらと思います。
また今後、少子化の進展と共に、ますます学生の数の確保が困難になると考えられます。各高専との関係で、問題はあろうと思いますが、より広い地域から人材を集めるためにも、FacebookなどSNSの活用も、さらなる利用が有効かと思えます。

平成26年度 年度計画意見表

○教育課程の編成等

【東郷委員】

- 1 年次混合学級、2 年次ミニ研究、3 年次以降の専門基礎教育と学際教育の導入、また、複合・融合領域を意識した専攻科による5+2年の教育課程の編成は、興味深い取り組みであり、是非、成功させていただきたい。また、プラス面がある一方、マイナス面もあると思うので、可能な限り客観的な目で自己評価し、改善に繋げていただきたい。学際教育の具体的な内容はどのようなものでしょうか？

【若原委員】

- 改編後の教育体制整備を続け、継続して改善に取り組む計画で良いと思います。
- 高専機構・長岡・豊橋料技科大の3機関連携による教育改革事業をうまく活用して、教育研究面での連携強化とグローバル人材育成を図ってはどうか？

【三津濱委員】

- 中長期(5～10年程度)の高専の将来構想:静岡県の地域産業再生計画をベースとした環境・エネルギー、医療・福祉、新機能材料の実践的な学際3分野は評価。ただ、学生が社会をリードするのは10年後からとすると、重点分野が変わることも考慮し、基礎技術の習得と、学際を一つの実践経験ととらえ他への応用が図れるようなマインドの育成を期待。学際分野の適宜の見直しの指針も必要と考える。

【真崎委員】

- 平成26年度からスタートした総合システム工学専攻の中で、医療福祉機器開発工学コースは学内外から注目されている。今後、成果指標を定め、本コースが県のプロジェクト推進に貢献できているのか、きちんと評価していくことが大切だと考える。教育課程全体としては、時代のニーズに対応した内容に改編されていると思うが、それだけに成果を評価し、それを絶えず改編に活かしてもらいたい。

【大川委員】

- 混合学級と学際教育は、沼津高専の魅力が大きく高めていると思います。中学生が高専を受験する際、最も心配するのが学科選択です。自分が何に向いているのか、何に興味を持っているのか、まだ自分自身あやふやな生徒が多いのが中学3年生です。3年次に自分の具体的な進路と結びつく学際分野の科目を選択できることは、入試の際に学科選択で迷う心を和らげるものだと思います。
- 学科で学ぶ基盤技術の上に、学際で学ぶ分野での就職を目指すという構造は、非常に分かりやすいです。
- 混合学級で全ての学科の基礎を学ぶことも技術者として大変価値があることだと思います。
- TOEIC受験はとても良いことだと思います。併せて、短期留学への助成をより手厚くすることにより海外へ積極的に出て行く気概を持った学生を育成していただきたいです。
- 専攻科のことを全く知りませんでした。高専が大学になったことを強く感じました。大学入試に追われる高校時代を考えると、専門分野の学習に7年間邁進できるこのシステムは素晴らしいと思います。

【村松委員】

- 英語力の向上については昨年も意見具申しました。TOEICのレベルが、全学年、各学年でどの程度なのか？産業界との期待レベルとのGapはどれ位なのか？学校の目標値はどれ位か？その具体策がありません。全国高専卒業生へのアンケート調査(高専機構実施)でも、英語力Upが最大の課題であることは明白です。是非具体的に示していただきたい。

【鈴木委員】

- 科学技術の力で地域の発展に寄与できる人材を育てていくことは、高専の目的の一つかと思います。その意味で「環境エネルギー」、「医療・福祉」「新機能材料」の3点に重点を置いた教育に力を入れられている点は、大変意義深いのではないかと感じております。英語についてはグローバルに活躍する人材を育成すると云う意味でも、リーディングや文法等の机上の知識のみでなく、就職時に活かすことのできる実践的な会話力を少しでも身に付けていけたらと思います。また、将来的には、静岡大学、浜松医大などとの共同授業を進め、連携授業や共同研究が単位取得にもつながるような仕組み作りも模索していかなければならないと思います。

○優れた教員の確保

【東郷委員】

- 優れた教員の確保は、極めて重要な事項であると思います。教育力、研究力、管理運営力などが教員の能力として挙げられますが、その育成システムと評価システムがありましたら教えてください。

【若原委員】

- 高専機構・長岡・豊橋料技科大の3機関連携による教育改革事業をうまく活用して、教員の海外連携を強化してはどうか？(タイ事務所からの情報提供:長岡、ペナン校を活用した、ペナン地区企業連携など)優れた教員を獲得することに加えて、若手教員を計画的に交流や海外派遣することで、育成していく視点も必要と思われます。

【三津濱委員】

- 女性教職員採用:女子生徒の獲得は着実に進んでいると感じているが、女性教職員の増化が更に開かれた高専へとなるキーとなる。また、地域の技術拠点として、優秀な女性研究者の仕事の場となることを期待。

平成26年度 年度計画意見表

【大川委員】

- 門池中も、毎年高専の先生に門池の環境について講義していただいております。ありがとうございます。優秀な先生方がそろっていることは学校の最も基本的な魅力ですので、ぜひ、がんばっていただきたいと思います。
- 女子学生が増えていることに伴う女性教員の採用は重要であり、ぜひより一層進めていただきたいと思います。女性の視点からの学校環境作りが進むと思います。

【鈴木委員】

- 「男の世界」と思われがちな工学・科学の世界でも、今後は女性の細やかな視点や粘り強さが欠かせない時代になると思います。女子中学生にとっての垣根を減らすためにも、女性教員の積極的な採用・登用は非常に意味のあることではないかと思えます。女子学生の支援と同様に、女性にとって長く働ける職場となるよう、女性教員のサポートにも力を入れていただけたらと思います。

○教育の質の向上・改善について

【東郷委員】

- 高専機構が進めている「高専学生情報統合システム」とはどのようなものでしょうか？
- 教育の質の向上の中で、グローバル化とは具体的にどのような取り組みで、どのような課題があるのでしょうか？
- 教育の質の確保という観点から、シラバス、ポートフォリオ、インターンシップなどの取り組みが計画されていると思います。計画の実効性を高めるためにPDCAが重要だと思います。

【若原委員】

- 豊橋の脳情報工学をキーワードとしている大学院リーディングプログラムと連携(既にお願ひしていますが)を、具体化することで、沼津高専専攻科の新しい教育コースの充実に貢献できると思います。

【三津濱委員】

- ICT活用教育に必要な校内情報基盤の整備:スマートフォンに代表されるように、ICTが日常生活に根付く時代。高専をICTフル活用の実験場とするような考えもあるかと(プライバシー、セキュリティ等、課題もあるが)

【真崎委員】

- 様々な工夫、取組により確実に改善が図られており、高く評価できる。特に企業人材に産業界・会社の現状(課題・問題点を含めて)を情報提供して頂く機会を学生に提供することは刺激となり、意義のあることだと思う。技術を学ぶだけでなく、様々な機会を通じて自分の頭で考え抜く力を育成することが、技術者としての創造性を高めるために役立つと思う。

【大川委員】

- シラバスによる授業、ルーブリックによる評価を義務教育でも行う時代になってきました。ぜひ、参考にさせていただきたいと思えます。
- コンピュータ、3Dプリンタ等最先端の環境で学べることを楽しみにしている中学生が大勢います。費用がかかりますが、ぜひ、常に新しい機器が使える環境をお願いいたします。

【村松委員】

- ポートフォリオの活用とありますが、学生自らの学習レベルを自己評価するものと理解で良いですか? 「ポートフォリオ」は多くの分野各々で意味が異なりますので、※2年前に全学生に配布されたことと認識していますが、実際のところの活用度を知りたい。
- インターンシップは非常に(学生にとって)有意なことと思います。特に専攻科の長期間実施は素晴らしい計画と考えます。成果を期待します。
- 企業人材の活用は高専ならではの有効な方法と考えますが、今年度の機構からの交付金の大幅減とのことを耳にしました。(企業人活用困難との事)同窓会に相談してはいかがでしょうか?

【鈴木委員】

- 学生に自らの仕事観や将来像を早期に具体化させる意味でも、また、地域の優良企業との結びつきを強める意味でもインターンシップは非常に重要かと思えます。また可能であれば、インターンシップ後の安fyたーケアを充実させ、納得のいく就職に結びつけられるよう努めていただけるとありがたく思っております。また、教育課程の編成でも触れましたが他大学や研究所との教育連携、共同研究が単位取得に反映されるようなシステムが望まれるように思えます。異なった環境での授業等は大きな刺激になると思います。

○学生支援・生活支援等について

【東郷委員】

- 学生の就職支援の状況と求人倍率、就職率の状況はどうでしょうか? 就職支援上の課題はありますか?

【若原委員】

- 「都市計画上の諸課題を解決し」とあるが、自助努力で解決できる問題なのでしょうか? 年度計画に記載して、達成の見込みが有れば良いですが。

【三津濱委員】

- 寄宿舎等の学生支援施設の整備: 留学生の増化により、高専内でグローバルコミュニケーションを実践できる。推進を期待。

平成26年度 年度計画意見表

【真崎委員】

● 「カウンセリング室」や「学生キャリア支援室」の設置は高く評価できると思う。企業に就職してしまうと、忙しさ等で、自分の将来や方向性を見失い、与えられた仕事しかない技術者もいる。キャリア支援を行うことで、学生のうちからキャリア形成や、自分のゴールを意識してほしい。

【工藤委員】

● 柔軟な技術者を育成するためにも、学生に技術的な興味だけでなく、様々なジャンルに挑戦する機会を与えて欲しい。

【大川委員】

● 受験生本人にとっても、保護者にとっても、15歳での寮生活は不安です。実際に、寮を見学して説明を聞いたり、ホームページの説明を読んだりすると、安心できます。特に、Q-Uを実施しているというのは、全寮制ならではの取組で細かい配慮が期待できます。

● ホームページで見る寮の食事メニューも充実しているので、ぜひ試食してみたいです。

【村松委員】

● 低学年からのキャリア教育は本校の「キャリア教育構築のベース」と考えます。具体的なプログラムは出来ていますか？提示願います。就職対策(就職祭や就職指導)だけでは、本当のキャリア教育になっておらず、校長の意図した内容とマッチしません。むしろ、1～3年向けのプログラム策定と実施を強く望みます。特にコミュニケーション能力向上の具体的中味が重要と考えます。

【鈴木委員】

● 周囲と比べて早期に親元を離れて生活する学生のために、メンタルヘルスのサポート、特に女子学生へのケアには力を入れていただけるとありがたいと思います。また、インターンシップでは、従来研修の性格から、受け入れ企業にとってメリット感が少ないように思います。単に就職支援にとどめず、少しでも実践的に生産現場への参入を企業に依頼し、学生派遣的な要素を含めていかなければならないと思います。

○教育環境の整備・活用

【東郷委員】

● 男女共同参画の状況はどうでしょうか？

【三津濱委員】

● 環境配慮への取組：省エネやCO2削減、廃棄物への取り組みは、是非、学生を巻き込んだ実践的活動を期待

【大川委員】

● 老朽化を感じる箇所は確かにあります。ぜひ、改善をお願いします。

● 体育施設が充実していることは、あまり知られていないと思います。地域に開放することは可能でしょうか？

【村松委員】

● 校内の校舎の周辺、体育館、実習工場等周辺の雑草については「目を覆う」ほどの酷さであり、即刻の刈取り整備を願いたい。(6月末時点で)

来校者への不快感を与えるような環境は本校の評判を損ねることにつながると思う。

● 実習工場の「教育研究支援センター」化の体制は沼津高専の「ウリ」としてアピールできるよう、充実してほしい。

【鈴木委員】

● 本校の実験・実習施設をより学校のイメージアップに繋げていかなければなりません。一般的に実験は検証だけでなく、科学の面白さを伝える格好のチャンスでありますから、保護者・地域住民に実験等を気軽に見学してもらう機会をできる限り設けていく必要があると思います。

○研究や社会連携に関する事項

【東郷委員】

● 教育研究支援センターに導入された医療機器関係分析関係の大型設備の利用や「富士山麓医用機器開発エンジニア養成プログラム」など、沼津高専の特徴を題した計画と思います。研究や社会連携と卒業研究など学生の教育との関係はどのようなスタンスで進められておるのでしょうか？

【若原委員】

● 県・市町村や商工会議所と連携して、校内設備を見ていただく現地視察会を行う方が、教員が出かけての情報発信より有効な場合がある。このような取り組みが推進されていないようであれば検討されては如何でしょうか。

【真崎委員】

● 小中学校と連携した理科教育の支援、社会人を対象とした地域技術者の育成など、社会との連携に関する取り組みは十分に果たしている。高く評価できると思う。今後は成果をきちんと評価し、さらなる改善につなげていってほしい。

平成26年度 年度計画意見表

【大川委員】

- 門池中では、毎年、高専の先生に門池の環境についてご指導いただき、大変感謝しております。是非、これからもよろしく願いたいと思います。
- 寮生による小中学生への学習支援は、とてもありがたいことですし、高専を目指す中学生にとってもモチベーションを高める上で効果が高いと思います。是非、これからもよろしく願いたいと思います。

【鈴木委員】

- サイエンスイベントには、できる限り積極的に参加し、地理的に難しい面はありますが、特に、ものづくり企業の多い県西部、三河地方への参加は、新たな展開も生まれる可能性があると思います。学内や東部にとどまらず、県内広い範囲、さらに県のエリアを飛び出での活動は、沼津高専の科学に取り組む姿勢をアピールでき、そこから企業との共同研究も増える可能性が生まれると思います。

○国際交流等に関する事項

【東郷委員】

- 今、日本の高等教育機関に対して教育のグローバル化が求められています。学生の海外派遣(国際インターンシップ)、留学生の受け入れ、英語による教育などがあげられますが、現状はどのようなもので、高専として目指すところはどのような状態でしょうか？

【若原委員】

- 私費留学生獲得を推進する際には、国費留学生と将来のキャリアパスについて考え方が違う場合もあります。母国での就職活動時期のずれ、就職希望の企業(日系?)など、受け入れ後の教員負担を念頭に事前調査など、相当の準備が必要と思われます。高専機構の国際交流、長岡のタイ事務所や豊橋のパナソニック校などで収集した情報を共有するなど、関連機関をうまく使った対策が必要と思われます。

【三津濱委員】

- オープンソース等、グローバルなコミュニティへの参加促進を期待

【大川委員】

- まずは、短期でよいので海外に出られる機会をより多くの学生に与えてほしいと思います。15歳で寮生活を体験した高専の学生ならではの自立心を海外にまで広げていただきたいです。

【村松委員】

- 昨年度創立された国際交流基金と本年度の計画の項目との関係はどの様に考えていますか。

【鈴木委員】

- グローバル化の波が押し寄せている昨今、留学生の受け入れの強化の必要性を大いに感じます。意欲のある留学生が入るということは、学生たちへの刺激となり、文化の異なる交流は大きな人生経験になっていくと思います。その留学生が母国に帰国した後、国の中枢の担い手になっていく可能性もあります。寄宿舎の増築が決定されることを期待します。

○管理運営に関する事項

【東郷委員】

- 管理運営に関する計画で、昨年度の項目に追加された事項は、リスク管理に対するものとコンプライアンスに関するものだと思います。重要な事項と考えます。

【大川委員】

- 東海地震発生時、地域との連携はどのような対応になっているのでしょうか？

【村松委員】

- 教職員の過労働の実態はどのような状況でしょうか？産業カウンセラーでもある立場から関心大です。メンタルヘルスにも大きく関係することから、教員FD研修でも教員相互のメンタルヘルスチェックやセルフチェックの方法については是非習得願いたく存じます。

【鈴木委員】

- 教職員の健康管理については、新聞にも掲載されましたが、事務業務が国際的にも所要時間が多いとのこと。種々の年度計画とは矛盾し、解決策は難しいかもしれませんが、少しでも負担が減り、個々の業務に集中できることを望みます。

○業務運営の効率化に関する事項

【 】

- この項目へのご意見は特にありませんでした。

平成26年度 年度計画意見表

○その他

【鈴木委員】

● 沼津高専の記事を静岡新聞で見ましたら、一年間で14～15件だったように思います。他の報道機関では、さらに少ない数字だと思います。学校PRは保護者にとっても学校存立にとっても必要であり、それが将来の教育再編の時でも、大いに効果を発揮すると思われますので、PR活動は積極的にを行う必要性を感じます。

○総合所感(本校に対する意見等)

【東郷委員】

● 平成26年度の計画も、25年度の延長線上で、よく計画されていると思います。
● 高専機構の目標と沼津高専の目標の関係がよくわかりません。高専機構の目標のどの範囲で各高専は計画を立てることができて、特徴を出すことができるかなど、分かりやすく説明頂けるとありがたいです。

【若原委員】

● 今後、少子化への対応が全国的に問題となる。産業界も、グローバルへの対応・少子化への対応が求められます。地域の特徴ある産業との協働してこられた実績をさらに発展展開することで、技術者の持続的育成と日本のもの作り産業の維持の観点からの沼津高専長期ビジョン策定の取り組みが必要になると思います。3期計画の遂行も大変と思われるのですが、将来動向分析を担当するような特務教員を設けるなどの対応も近い将来必要になる、と思われます。

【三津濱委員】

● 高校相当の年齢から理工系研究を行う高専教育は、実践的エンジニア育成に適しており、学生数拡大を期待
● 一方、多感な時期であり、文化系の知識も吸収できるよう、読書の機会等、考慮をお願いします。文章力はエンジニアにも必須のものであり、文化に対する理解はグローバルコミュニケーションで必須

【真崎委員】

● 沼津高専は、時代の要請に応じた改革に十分取り組んでおり、高く評価できていると感じている。特に地域産業の振興に対する貢献も期待が大きい。それだけに改革に対する成果指標を定め、改革が成果を生んでいるのか、きちんと評価して欲しい。それができて初めて真に高く評価されると思う。全体的に全国の中でもレベルが高いと思っている。今後もさらなるステップアップに期待している。

【大川委員】

● ここ数年での沼津高専の進化は素晴らしく、具体的な目標に向かって突き進んでいることがよく分かりました。周囲の理解が追いつかないほど学校改革のスピードが速いので、より発信を強化し、受験生だけでなく、地域からも理解が深まるようになると良いと思います。

【村松委員】

● 毎年度の年度計画を見、昨年度も意見として述べさせてもらいましたが、計画の内容が羅列されているため、本校の直面している大きな問題点は何なのか？非常にわかりづらい感があります。機構の指示(?)によるフォーマットの理由等あるかもしれませんが、別途でもそうした資料があればより理解や意見も変わってくるのでは？とも感じています。又、この諮問会議が真の「意見や状況チェックとアドバイスの場」と考えるなら年1回の開催では「形式」そのものになってしまうのではと思います。中間報告もぜひ拝聴したいところでもあり、年度変更などあることですので、秋ごろの開催を強く要望します。

【鈴木委員】

● 少子化による学生の確保、企業の海外進出の増加による国内生産拠点の空洞化など、高専を取り巻く環境も大きく変化しています。沼津高専のイメージは県東部の工業系単科高校というものが、まだ多いと思います。まずは、県東部としての地元感から脱却し、県全体を視野に置いた学校活動を展開していく必要が生じていると思います。とりあえず、静岡大学、浜松医大、静岡理工科大学、東海大学等の他の高等教育機関との踏み込んだ連携を模索していかなければならないと思います。
ところで、沼津高専は「グローバルに活躍する人材」「地域の発展に寄与する人材」の育成を見据え、学際教育や専攻科の充実、地域の優良企業との連携等を積極的に推し進めている点、そして、生活支援、キャリア支援を一人ひとりの学生に手厚く行っている点は、保護者として、大変心強く感じております。今後の高専ならびに地域の発展を考える上で、県のファルマレープロジェクト等の構想は、その鍵を握ると思います。医療・福祉分野では、今後ますます存在感を発揮され、地域に必要とされる教育機関となられることを期待して止みません。

運営諮問会議 議事要旨

(平成 26 年 7 月 24 日(木) 本校3F 大会議室)

平成26年度 沼津工業高等専門学校 運営諮問会議 議事要旨



日 時：平成26年7月24日（木）14時30分～17時00分

場 所：沼津工業高等専門学校管理棟3F 大会議室

出席者：【運営諮問委員】（敬称略）

〈第1号委員〉… 大学等高等教育機関の関係者

東郷敬一郎 国立大学法人静岡大学副学長（評価担当）

若原 昭浩 国立大学法人豊橋技術科学大学（高専連携アドバイザー）

〈第2号委員〉… 産業・経済界の関係者

三津濱元一 富士通株式会社 沼津工場長

真崎 俊文 株式会社 明電舎 沼津事業所長

〈第3号委員〉… 本校が所在する地域の関係者

大川 淳 沼津市立門池中学校長

〈第4号委員〉… 本校の支援団体等の関係者

村松 正敏 沼津工業高等専門学校 同窓会常任理事

鈴木 一洋 沼津工業高等専門学校 教育後援会会長

※欠席者… 工藤 達朗 沼津市教育委員会 教育長（意見書面を作成し大川委員に代読依頼）

【本校列席者】

柳下校長、蓮実副校長（教務主事）、大久保校長補佐（学生主事）、遠藤校長補佐（寮務主事）、押川校長補佐（専攻科長）、大山事務部長、村松機械工学科長、佐藤電気電子工学科長、遠山電子制御工学科長、藤尾制御情報工学科長、後藤物質工学科長、勝山教養科長、中園図書館長、望月総合情報センター長、芳野地域共同テクノセンター長、小林学生生活支援室長、露木総務課長、入吉学生課長、神田総務課課長補佐、藤川総務係員

※欠席者…小林技術室長、兼、教育研究支援センター長、

議題

I. 開会及び校長挨拶

議事に先立ち、校長から挨拶があった。

II. 議長選出

総務課長進行の下、「議長の選出につきましては、運営諮問会議規則第5条第1項の規定に基づき、各委員の互選により選出される。」旨説明の後立候補及び推薦者を募ったが、特に申し入れがなかったため、同課長から「事前をお願いしていた静岡大学副学長 東郷委員を本会議の議長に推薦したい。」旨の提案があり、これを了承した。

III. 議長及び各委員等挨拶、並びに陪席者紹介

議長及び各委員から自己紹介を兼ね挨拶があり、引き続き総務課長から陪席する学校関係者の紹介があった。

IV. 沼津高専概要説明

柳下校長から、沼津高専の学校概要等について、PPT資料に基づき説明があった。

V. 審議事項

平成25年度年度計画 自己点検評価の検証

議長から資料に基づき、審議事項1の、「平成25年度年度計画自己点検評価の検証」について、全国の各高専は、高専機構本部の、第3期中期目標、中期計画、年度計画をもとに、それぞれの計画等を作成している旨の説明がされ、引き続き、平成25年度年度計画自己点検評価の検証、平成25年度年度計画に対する学校側の自己点検評価について、意見交換が行われた。

【意見交換の主な内容（要旨）】

・委員から、計画書に実施すると記載されていないながら何も記入されていないのはよくない。対応表の回答を盛り込むようにした方がよい。説明を分かり易い形で評価書に盛り込んだほうがよい。との指摘と、教育課程の編成部分④卒業生による学校評価を行わなかった事、評価の中でBの判定をされている所、実施していない事について今後どうするか、高専としての考えを聞かせて欲しい旨の発言に、学校から、OBの評価は機関別認証評価では必ず問われるが、平成23年度以降、全国的にかなりの高専で実施されてない。今年は東京高専を中心に10高専が連携してOBの意識調査を実施し高専教育の抱える問題点等を整理するという動きがある。今後も何年かに1度行われるようにルーティン化したいがなかなか実施出来ないという現状。との回答がされた。

・委員から、受検者の倍率はここ3年間徐々に下がりつつあるが、先生方は忙しい中を、入学志望者を増やすために多くの地域で一生涯沼津高専をPRしている。これは大変良い事だと評価した。

・教育課程の編成等について、合同開講科目の増加計画の実情はどうなっているかの質問に対し、学校側から、5学科で特に関連・共通する科目について合同開講を検討した。学科間で細かな差があり、方針を一致出来ないところがあり2科目に留まった。合同開講は、今年度から学際科目が始まり学科を越えた形式の大人数での効率的な授業で合同開講として3科目が走り始め、合計5科目が合同開講というシステムで始まっている。との回答がされた。

・委員から、教員の評価システム、研究・教育に対する評価等についてはどのようになっているか。との質問があり、学校から、教務管轄は教務主事が全教員の評価を点数化、学生指導は学生主事、寮での学生指導は寮務主事、校長がその他の部分をまとめて全体を合算している。との回答がされた。

・モデルコアカリキュラムの充足について意見交換がされた。主な内容は以下のとおり。

学校 高専機構はモデルコアカリキュラムを定義しているが、強制力は強くないと考えている。それより各高専の個性化・高度化の方が強く聞こえている。沼津高専としては、モデルコアカリキュラムを最低限満たしていれば良いという方針で進めている。

委員 3機関連携で高専教育を高度化する大学側の委員として参画している。その中の議論を聞いている限り、モデルコアカリキュラムを5年後には全高専に導入すると断言していた。強制力を持ってオーダーが出ていると感じた。高専にモデルコアカリキュラムが導入されると、当然大学のカリキュラムもアジャストしないといけないと考えているので、情報交換は密にお願いし進捗状況という形の行程表を定期的に頂いている。

学校 校長会ではモデルコアカリキュラムの導入について、そんなに強く出ていない。それよりも各高専の高度化という声を強く聞いて、沼津高専は新しい教育課程に取り組んでいる。

委員 3機関連携の大学の委員としては、モデルコアカリキュラムの導入は、どちらかという低学年のベースの話、その上に高度化で各高専の独自性を持ったカリキュラムを積み上げて頂きたい。高専の電気・機械の低学年は、モデルコアを絶対に満足して欲しい、という話になっていると思う。

学校 各高専のモデルコアカリキュラム導入状況は、非常に熱心な高専のグループとそうでないグループがあり、熱心なグループは限られていると思う。あまりにも厳しい注文を付けすぎている所がある。

委員 熱心なグループは、私のように外から見ても本当にこれやるの、ということは何回か聞いたことがある。校長の発言で、大体様子はわかりました。

学校 号令かけて51高専全部徹底してやりなさいというのは聞こえてこない。それよりも各高専はもっと高度化を進めなさい、という声の方が強く聞こえている。機構から全教員に対してモデルコアカリキュラム試案が冊子で配られているが、これはコアではないと考えている。基幹科目でさえ後ろの方で教えてない所がある。その様な状態で、学際的な所になると全然網羅できていない。本当に時代の要請に応える教育システムにもって行こうとすると当然コアから外れる。新しい分野も作らなければならない。こんなに縛りを作ったら高専は高度化出来ない。という判断であり、本校はミニマムエッセンシャルを考え、ルーブリックによる質の評価の方が重要だと考えている。

委員 電気を教えているが、これを教えてこちらを教えない等の疑問点があり、指摘はしているが、まったく反映はして頂けない。今日のお話で、沼津高専の先生方と私の憂いは同じだと言う事が分かりました。

【機械実習工場を教育研究支援センターに改装した事について】

教育研究支援センターの改装について、委員から、これをどのように教育や研究等に使っていくのか説明が求められ、学校から以下の説明が行われた。

・医療関係は、最新の医療機器を導入して頂き、今のところ基本的には専攻科をメインに対応している。学生に実際の医療系の機材・機械を見させて、実験では4週でテーマを考え、1・2週間目は、医療機器を見て操作し原理を調べ、センサー等の機能を調べる。残り2週間は、基本的にPBL形式で学生達に3テーマ程度与え、1つはウェーキーポンプのメカを改良する事を検討し、3次元プリンターでメカを模倣、評価し次のステップへ進む。1つはハーフティデバイスというダヴィンチの手術等に使う、ファントムを使っての研究。もう1つは静岡医療センターから頂いたテーマを学生達にやってもらう。医療系に関してはそこを拠点にして、学生達に研究、実験に、自由に使って頂く体制で教育研究支援センターを活用する予定。

・物質工学科の大型設備は専攻科の機能材料工学コースの専攻科実験に使われている。物質工学科の装置一連は触媒開発が主、産業界と共同研究で特に原子力発電所の水素爆発を未然に防ぎ、低温で発生した水素を、建て屋は窒素で充填されているのでアンモニアにしてしまうような触媒開発。低温でアンモニア重合、アンモニウム合成が可能になるような触媒開発。専攻科生、本科生、卒業研究の中で、企業からのニーズに応えた技術開発に設備が使われ、教育に導入されている。との説明があり、これに対し委員から、非常に良い設備が色々入っているので、是非活用して頂きたい。との発言があった。

【教育課程について】

委員から卒業生から見た高専の教育課程について、23年度機構が行った全国高専卒業生に対してのアンケート結果から、教育内容に対し各階層で、充実を希望している内容について、沼津高専はどう考えているか。との質問に対し、学校から以下の回答が行われた。

・今のカリキュラムでは、対応出来る状態ではなく、英語にしても先生は一生懸命やっている。今考えているのは、物質の実験で実験指導書に英文を読ませている旨説明したが。要するに専門の教育の中にいかに英語を取り込んでいくか、専門の先生が教養の英語の先生とうまく連携していくスタイルでやっていくしか方法がないと考えている。「高専は異常な過密カリキュラム」です。

・5年生で、法学と経済のどちらかを選択し受講している。例えばバイオ工学という授業で、技術と経済は授業の中で、技術開発がいかに経済にインパクトを与えているか、経済・技術の重要性和関連しながら、専門の技術の授業の中で取り入れている。カリキュラム過密の中で、工夫しながら各教科の教員が努力して経済の重要性、技術と経済の関連性は伝えている。

【学生生活の中で身に付けることについて】

委員から、感受性の高い年代かつ皆が一緒に寮生活を送る環境があると、授業で教える事だけでなくクラブ活動等でコミュニケーションをよりよく取るような活動をする。その中で外国の方の受け入れを増やす事で英語を

使う事は出来ると思う。沼津東高の評議委員をした時「教育に読書の時間取っています。」と聞いた。図書館の充実には良いが、生徒間のコミュニケーションの中で、おもしろい本があったら伝える等により育まれるものとは異なる。高専の忙しさではアルバイトは、しにくいと思うが、実際にお金に触れる機会はある。その中で身に付ける。卒業すると二十歳を超える形で社会に出て行く。指導するより自治でやる高専の立場があると思う。それを養成するために図書館等の環境を充実する。その方が現実的だと思う。との意見が出され、学校から、本校も図書館長を中心に色々PRを行って本を読む事を勧めている。専門でも、文化や歴史の重要性等に触れる授業があり、「我が国はどのような背景の元に技術を作ってきたか」等を取り入れて、歴史を読む事の重要性を専門の授業でも、感受性に触れる仕組みに挑戦している。また、経済の部分でも、学生は結構アルバイト等で、お金に触れる事はあると思っている。との回答がされた。

【入学者の確保について】

委員から、中学生向けに作成した資料は非常に分かり易くよくできている。昔は、「5学科の違いが中学生には分かりにくい」という声を中学の教員から聞いたが、この資料は非常にわかりやすい。それ以上に、ホームページの情報量がものすごい事に驚く。中学3年生ではインターネットを使いこなす子も多い。一番下の、今すぐホームページへアクセスという文字を大きくして、関心がある子はすぐにホームページにアクセスし、いろいろな情報を集めるといふ方法がよい。高専の学校改革のスピードが大変早いと感じている。中学校の教員は、中1、中2、中3と学年の担当を持ち上がる事が多い。中1、中2を担当している時には、入試関係の資料をあまり目にする機会がない。かつて中3の担当をしていた時の感覚で、中1、中2の生徒からの質問に答える事が多くなる。これほどのスピードで学校改革が進んでいるのであれば、中1、中2の担当の教員の手元にも、資料が届けばより分かりやすくなる。ホームページのアドミッションポリシーも中学生にとって非常に分かり易い。紙の資料にも載せて頂ければ、より関心を持つ生徒が増えるのではないか。との意見があり、学校から、特に中学校の教員全員に、A4一枚でも沼津高専の現状を知らせる努力をという事、非常に参考になり検討する旨回答があった。

委員から、広報について、NHKが取り上げた福井大学の例をあげ、マスコミに取り上げられる影響の大きさから、様々な機会にマスコミを使い情報発信を行えば、自動的に中学校や子供達にも頭の中に高専という名前が入ってくるので有効に使った方がよい。との意見があり、学校からマスコミ等に対し積極的に働きかけ、ニュースソースを発信し、その結果が資料にある掲載記事の多さであり、沼津高専と静岡新聞との連携の深さを示すもの。との説明がされた。

委員から、今回の広報計画の中で、女子学生の受け入れを意識した計画になっている感じを受けたが、そのことはどのように考えているか。との質問に対し、学校から、平成22年から女子学生を増加に向けて毎年のリーフレット改訂を女子学生向けのデザインに色も含めて変えた。これを反映して22年度は女子学生が全体で26名だったが、徐々に増加して26年度は37名に増え、徐々に女子学生が増える傾向にあり、リーフレット等を女の子向けのデザインにした事が少しずつ功を奏していると考えている。このTodayの中でも女子学生が編集するページを設ける等の取り組みを強化している。との報告があった。

委員から、女子学生を取り込むというのは非常に重要な事だと思うので、是非よろしくお願ひしたい。との意見が出された。

【教育課程の編成等について】

委員から、基本的に改編されたばかりなので、これを粛々と軌道に乗せる取り組みを進めて頂くと良いと思う。今大学改革強化促進事業等で、高専機構と長岡、豊橋が、高専との連携を強化する事業が動いている。積極的に動いて、豊橋に近い事もあるので、うまく使って改編作業を軌道に乗せる方向、次のステップアップを狙う事を考えて頂くと良い。実施しているのは、最初の3か月を豊橋で英語の教育を受け、ニューヨーククイーンズカレッジに半年、英語と共同研究先の開拓もやって頂き、12月まで講義をする為の英語、併せてアメリカ式のインタラクティブな講義を組み立てるスキルを勉強し、その後2か月半マレーシアのペナンの我々の教育拠点で、現地のポリテク、マレーシア科学大学で、作った講義を模擬講義、公開セミナーの形で複数回開催し、受講者にアンケートを取り、フィードバックをかけて完成度を高めるプログラムになっている。応募は非常に多く、3倍か4倍だった。機構の方で推薦されるので、我々の方では何も手心を加えられない状況。機構の考え方は分からないが、シニア・中堅の准教授、助教になったばかりの方まで幅広い年代の方がいて、なぜか建築系が多かった。是非、沼津の特徴を出し派遣して頂けると良いと思う。マレーシアのペナンの教育拠点を一緒に使ったプロジェクトを立ち上げ等も可能なら議論を一緒にさせて頂きたい。現地には電子産業も多くあり、世界中の、インテル、

フェアチャイルド、日本のルネサス、パナソニック、ソニー、等同一系の会社も多くあり、既に数高専から、マレーシアでのインターンシップの情報を欲しいとの事で、ペナン校を訪問頂いた。情報は随時流す事も出来る。相談を頂ければ、一緒に考えるという事も十分可能。との意見に対し学校から、英語で講義できる教員の育成に、若い先生に近々行ってもらおうと思っている。との回答があった。

委員から、中期として5年、10年程度の高専の将来構想の中で議論にあったが、学際という事で静岡県の地域産業再生という事をベースに進められている3分野は非常にいいと思うが、企業の活動というのは、ライフサイクルがある程度あり、ここに書いている学生が社会をリードする立場に立つのは、二十歳で卒業して、30ぐらいになる。すると10年後の重点分野は変わってくる、企業活動を切り替えていくと思う。基礎技術の習得を、まずマストでやって頂き、実践する場として学際領域を利用し、失敗も含めた体験を持って応用が図れるマインドの方を輩出する。学際分野は一つの成功体験とか最先端に取り組む自信に繋げる所で使って、30代になった時に重点分野が同じかは分からない、今やられた事をそこにつなげていくという形に持って行って頂ければと思う。との意見があり。学校から、本科の5学科を残したのはそこに原点があり5学科の基幹科目はしっかりやる。そこに学際科目を入れ、専攻科でその発展形という考えである旨回答があった。

委員から、沼津市では、市を代表する知識人・経済人に、沼津の教育の方向性について大所・高所から御意見を頂く有識者会議の『夢ある人』づくり塾からご意見を頂き、小中学校で沼津版キャリア教育「沼津大志学習」を昨年度から行っている。「沼津大志学習」では、キャリア教育を通して小中学生が社会や他者のために役立つ生き方を選択していく事を視点を学んでいる。職業についてはかなり勉強しているが、そのためにどこで何を学ぶか、進路選択の際どの学校を選んだらよいか、の視点はどうしても弱くなる。自分は将来工学系の仕事に就きたいが、沼津東高へ行くか、沼津高専へ行くのがよいか。沼津東高ならば理数科を選ぶのがよいか、沼津高専ならばどの学科を選ばよいかという選択は中学生にとっては非常に難しい。沼津大志学習のテーマである「それぞれの子どもが、社会や他者の役に立つ職業を志す」、「社会や他者の役に立つためにこういう職業につきたい」という思いを持つ子どもが育っている。その思いを伸ばすために、沼津高専のこの学科で学び、さらに学際教育でこのような分野を学べば、希望する社会や他者のために役立つ職業に就く事が可能になる。というアドバイスを中学生が受けられれば非常によいと思う。沼津高専から中学生に、そのようなアドバイスや、教育課程と結び付けて分かりやすく説明頂ければ、夢を持って沼津高専に進学する生徒が増えていくと思う。との意見が出された。加えて他の委員から、高専の制度は特殊といえば特殊。中学生から見た時に、高専を出て大学に進むケース等、色々なケースが出来るようになり、出た後にどういうキャリアに就くのが、中学生から見える形になると非常に良いと思う。私も高専出身ですが、高専を出た後のキャリアは高専に入った時にあまり考えなかった。今、卒業された高専の方々を見ると様々なキャリアを形成されている。その事を中学生に分かる形で出せば、高専が非常に良い学ぶ制度としてもっと広がっていく感じがする。との意見に対し、学校から、中学校訪問や中学校が主催する様々な高校紹介イベント等の際に説明していることについて次のように説明がされた。

・高専は、非常に多様な先輩を輩出している。中堅の技術者を養成する学校として発足したが、52年経ってみると様々な分野のトップの人材に育っているのが高専という学校群で、本当に素晴らしい人材を輩出している。

・どの学科を選ばよいかという技術者になれるのか、機械、電気、化学、物質も分かり易いが、そんなに固定する必要はない、学際教育も始まって、例えば医療ならば機械・電気・化学からでも行ける、そんなに学科に拘泥する必要はない。

・医学・獣医学以外は全ての理学・科学領域を高専はカバーできる。薬学も、薬剤師にはなれないが、薬の研究・開発に向かっている人は沢山いる。というように、理学系、数学系は、沼津高専にと説明している。

委員から、コースがあり、これを選ぶとこれしかない。というのが普通の親の考え。今の様に詳しく説明し、もっと父兄に伝われば、子供達に対しても、「柔軟的な考えで行けるよ。」という話が出来ると思う。そこをもっと伝えられたら、まだまだ入りたい子が沢山いると思う。との意見に対し学校から、資料の円筒形の7年の概念図を引用し、どの学科からも三分野のいずれかを選択でき、専攻科はどの専攻にも入れ、学士も取得できるようになっている。との説明がされた。

委員から、どちらかという中学校の関係だと思うが、企業は色々なものを求めている。その複合体だと知って欲しい。高専の先生でも、「富士通です」と行きますと、「富士通さん電気系はある、制御工学ある、ところで化学とか機械はありますか」と言われる。あらゆる企業は、電気も機械も化学もないと企業は成り立たない。どこを通っても入れる。その中で、何を強みにして行くかを、高校ぐらいから考えてもらえば良いという事を伝えて欲しい。高専の先生方の言う事は全く合っているが、残念ながら高専は、中学校でも結構科学技術系が得意な生徒でないと多分通らない。かつ入れるパイは限られている。皆さんが高専に対して素晴らしい絵を描いてそこだけに向かうのは、中学生全体に対してはちょっとキツイ話だと思う。社会の構造を中学生に伝えるのに、何か

お手伝い出来る事があれば、企業の人間はいつでもお話の機会を作れると思う。そういう事を進める方が建設的。との意見が出された。

別の委員から、医療機器会社のリクルーターを頼まれ、一関から松江まで10高専をリクルートした。会社はフィールドサービスエンジニアで、当然機械、電気を考えるが、科は全ての科、仕事の内容は会社に入ってから教える、教える事が理解出来、分からなければ、何を調べるかが分かれば科は関係ない。と非常に強い言葉で言われた。来年入社する4人の高専卒は、物質・機械・制御・電気、全部違う科から4人採用される。8名を採用希望だったが、残念ながら4人しか採用できなかった。枠はあるが「コミュニケーション能力」「元気がない」この理由だけで役員面接で落とされた。要は元気で卒業できればいい、それが役員面接の社長と専務の話でした。との意見が出された。

議長から、高専の教育、中学校の教育、それから企業、みんな協力しますという事ですので、是非いい方向に流れていけば良いと思うとの発言があった。

【優れた教員の確保】

委員から、女子学生を増やす事は学校の目標との事なので、その意味でも女性教員への色々な支援等をして、女性教員を増やして欲しい。との意見が出された。学校から、高専機構の採用基準をクリアすることは元より、採用された教員が如何に組織の中で成長してくれるかが大事だと思っている。成長している先生、そうではない先生もいる。一つは学校だけで他の社会経験が無いとか。何とかして先生が向上するような手を考えたい。1年間企業経験をする等、企業との人事交流は高専機構も奨励している。希望を持って沼津高専の教員になったので、中でも成長して頂きたい。留まってしまう人は、意外と殻にこもり他から情報が入らなくなってしまう。その殻を突き破るために、社会と工学で学生を社会の役に立て、先生も付いて行き、開眼して欲しいと思っている。

委員から女性教員の職場環境について、高専の中の男女共同参画事業で、女性教員の支援体制の質問があり、学校側から、機構も積極的に女性教員の採用を支援している。女性教員の採用は、機構から財政的な支援も受けられる旨の回答があり、続いて委員から、財政的支援ではなく、男女共同参画事業の中で、女性教員にメンターを付けるとか、育成のシステムを作るとかが必要になるかもしれないという事。例えば、採用したが、女性教員が殻に閉じこもってというのは女性教員の責任にしている所がある。学校としてどのように支援するかという体制が、きっと求められてくると思う。大学では既にあり、女性教員を採用すると、メンター教員を付ける。産休を取る間は、TAあるいはRAを付けるとかの制度がある。そういう事をしないと女性教員に殻を打ち破れと言ってもなかなか難しい所になり、いずれ必要になると思う。との意見が出され、学校から、男女共同参画の中心となる女性教員を1名設けている。育休・産休には、様々な配慮がされていて、例えば寮の宿直業務で、泊まりませんが夜遅くまで残る業務等も軽減する、免除する、クラブ活動の顧問も免除する。基準としては設けていないが、様々な支援策、配慮が各部署で行われている旨回答があった。

委員から、本校が日頃行っている地域貢献事業に基づいての発言があった。門池中学校は先日、沼津高専の佐藤崇徳先生、平田陽一郎先生のお二人に、門池について色々講義をして頂いた。毎年中学2年生に、講義をして頂いているが、沼津高専の先生方は、子どもに話すのが非常に上手で、子どもたちが引き込まれるような講義内容だった。また、沼津高専や沼津工業高校では、中学生に対してもものづくりの講座の派遣もして頂いている事を聞いており、ぜひこれは広げていきたいと思うので、優秀な先生方をこれからもそろえて頂きたいと思う。高専では女子学生が増えている。女性の視点からの学校改革を進める為に、女性の先生を増やして欲しいと思う。義務教育では女性教員が、小学校で5割を超える程度、中学校でも4割程度。女性教員の視点からの学校づくりが随所に見られる。沼津高専は女子学生が増えているので、ぜひ女性教員の視点が色々なところに生かされるようお願いしたい。との発言があった。

【教育の質の向上、及び改善のためのシステム】

委員から、色々な工夫、取り組みにより確実に改善が図られている。高く評価出来ると思う。企業の人材に産業界、会社の現状等を情報提供してもらう機会を設けているのは非常によい。特に企業から、例えば業界の情報、その企業が抱えている問題、そういう情報を与えて、自分の頭で考える癖をつけると、技術者として創造性を高める為に役に立つと思う。との発言があった。

他の委員から、ポートフォリオについて、2、3年前に全学生に配ったという事だが、実際問題しっかり使われているか質問があり、学校から、毎年1年生に学校側からファイルを渡している。今後ポートフォリオが重要になってくるので、26年度改編された専攻科からは、非常にしっかりしたファイルを渡して、全データを取り込むよう指導している。担任は面談時に、そのポートフォリオを使用していると考えている。さらに専攻科では、

JABEE の審査時にポートフォリオを見る可能性があり、徹底してやらねばならなくなっている。との報告がされた。これに対し委員から、何人かの学生に確認したが「確か配られた事は覚えているけど」という学生が何人かいた。先生方が授業ごとにチェックして使うようにしないと、配っておしまいでは意味がないとの指摘があり、学校から、来年の秋に JABEE を受診するので、これに際してはポートフォリオを動かさざる証拠として出さなければならない。これに向けて指導を行っていく予定である旨回答があった。

委員から、企業人材の活用で、今年度から資金的にも相当の人件費がカットされているとの事、こんな時こそ同窓会にボランティア的に近隣にいる卒業生等に来てもらい、自分たちの経験談を語ってもらう等、同窓会に相談し協力してもらうのが良いのではないかと提案があった。学校から、必要な所では、是非お願いしたい。今の所は計画を立て、それに沿って実施している。OB だけではなく企業の方という事では、キャリア教育の中で「フューチャーしずおか」を去年から始めている。これは、静岡の色々な中小企業の社長さん自ら学校に来られてお話をしている。現役の企業の方の色々なお話を聞けるという事で、学生にも大変好評である。

(大川委員から本日公務により欠席された工藤教育長からの意見が代読された。)

沼津の小中学校では、平成 18 年度から言語科という独自教科をつくり、取り組んでまいりました。文部科学省では、平成 24 年度完全実施の中学校学習指導要領で言語活動が入ってきたのに対し、沼津の小中学校ではかなり先行して取り組んでまいりました。言語科の導入から 9 年目を迎え、小学校 1 年生から、言語科で英語の時間の授業を受けてきた子どもが、本年度で中学校を卒業します。そのような生徒がこれから沼津高専で勉強するという段階になってまいりました。また、言語科は、英語の時間と読解の時間の二つからなっており、読解の時間は PISA 型読解力の育成を行っております。高専は、技術者の集団であり、中には口が苦手な生徒がいる可能性があるため、ぜひ、PISA 型読解力の育成に、より力を入れていただく事がよいのではないかと思います。PISA 型読解力につきましては、だいぶ前から、PISA 調査が話題になっております。これは、テキストが本当の事を言っているのか、内容や文体が本当に価値の高いものなのかを疑ったり評価したりするクリティカル・リーディングが狙いとなっております。その基盤が、クリティカル・シンキングですので、事実を正確に理解し、分析し、総合して、問題点をはっきりして課題を解決する思考法を小中学校ではかなり重視しております。自ら問いを持ち、予想し、そのために必要な情報を集め、それぞれの情報を持ち寄って合流し、予想を裏付け、さらに深めていくという学習過程を大事にしております。学校によっては、総合的な学習の時間という教科の壁を乗り越えた授業において、自分でテーマを持ち課題を追究しまして、その成果をプレゼンテーションランプリという形式で表現する取組をしている学校もありまして、小学校の段階から、PowerPoint を操作してプレゼンテーションする子どももおります。そのような子どもたちが、これから沼津高専に入ってきます。この取組は、先ほどお聞きしたミニ研究と、かなり共通しているところがあるな、という事を私自身感じております。そのような力が、これからはますます求められていくと思いますし、沼津市でも、言語科を通じてそのような力を鍛えておりますので、PISA 型読解力の育成を沼津高専でも取り入れて頂ければ、よりよい技術者が生まれていくのではないかと。以上、工藤教育長からです。

続いて委員から、高専全体の卒業生の問題として大学で見ているの感想が述べられた。沼津高専がとの事ではないが、我々の取組を紹介し、協力をしながら改善したいところを話します。気になる高専の卒業生、非常にものをよく考えて動いてくれるが、残念ながら報告書の書き方がしっかり出来てない。特に最近スマホとか Twitter とか入っているので口語調で書いてくる。それから主語がない。これは技術報告書としては最悪です。グローバル化を目指すという事で英語教育も大事ですが、論理的に説明をするという文書企画力とか、文書作成能力、これも含めてのコミュニケーション能力だと思ふ。この点は大学も同じ問題を抱えている。一緒にこの問題を解決するような取組をして頂きたい。豊橋は今年から国語学と国語表現法という科目を新設し全員必修にした。これは日本語で論理的に文章を書くための教科で、3 年生全員に課した。との発言に学校から、ご指摘の通りと感じている。最近の学生実験のレポートを見ると書いていない。手直しに時間を要している。ご指摘のとおり主語がない、話し言葉調になっている。本校ではレポートの添削、もう一つは毎週、隔週で実施している。卒業研究・専攻科研究での研究報告会でも報告書の指導を行っている。最終的には卒業論文、専攻科論文に繋げて行く。何重ものハードルを教育システムの中に盛り込んでいるが、だんだん困難で手間がかかっているという印象は拭えない。との報告があった。

議長から、これは大学でも一緒です。小学校、中学校、高校教育と、文章をきっちり書ける教育が一番重要かと思ふ、是非よろしくお願ひします。との発言でこの項目がしめられた。

【学生支援・生活支援等について】

委員から、カウンセリング室、学生キャリア支援室の設置は高く評価する。企業での生活支援等について、就

職してしまうと、忙しさを自分の将来の方向性を見失う従業員が多少見受けられ、与えられた仕事しかしない技術者も一定数いて、年代別の問題点を踏まえたキャリア教育を実施している。技術者としてどういったゴールを目指して会社の中で生きていくのが一番大事なポイントであり、キャリア支援はキャリアを考える癖を、学生の内から身に付けるのが非常に大事であり、また企業でもメンタル不調を発症する若者が一定数いて、会社に入って大体4、5年ぐらい経つと、メンタル不調で病欠に入るという従業員が一定数いる。悩み事とか、自分が抱えている問題を解決する術を知らないとメンタル不調になってしまう傾向があり、会社でもカウンセリングルームを運用して解決に当たらせているが、本来的に来てもらいたい従業員が来ない傾向がある。幅広く悩み等を解決する術を勉強させる機会を持って頂きたい旨の発言があった。これに対し学校から、メンタルへの取組について、学生生活支援室が中心に面倒を見ている。コミュニケーション能力の非常に乏しい学生。高専はその傾向が高い学生が多いように思われる。そういった学生がどうしてもクラスに馴染めないことから始まり、孤立してますます苦境に陥る事がある。そのような学生は、色々なカウンセリングに繋げる。もっと重篤な学生は、昨年度から配置した非常勤の精神科医に繋いでいく等、様々な対応をしている。就職した後にメンタル不調を起こす会社員の予備軍が高専にもいると思う。就職ができる学生には、今のところはそんなに目立たないという事かもしれない。その前の段階の学生で、我々が苦戦しているのが実態かと思う。との報告があった。続いてキャリア教育に関し次のような説明が行われた。

・キャリア教育カリキュラムに従って実施している。特にコミュニケーション能力について、低学年には、寮生活・クラブ活動等でコミュニケーション能力を養ってもらいたいと考え、キャリア教育のプログラムとしてコミュニケーション能力等は入れていない。上級生は、社会に出て行く・就職のための意識づけは、もちろん色々なプログラムとして実施し、他の学校全てのカリキュラムの中で、可能な範囲で可能な限りのキャリア教育は実施していると考えている。全国高専から見ても本校の学生支援の状況は、学生生活支援室長を筆頭に大変よく機能し、速く手を打っている。幸い本校はお世話をする学生数が、他の高専よりも少ない状況。全国的には、高専の自殺者が大学生に比べ異常に多い。昨年度は全国で約1万人の内15人。という問題を抱えている。その原因が結局よく分かっていない。一つは成績が割合優秀な学生が、ポンと成績が落ちた。就職試験に何回も失敗した等がある。それが原因になった自殺は、本校では起きていない。との報告がされた。

続いて委員から、計画書の都市計画上の課題について質問があり、記載理由について学校から、耐震の問題で、学生寮もその耐震の問題があり、都市計画上の基準に合うのかどうか、調査を踏まえて改修をお願いするという意味合いで、その記載になった旨説明があった。

(本日公務のため欠席の委員の意見が代読された。)

沼津版キャリア教育「沼津大志学習」には、いじめ・不登校の問題も大きくかかわっており、「沼津大志学習」では、いじめ・不登校の根本的な部分はどこにあるのかという事を国立教育政策研究所の研究成果から引用し、いじめ・不登校のどちらも根っこは社会性の未熟・未発達にあるという事が、国研の研究から分かっています。今の子どもたちは、親の過剰な庇護があり、両親、それぞれのおじいさん・おばあさんがいて、好きなものを買ってもらえるし、お小遣いもたくさんもらえる。こういう環境の中で、自分は何でもできるという感覚が生まれます。以前ならば、子どもの生活体験は、小さい時の家のお手伝いという労働主体として始まったのが、今の子どもは、邪魔だからお手伝いしなくていいよ、代わりにお金をあげるから何か買っておいでと、経済主体としてまず社会に参加する。そのあたりが、今の子どもたちの根本的な問題の一つであり、もう一つは、近所の異年齢集団の遊び仲間が今は消失している。少子化ですので、近所に同じ年代の子供自体が少ない。さらには、テレビゲーム、パソコンに向かって一人遊びをする事が多い。この三つが原因で社会性が低下している。社会性が低いので、一緒に遊んでいて友達に邪魔をされるのが「いやだ」と感じる子は不登校になり、邪魔させないと考える子はいじめに走る。根っこは同じ社会性の低下です。こういう子どもが非常に増えています。それを解決するために、「沼津大志学習」では「社会性」と自ら学び自ら考える力である「生きる力」の二つの育成を目指しています。補足して委員から、工藤教育長のお考えは、「沼津高専においても、社会性を育むために、たくましさを身につける場をより多く設定し、企業で働く大変さを乗り越えられる力をぜひつけてあげてほしい」。沼津高専の特徴である寮生活は、今失われている異年齢集団の非常に典型的なものであり非常によいものと考えます。寮生活により、協調性を育むとともに、親の庇護により甘く育てている部分を、適切な困難を乗り越える経験を積ませ、たくましさを身につけていく。そういう経験を取り入れ、社会に出てしっかり働ける人材を育成して頂きたい。これが工藤教育長のお考えです。との意見書が読み上げられた。これを受け学校から、本校の宝物に当たるのが寮であり、加えて専攻科が充実すると、研究室も異年齢で家族のように同じ釜の飯を食うという環境で、先輩、後輩、同級生がいて、生活の中心は研究室になり、そういう所でも社会性が出てくる。それも高専の良さの一つである。との説明がされた。

委員から高専生の社会性について、高専5年間同じ学科で同じ先生、寮にいても同じ面子。大学に来て環境が変わって、急におかしくなる場合がある。高専という社会の中での社会性は身に付くと思うが、外部との交流が少ない環境での社会性という事が懸念される。そういう意味で、積極的に外、別の団体、高専以外の団体と、混成チームを作るような取り組みを導入されると、先程から出ているコミュニケーション力の向上に繋がる。違う背景を持った人に、いかに伝えて合意を形成するかという話になる。これを実践するための場として対外、他流試合ではないが、試合ではなくて混成チームを作るという考え方のプログラムを考えて頂くと良いと思う。との発言に続き、他の委員から、沼津高専のキャリア教育について、最初に柳下校長の言われた精神、「低学年からやる」と、「就職間近の就活なんて腕の臥せもの」と。1年生からコミュニケーション力を育む、具体的には寮生活とか、色々な他業種等との交わりを含めたことを、これからもどんどん続けなければいけないと思う。との意見が出された。

【教育環境の整備・活用について】

委員から、新しく導入された備品等、大変素晴らしい設備が設置されている。大いに活用して単なる実験という事で終わらせず、色々な意味で科学の面白さとか、有効利用して大いに宣伝して欲しい。続いて、設備はこの地域の企業の方に、共同研究は使われると思うが、例えば、こういうものを測定して欲しいとかの場合に使える制度について質問があり、学校から、物によりけりとは思いますが、例えば今日見て頂いた3次元プリンターなどニーズはある。それを生業としている企業もあるので、我々としては年度計画で数回、造形を依頼された案件であれば、寄付研究・共同研究の名前にして実施する形で、近隣企業の支援はさせてもらう。機構からは、単位時間あたりいくら等の設定を、という指示が来ているが、まだ動いてないのが現状。との回答があった。続いて、大学関係の委員に豊橋技科大、静岡大学に次の質問がされた。大学では共同研究に、例えば単価基準を設けているか。基準、最低価格とか、企業規模によって等、そういう話はどうか。これに対し大学の委員から、内容によるが、基準はない。最低価格はないと思う。教員と企業との話し合いで決める。共同研究の場合には具体的な内容による。共同研究の内容、総額でどの程度のお金が掛るかによって共同研究の費用が決まる。企業の大きさで基準はなかなか作れないと思う。続いて他の委員から、すごく難しい。例えば共同研究という事で、現物を頂いて無償という場合もあり、そういう意味では最低価格、何を価格と呼ぶかだが、例えば特殊なものを開発した原料。それを使ってみてという場合は、ほとんど無料の場合もある。逆に言うと、大学の設備を使って試作して下さいと言う場合、その装置1時間当たりの単価がとりあえず決まっています、例えば大学が普通にデフォルトで持っているIPで作ってもいいのであれば、このぐらいの金額。あるいはプロセス開発という事だと、大体予測される時間からいくらという形になる。との回答がされ、学校から、その装置の1時間の単価というのがあるかとの質問に委員から、大学のセンターが決めたのは、原価償却費で決めた。それを生業にしている会社もあり、その金額で言ったら訴えられてしまう。私の場合はそこに、技術指導料を大分上乗せして、大体試作1工程で50万ぐらい。これはうちで持っている条件で言っている。開発になると別になり、度合いによる。完全に開発して試作する場合100万ではとんでもない。他の委員から、機器を使用する場合には機器使用料と言うことで、学内と学外とその単価が違い時間で決まる。時間と消耗品等、先ほど言われた経常費を含む。それは単価が決められる。技術相談料も時間で決まる。基準が決まっている。ただ共同研究費は、かなり自由度、内容に幅があるので、基準は決まっていない。との説明があった。続いて委員から、大変な労力を懸け、先生方が社会連携をするために非常に忙しい時間を割いて活動されているのがよく分かるが、百聞は一見にしかずと言う事もあり、いっその事来て頂いた方が良い。今回見せて頂いたが、こんな設備があるのなら、という話が必ず出てくると思う。提案は、県や市町村、商工会議所に仲介して頂き、内覧会を定期的に開くのも一つの考え方で、出来れば社長クラスを呼んで頂くと効果がある。我々もトヨタの会長に来て頂き、こんな設備あると思ってなかった、全面的バックアップするという事で協力頂いている。こういう効果があるので是非社長クラスを呼んで下さい。との意見が出され、学校から、第1回目5月17日お披露目会を、専攻科の改編と施設の見学会という事で催した。60名ぐらい参加頂き、すごい設備があるという感想が届いている。毎年12月に「テクノフォーラム in 沼津高専」を開催し、100名弱地域の方が見える。その折にも見学の機会を設ける事も考えられる。との報告がされた。

【小中学校と連携した理科教育の支援、社会人を対象とした地域技術者の育成などの、社会との連携に関する取り組みについて】

委員から、企業から見て、もう十分に役割を果たしていると感じる。取り組んだ事については、求める成果は何か、成果指標はどういう所に設定するのかという所をきちっとして、長い目で取り組みを評価して、更なる改善に繋げて頂ければ良いと思う。との発言があった。

【国際交流に関する事項】

委員から、高専リードで色々動いている事は非常に良い事だと思うが、国際交流という世の中の動きで言うと、オープンソース等。基本的には個人ベースで取り組めるベースが色々出てきている。皆さんの環境でも、インターネット等色々な環境が整っているという意味で、高専については、1年からは難しいかもしれないが、3・4・5年という一番元気のいいあたりは、自分の力で、また仲間と募って動ける環境があると思う。ぜひグローバルという事であれば、オープンソース等の英語が道具になると思うが、逆に言うと、技術と会話する道具だと思って使っていくという所に合致するものを作って行く方々は、ぜひ参加して頂く。そういうものを醸成する事を願っていた。との意見が出された。学校から、委員のご指摘の通りだと思うが、本校ではそこまで行っていないのが現実で、学校から紹介したものに学生が希望、応募してくるところだけで動いている。それを醸成するというのは、今後の課題にさせて頂きたい旨回答があった。

委員から、私費留学生獲得を推進するとの計画について懸念される事意見が出された。国費留学生の場合は、帰ると国でかなりポストが約束されていて、就職に対しての期間はかからない。一方私費の場合は、彼らが何を望むのかをしっかりと調べておかないと、例えば「帰ってから就職活動したいです」と言っても恐らく日本からは支援できない。大学でも帰って母国で就職活動しますという事になると、完全に我々の手を離れて勝手にやっています。その一方で彼らが日系企業、日本の企業に就職したいという事であればサポートする事は可能です。この辺をしっかりと調べ、目標をクリアにした上で増やさないと、やみくもに増やすと、先生方の負担が莫大な量に増える可能性がある。ここは少し考えて頂いたら良いと思う。そういう意味では、この事業に関わっていて、今色々な所に情報収集できる。長岡はタイに、豊橋もベナンとかベトナムに事務所を開設し、インドネシア、中国の東北大学にもある。静岡大学も、大学はかなり現地事務所を持っている。そこから情報を募って、少し分析をされた方がいいと思う。との意見が出された。学校から、「私費留学生獲得を推進する」という意味は、我々は全世界に向けて発信するという意味ではなく、あくまでも機構の枠内という考えで、機構は文科省からの指示で動いていると思うが、私費留学生を増やす、今後は政府の方針に沿ってという事です。機構から、私費留学生を受け入れるよう指導があり、機構から受け入れてと言われた場合は、分かりましたと手を挙げていきます。手を挙げていない高専はないですがそういう意味です。との回答がされた。委員から、事情は存じている。一抹の不安を感じるので、どこの高専も「はい」と手を上げざるを得ない状況に手を挙げていると思うが、上げてしまった後は、こういう事がありますよという事を指摘させて頂いた。との意見があり、学校から、今は私費がまだ一人も来ていないので何とも言えないが、確かに起こりうる問題で、我々だけで事前にリサーチするにも限界があるので、その時には心にとめて置きたいと思う旨発言があった。

委員から留学生の受け入れ年齢等について質問があり、現地では高校より上の二十歳ぐらいの年齢であることの説明がされた。続いて現在の留学生受入れ状況について、国費留学生とマレーシア政府派遣留学生。モンゴル、近々モンゴル政府派遣留学生を、機構全体で200名ほど受け入れる話があり、多分その学生はこちらに来ると思う。その留学生プラス私費です。との説明が行われた。

【管理運営に関する事項】

委員から、自殺といったメンタルヘルスの件が出てきました。私は産業カウンセラー資格を持つ立場から、現在3万人ぐらい国内で毎年自殺があり、年齢別に見ると60歳以上が一番多い。その次50歳以上、50歳、60歳台が一番多い。自殺の主な原因は健康問題。健康の中の精神的病が7割ぐらい、その内の7割がうつ病と言われているが、医者には掛っていない人にいきあたる。後で症状を聞くと、多分うつ病だったと推定をされているのが実態です。自分がおかしくなっても、病識がない人が多い。従って是非、先生同士お互いにチェックし合い、おかしいなと思ったら声を掛けてあげる事を日常的にしていかないと、なかなか自分で自分の事が分らない。悲しい事が起きてしまってから悔いても、どうしようもない。専門のカウンセラーを介しても構わないので、FD研修を含めてやっていく事が必要だと思う。との意見があり、学校から、教職員のメンタルヘルスも含め、毎月安全衛生委員会を開き、気になった人について挙げ、委員のご指摘の、メンタルヘルスばかりではなく、長時間労働等についても、コンピュータへのログイン・ログアウトを基にした勤務時間把握により、問題となる教員には、校長、産業医と面談して頂く等の対応をしている。事前にそういう事が起こらないような仕組みを作っている。との説明がされた。

委員から、現在厚生労働省がメンタル不調を起こす最大の原因は何かという三つを挙げている。一つは職場の人間関係。これがダントツに多い。次に仕事の量、三番目に仕事の質。職場の人間関係からメンタル不調を起こす事が統計的にでている。先生方も個室を持っているので、皆でお互いのコミュニケーションを図りながら、お互い気付きチェックをする事を、色々な場面を想定した研修会をやる事も必要だと思う。との意見が出され、学

校から、6学科あり学科長が若い人上の人達も含めてよく意見を聞いたり、相談に乗ったりしている。学科長が潤滑油的な役目を担ってくれていると認識している。との報告がされた。

委員から、以前新聞で、教職員の方々の過度な体の使い方が心配という記事が載っていた。自分の専門の仕事以外に色々な業務が多く、かなり時間を費やして夜9時10時と載っていたが、非常に色々な計画等大変だと思うが、少しでも軽くなって、自分の事に集中出来る環境を整えてもらえるよう希望します。との意見が出された。

学校から、本当に多様な要求が出てきている。各委員からも地域との連携、小中学校への貢献に加え、保護者との記録に残せない対応等、非常に難しくなっている。業務だけではなくメンタルヘルス的なことも、教員はメチャメチャだと思っている。仕事量は本当に多い。外部評価、JABEE の評価、認証評価もあり、何重にも評価に対応しなければならない。評価に対応するための資料を作るのにも、相当な時間が必要になる。学校に求められる事は本当に多様になってきている。その全部を先生方に投げない様に考えている。例えばモデルコアカリキュラムも、機構はガンガン言ってくる、機構から叩かれるのは校長と私だと腹をくくりそういう事を止めている。教職員の負担を軽減するのは、一心に私の責任だと思ってやっている。本当に毎月々の安全衛生委員会に上がってくる教員の勤務実態というのは、背筋が凍るほどで、過酷な勤務を先生方やっている状況で、本当に申し訳ないと感じている。との報告があり、議長から、大変な状況というのは伝わるが、今後ともよろしく願いいたします。との発言があった。

【その他本校の教育・研究活動に関する自由討議】

議長から、総合所感という形で最後の方に出てきている。ここを中心にしてそれぞれ委員の方から、簡単に総合所感の所の意見を披露して頂き、終わりにしたいと思う。との発言があり、各委員から次の意見が出された。

・全体的に非常に頑張っておられる。表を見させて頂いたが、出来るものは出来る、出来ないものは出来ないで、皆さんの負担が増えないで、実があるような形で進めて頂きたいと思う。今後日本の産業構造は変わっていく。製造業も今どんどん外に出ている実態がある。その事を踏まえ、先ほど柳下校長が、「沼津高専は安泰ではない」と言っておられたので、この三期計画の遂行は粛々とやりつつも、その後の沼津高専長期ビジョンをタスクフォースではないが、少しずつでいいので5年間かけて検討していくような取り組みをして頂ければ、慌てて対応しなくてもよいと思う。

・ここ数年同じような話をさせて頂いているが、高校相当の年齢から、理科系の研究とか、実践を伴って行く事、高専は非常によく出来ている。受験勉強、もちろん中学から高専に入るのは大変だが、就職も加味しながら大学受験するのと比べ、そういう壁がなくて入ってくるというのは非常にいいと思う。是非人数を増やして欲しいと毎回言っている。しかし、これは機構を含めて難しい事とすると、今日静大に来て頂いた事を含めて、大学と高校がうまく繋がって、色々な策でこの年齢をうまく使っていく、それで育てると言う事をやって頂く。その面で言うと、もう一つは、多感な時期で色々な意味で壁にぶつかる事もあるが、逆に文科系だと色々な知識を多様に持っていて、悪く言えば、これでうまくいかなくても、こっち側で楽しめればいいという余裕が出てくると思う。また先ほどから色々出ている文章力は、エンジニアにとって必須のものだと思う。そう言うものを育てるという場として我々もお手伝い出来る事は、いくらでもお手伝いするので、是非今後ともよろしく願いたい。

・今回委員をさせて頂き、沼津高専は色々な時代の要請に応じた改革に、非常によく取り組んでいると感じている。それだけに、色々な改革をしたからには、その改革が狙い通りの成果を生んでいるのかどうか、一番求められるのは、成果指標は何で、それに対してどうだったのかを必ず求められる。色々な改革、素晴らしい改革に取り組んでいるので、成果指標をきちんと設定した上で3年後、5年後に、成果を産んでいるかどうかをきちんと評価して頂ければ、なお評価は高まると感じている。

・(代読) 東海大学が沼津から撤退し、専攻科を持つ沼津高専は沼津で唯一の大学であり、沼津の誇りであると考えている。沼津の教育界としては、これからも沼津高専には、大いに期待していきたい。この数年の改革が非常に良いものだという事を、これからも市内で訴え続けていきたい。是非よろしく願います。

・沼津高専の改革は、本当に素晴らしいと思う。門池中の校長としましては、門池地区には沼津高専を筆頭に、沼津東高校、暁秀高校、沼津城北高校と中学生にとって魅力的な学校が沢山あるところです。ぜひ、沼津高専をはじめとする門池地区の上級学校と連携したキャリア教育をより一層推進する事により、大きな志を持つ中学生を育み、沼津高専に送り出していきたいと思う。これからもご協力をよろしく願います。

・ここ2、3年、1期生で卒業した事を本当に誇りに思う。よくぞここまで学校として伸びてきたとうれしく思う。去年もそうでしたが、今母校は一体何を問題として抱え、何を一番必要としているかが、やる事やデータ量が多すぎて、よく分からないのが実感。機構の指示もあると思うが、今、何をしようとして、何が足りないか、私達にも分かり易くなると、より協力すべき点が分かってくる。同窓会も限りないご支援をしようと思っている。

・教育後援会は一年で役員が入れ替わり、来年私は交代して出てきませんが、今日は出席させて頂き、皆さん真剣に学校のために様々な事を考えていると強く感じた。これからも是非、沼津高専が静岡県東部地区だけでなく、県内、近隣の県まで幅広く名前が知れ渡り、大いに優秀な学生が集まるように期待している。年度計画とか読むだけで疲れてしまう書類を久しぶりに見た。本当に大変な事だと思うが、なるべく集中してこれを具体化し、体を壊さないように是非頑張ってくださいと思う。

・今日見学させて頂き、非常に充実した設備があり、実験の様子も見させて頂き、学生さん一生懸命やっていると感じた。私も高専卒ですので、高専の制度は、非常にいい制度だと思っている。中学校を卒業して一番多感な時期を、高専の中で過ごして、自分の専門性を磨いていくのは、非常に有効だと思う。その後に色々なキャリアがある。ある卒業生は大学の先生になる。また、企業の中で、部長、あるいは社長になる人もいる。あるいは自分の所で、家業を継いでいく人もいる。という形で色々な進路がある。それを是非、中学生にも分かるようにして欲しい。沼津高専は、非常に充実している。

・先ほども出ましたが、短時間の中で議論するには、年度計画がものすごく沢山あり、全部見て、一つの項目毎にどうなっているかを見る。これはあまりにも効率が悪い感じがする。年度計画を高専の方で、今年度はこれをやるという事でまとめて頂き、集中的にここで議論できれば、先ほど村松委員からのご意見等に対応できると思う。計画は計画として絶対作らないといけない。それは必要ですが、例えば議論する場合には、今年度の要点を絞って議論できるような形にすれば、この運営諮問委員会も、もっと有意義な議論になると感じる。もう一つは、高専機構と各高専という関係があり、話を聞いて初めて分かったが、高専機構で、中期目標、中期計画、年度計画も作っている。それに応じ沿った形で、各高専がやる形です。その時、沼津高専の特徴との関係が分かると、我々も見方がまた違う感じがする、そのあたりを来年度に向けて工夫して頂ければと思う。

以上

運営諮問会議報告書

—平成 25 年度年度計画自己点検評価の検証／平成 26 年度年度計画—
(平成 27 年 3 月発行)

沼津工業高等専門学校 総務課

〒410-8501 沼津市大岡 3600

TEL 055-926-5856

Fax 055-926-5700

URL <http://www.numazu-ct.ac.jp>